

**令和 6 年度**

**河川水辺の国勢調査結果の概要(事務局  
案)**

**[ダム湖版]**

**(生物調査編)**

**<鳥類調査結果>**

**令和 8 年 3 月 23 日時点**

# 目次

5. 鳥類調査の概要 .....	5-1
5.1 調査結果の概要 .....	5-1
(1) 確認種数 .....	5-1
(2) 重要種 .....	5-1
(3) 国外外来種 .....	5-1
1) 国外外来種の確認状況 .....	5-1
5.2 生物多様性 .....	5-7
(1) ダム湖周辺環境の指標となる猛禽類の確認状況 .....	5-7
(2) 国外外来種の分布状況（生物多様性への攪乱） .....	5-29
5.3 注目すべき種の分布状況 .....	5-37
(1) ダム湖を休息場・採餌場として利用する鳥類の把握 .....	5-37
(2) ダム湖を利用する猛禽類の確認状況 .....	5-39
(3) 内水面漁業と関わりのある鳥（カワウ）の確認状況 .....	5-45
5.4 ダム管理との関わり（ダム湖周辺の生物相） .....	5-50
(1) ダム湖周辺を利用して繁殖する鳥類 .....	5-50
(2) 新しい環境の生物相 .....	5-53
1) 地形改変箇所における確認状況 .....	5-53
2) 環境創出箇所における確認状況 .....	5-59
・分析対象種の確認ダムの経年比較【鳥類】 .....	5-67
・令和6年度河川水辺の国勢調査〔ダム湖版〕とりまとめ対象ダム 現地調査実施状況（鳥類）	
・令和6年度 とりまとめ対象水系（ダム）位置図（鳥類）	

## 5. 鳥類調査の概要

### 5.1 調査結果の概要

#### (1) 確認種数

令和6年度に鳥類調査が実施された19ダムにおいて、17目48科172種の鳥類が確認されました。「日本鳥類目録改訂第8版」(日本鳥学会, 2024)には、日本鳥類目録と国内で繁殖記録のある外来種として690種が掲載されており、今回の確認種数は、その約24.9%に相当します。

調査を実施した19ダムのうち、確認種数が多かったのは、東北の御所ダムで106種、東北の四十四田ダムで102種、東北の鳴子ダムで99種でした。19ダム全てで確認された種は、マガモ、キジバト、トビ、コゲラ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、カワガラス、キビタキ、キセキレイ、カラヒワ、ホオジロ、アオジの19種でした。

#### (2) 重要種

今回とりまとめを行った19ダムでは、14科27種の重要種<sup>注)</sup>が確認されました。

確認された重要種のうち、レッドリストのランクごとの内訳をみると、絶滅危惧IA類(CR)に該当する種は、シジュウカラガン、キンメフクロウの2種、絶滅危惧IB類(EN)に該当する種は、イヌワシ、クマタカ、ヤイロチョウの3種が確認されました。

#### 注) 重要種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を重要種としました。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物および緊急指定種
- ・「環境省レッドリスト2020の公表について(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)」(環境省レッドリスト2020: 令和2年3月27日報道発表資料)

絶滅危惧IA類(CR): ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

絶滅危惧IB類(EN): IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種

絶滅危惧II類(VU): 絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧(NT): 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

情報不足(DD): 評価するだけの情報が不足している種

絶滅のおそれのある地域個体群(LP): 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

#### (3) 国外外来種

##### 1) 国外外来種の確認状況

今回とりまとめを行った19ダムでは、コジュケイ、カワラバト(ドバト)、サンジャク、ガビチョウ、ソウシチョウの4科5種の国外外来種<sup>注1)</sup>が確認されました。なお、サンジャクは近年、四国で分布が拡大しており、四国の中筋川ダム、横瀬川ダムで確認されました。

外来生物法において特定外来生物<sup>注2)</sup>に指定されている種としては、ガビチョウが2ダムで、ソウシチョウが4ダムで確認されました。なお、2種ともに生態系被害防止外来種リスト<sup>注3)</sup>の「総合的な対策が必要な外来種」にも選定されています。

(注) 国外外来種の選定基準について

注1) 外来種とは、本来その生物が生息していない地域に貿易や人の移動等を介して意図的・非意図









表 5-3 鳥類国外外来種一覧（令和 6 年度）

No.	目名	科名	種名	学名	国外外来種	北海道										東北					中国	四国	九州	確認ダム数						
						大 雪 ダ ム	忠 別 ダ ム	金 山 ダ ム	滝 里 ダ ム	桂 沢 ダ ム	漁 川 ダ ム	豊 平 峽 ダ ム	定 山 溪 ダ ム	夕 張 シ ュ ー パ ロ ダ ム	四 十 四 田 ダ ム	御 所 ダ ム	田 瀬 ダ ム	湯 田 ダ ム	胆 沢 ダ ム	鳴 子 ダ ム	菅 沢 ダ ム	中 筋 川 ダ ム	横 瀬 川 ダ ム		竜 門 ダ ム					
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	外来種																			●	●	●	3			
2	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	<i>Columba livia</i>	外来種						●										●							●	4	
3	スズメ目	カラス科	サンジャク	<i>Urocissa erythrorhyncha</i>	外来種																					●	●		2	
4		チメドリ科	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	特定/総合対策（重点）																							●	2	
5			ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	特定/総合対策（重点）																					●	●	●	●	4
合計	3目	4科	5種		5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	3	3	4	4	—			

注) ●は確認を示す。

凡例)

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（以下「特定外来生物法）」指定種

特定外来：「特定外来生物法」における特定外来生物

未判定：「特定外来生物法」における未判定外来生物

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（以下「生態系被害防止外来種リスト）」掲載種

定着予防（侵入予防）：国内に未侵入・未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、特に国内への侵入を未然に防ぐ必要がある外来種。

定着予防（その他）：侵入の情報はあがるが、国内に未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、早期防除が必要な外来種。

総合対策（緊急）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急性が高く、積極的に防除が必要な外来種。

総合対策（重点）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、甚大な被害が予想される重点的に対策が必要な外来種。

総合対策（その他）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急、重点に該当しない種。

産業管理：産業又は公益的役割において重要であり、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。

「日本鳥類目録 改訂第 7 版」において国内で繁殖記録のある外来種のリスト掲載種

外来種：国内で繁殖記録のある外来種（「Part B 種・亜種」掲載種）

## 5.2 生物多様性

### (1) ダム湖周辺環境の指標となる猛禽類の確認状況

ここでは、食物連鎖の上位に位置する生物種の生息状況が、下位に位置する生物を含めた地域の生態系の指標となるという観点から、ダムのある山間地域を生息の場とする猛禽類のオオタカ、イヌワシ、クマタカ、ハヤブサについて、ダム湖周辺環境における確認状況を整理しました。また参考として、オオワシ、オジロワシの確認状況も整理しました。

なお、1～4 巡目との比較は、調査の範囲や時期、回数等の条件が必ずしも同一ではありません。比較結果は同一ダムでの消長を示すものではなく、全国的な傾向を検討するための参考です。

・今回分析対象とした 19 ダムでは、オオタカ、イヌワシ、クマタカ、ハヤブサ、オオワシ、オジロワシのいずれかを確認

猛禽類は食物連鎖の上位に位置することから、地域の生態系の指標となります。

ダムのある山間地域やダム湖周辺等を採餌・生息の場とする猛禽類であるオオタカが 19 ダム中 13 ダムで、イヌワシが 1 ダムで、クマタカが 16 ダムで、ハヤブサが 12 ダム、オオワシが 7 ダム、オジロワシが 12 ダムで確認されました。

表 5-4 指標となる猛禽類の確認ダム数の巡目比較

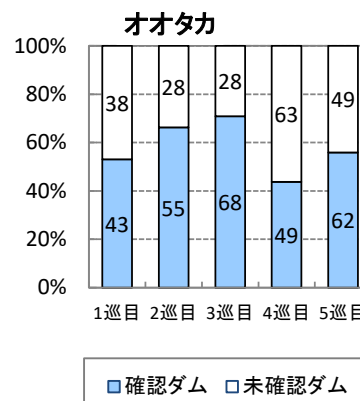
種名		1 巡目調査 (81 ダム)	2 巡目調査 (83 ダム)	3 巡目調査 (96 ダム)	4 巡目調査 (112 ダム)	5 巡目調査 (111 ダム)	今回 確認
留 鳥	オオタカ	43 ダム [53.1%]	55 ダム [66.3%]	68 ダム [70.8%]	49 ダム [43.8%]	62 ダム [55.9%]	○
	イヌワシ	7 ダム [8.6%]	12 ダム [14.4%]	12 ダム [12.5%]	6 ダム [5.4%]	6 ダム [5.4%]	○
	クマタカ	35 ダム [43.2%]	48 ダム [57.8%]	53 ダム [55.2%]	64 ダム [57.1%]	81 ダム [73.0%]	○
	ハヤブサ	12 ダム [14.8%]	20 ダム [24.1%]	41 ダム [41.8%]	43 ダム [38.4%]	66 ダム [59.5%]	○
渡り の鳥	オオワシ	4 ダム [4.9%]	3 ダム [3.6%]	7 ダム [7.3%]	9 ダム [8.0%]	13 ダム [11.7%]	○
	オジロワシ	13 ダム [16.0%]	15 ダム [18.1%]	20 ダム [20.8%]	23 ダム [20.5%]	28 ダム [25.2%]	○

※ ( )内は各巡目において調査を実施しているダムの数を示す。巡目の途中から調査を行っていたり、途中の年度を調査していないダムがあるため、巡目毎の調査ダム数は同じではない。

※ [ ]内は確認ダム数の対象ダム数に対する%を示す。

今回とりまとめを行った 19 ダムで、オオタカ、イヌワシ、クマタカ、ハヤブサ、オオワシ、オジロワシのいずれかを確認しました。

なお、国内外の絶滅のおそれのある野生生物を保護するため「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法)が平成 5(1993)年 4 月に制定された後、環境省等により猛禽類の調査マニュアルが整備され、猛禽類調査が実施されたことから、猛禽類が確認されたダムの割合は 1 巡目より 2 巡目以降の方が高くなったものと考えられます。また、今回とりまとめ対象としたダムのうち、夕張シューパロダム、横瀬川ダムは、河川水辺の国勢調査を初めて実施したダムです。すべての種は初めての確認となりますので、過年度との比較は行っていません。



※グラフ中の数字はダム数

オオタカは、今回取りまとめを行った19ダムのうち13ダムで確認されました。北海道の大雪ダム、滝里ダム、桂沢ダム、漁川ダム、定山溪ダム、夕張スーパーパロダム、東北の四十四田ダム、御所ダム、田瀬ダム、鳴子ダム、四国の中筋川ダム、横瀬川ダム、九州の竜門ダムで確認されましたが、4巡目で確認されていた北海道の忠別ダム、3巡目まで確認されていた北海道の金山ダム、豊平峡ダム、東北の湯田ダム、胆沢ダム、中国の菅沢ダムでは、今回は確認されませんでした。オオタカは環境省のレッドリストで準絶滅危惧に指定されており、陸域環境を保全する上で注目される種であり、北海道から九州まで分布する種で、稀な旅鳥・冬鳥として沖縄にも飛来します。オオタカは主な餌は小型の鳥類で、リス等の小型哺乳類も捕食します。

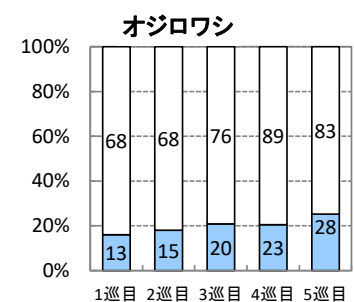
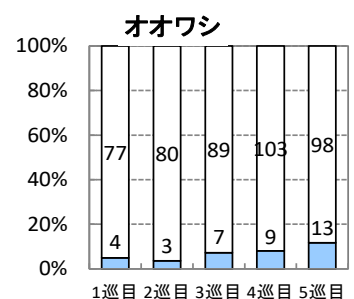
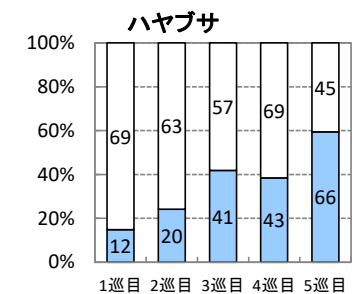
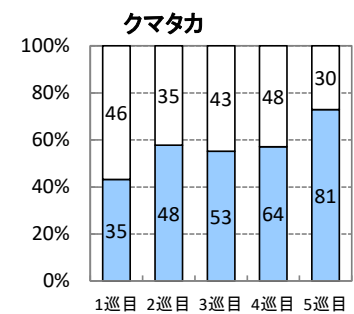
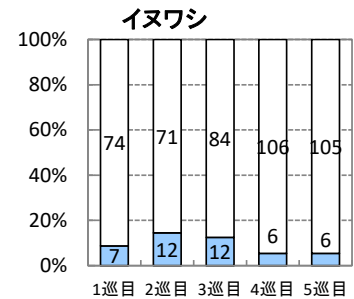
イヌワシは、今回取りまとめを行った19ダムのうち1ダムで確認されました。東北の湯田ダムで4巡目に続いて確認されましたが、2巡目で確認があった東北の鳴子ダムでは確認されませんでした。

クマタカは、今回取りまとめを行った19ダムのうち16ダムで確認されました。北海道の大雪ダム、東北の田瀬ダムでは、河川水辺での国勢調査で初めて確認されました。4巡目で確認されていた北海道の忠別ダム、2巡目まで確認されていた東北の御所ダム、四国の中筋川ダムでは、今回は確認されませんでした。

クマタカ、イヌワシは、陸域環境を保全する上で注目される種であり、北海道から九州まで分布する種です。環境省のレッドリストで絶滅危惧ⅠB類に指定されており、小型～中型哺乳類、小型から中型の鳥類やヘビ類等を主な餌とする高次捕食者です。

ハヤブサは、今回取りまとめを行った19ダムのうち12ダムで確認されました。北海道の忠別ダム、桂沢ダム、東北の四十四田ダム、鳴子ダムでは、河川水辺での国勢調査で初めて確認されました。北海道の豊平峡ダムでは2巡目を除く全巡目、東北の御所ダムでは4巡目以降、東北の田瀬ダムでは3巡目以降、北海道の漁川ダム、東北の湯田ダムでは4巡目以降で、連続して確認されています。

ハヤブサは海岸や河川等の開けたところに生息し、崖や岩棚に営巣します。小型から中型の鳥類を捕食する中型猛禽類であり、北海道から九州まで分布する種で、稀な旅鳥・冬鳥として沖縄にも飛来します。環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。



■ 確認ダム □ 未確認ダム

※グラフ中の数字はダム数

オオワシは、今回取りまとめを行った 19 ダムのうち 7 ダムで確認されました。北海道の漁川ダム、豊平峡ダムでは、河川水辺の国勢調査で初めて確認されました。北海道の大雪山ダム、滝里ダムでは、3 巡目以降連続して確認されています。

オオワシは、ロシア極東ベーリング海沿岸部等で繁殖し、越冬のため北海道や本州北部・中部に飛来します。大型魚を主な餌としています。水鳥や哺乳類の漂着死体も捕食します。環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

オジロワシは、今回取りまとめを行った 19 ダムのうち 12 ダムで確認されました。北海道の金山ダム、桂川ダムでは 2 巡目以降、北海道の滝里ダム、漁川ダム、東北の御所ダムでは 3 巡目以降、東北の四十四田ダムでは 1 巡目以降連続して確認されました。

オジロワシは、ロシア極東地方や北海道でも繁殖します。海岸や湖沼周辺、河川流域の大木に営巣します。冬季には越冬のため本州北部～中部に飛来し、九州には少数飛来します。最近、北海道では人間の活動圏近くで営巣するつがいも増え、営巣地はやや増加傾向にありますが、繁殖は必ずしも安定していません。環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

オオタカ、イヌワシ、クマタカ、ハヤブサ、オジロワシ、オオワシの確認・未確認ダムについて Fisher の正確確率検定を行ったところ、クマタカおよびハヤブサの 2 種については増加傾向にあることが判りました (クマタカ  $p=0.0012$ 、ハヤブサ  $p<0.0001$ )。

クマタカが増加傾向にあるのは、生息に適した樹林環境がダム湖周辺において維持されていること、ハヤブサが増加傾向にあるのは、ダム湖等の狩りに適した開放空間の創出や、ダム周辺の崖地や人工構造物等が営巣環境として存在していることなどが、それぞれの要因として考えられます。

なお、猛禽類は小鳥類より多くの餌を必要とすることから、猛禽類が生息・繁殖するためには、餌となる生物が豊富に生息している環境が存在することが重要です。ダム湖周辺の環境が猛禽類の生息環境として適切であるか、今後も継続して確認していく必要があります。

オオタカ



四十四田ダム (R6. 12. 12)

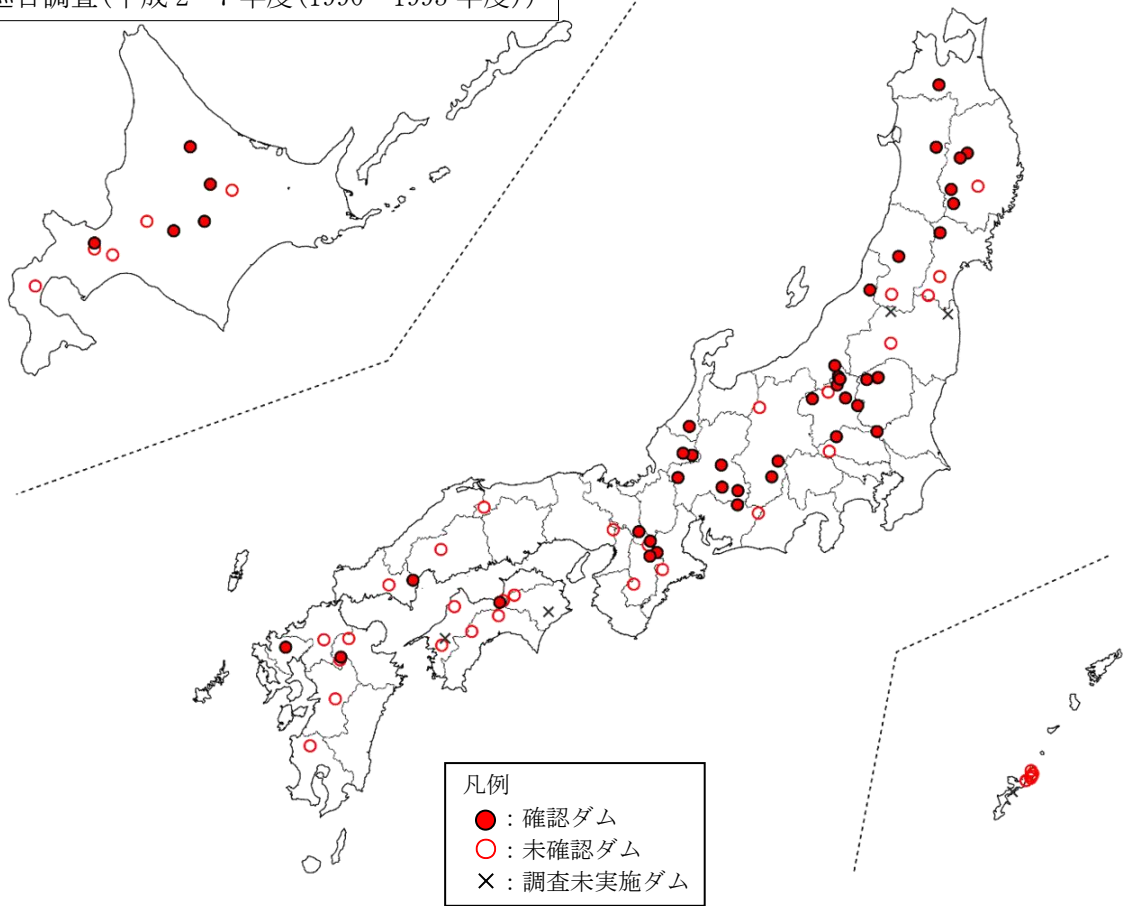
クマタカ



桂沢ダム (R6. 10. 24)



1 巡目調査(平成 2～7 年度(1990～1995 年度))



2 巡目調査(平成 8～12 年度(1996～2000 年度))

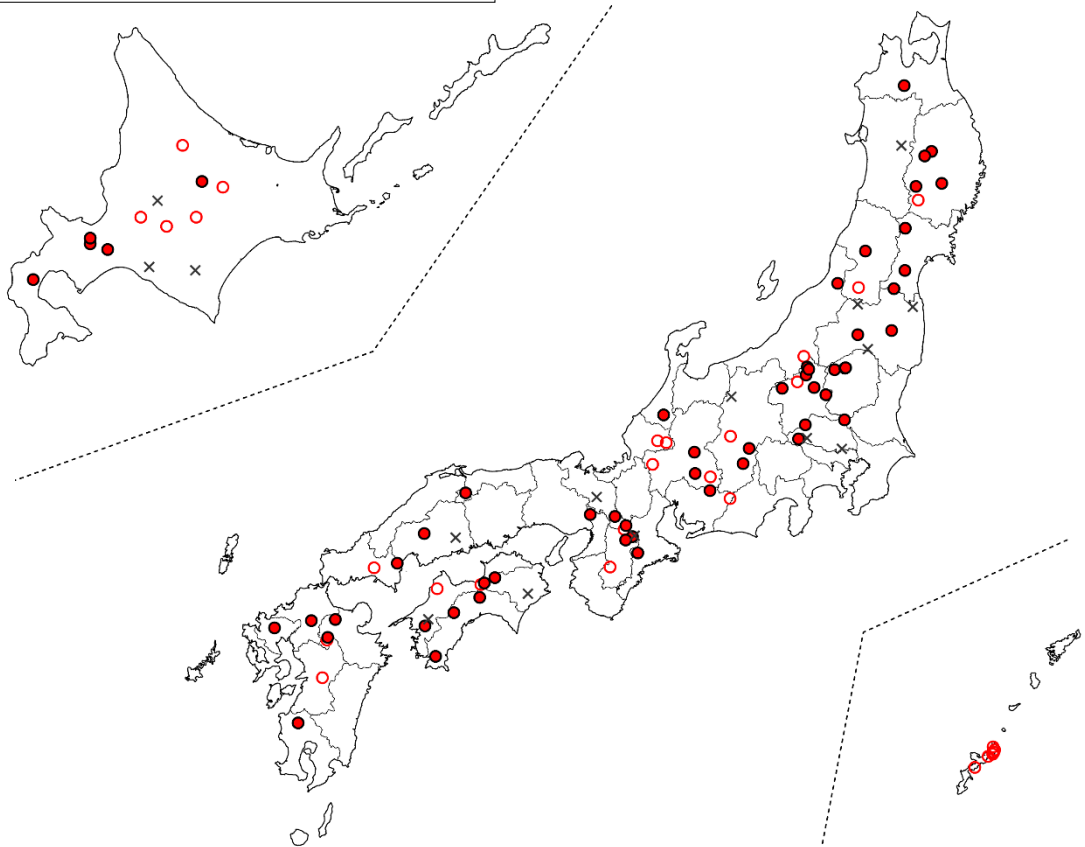
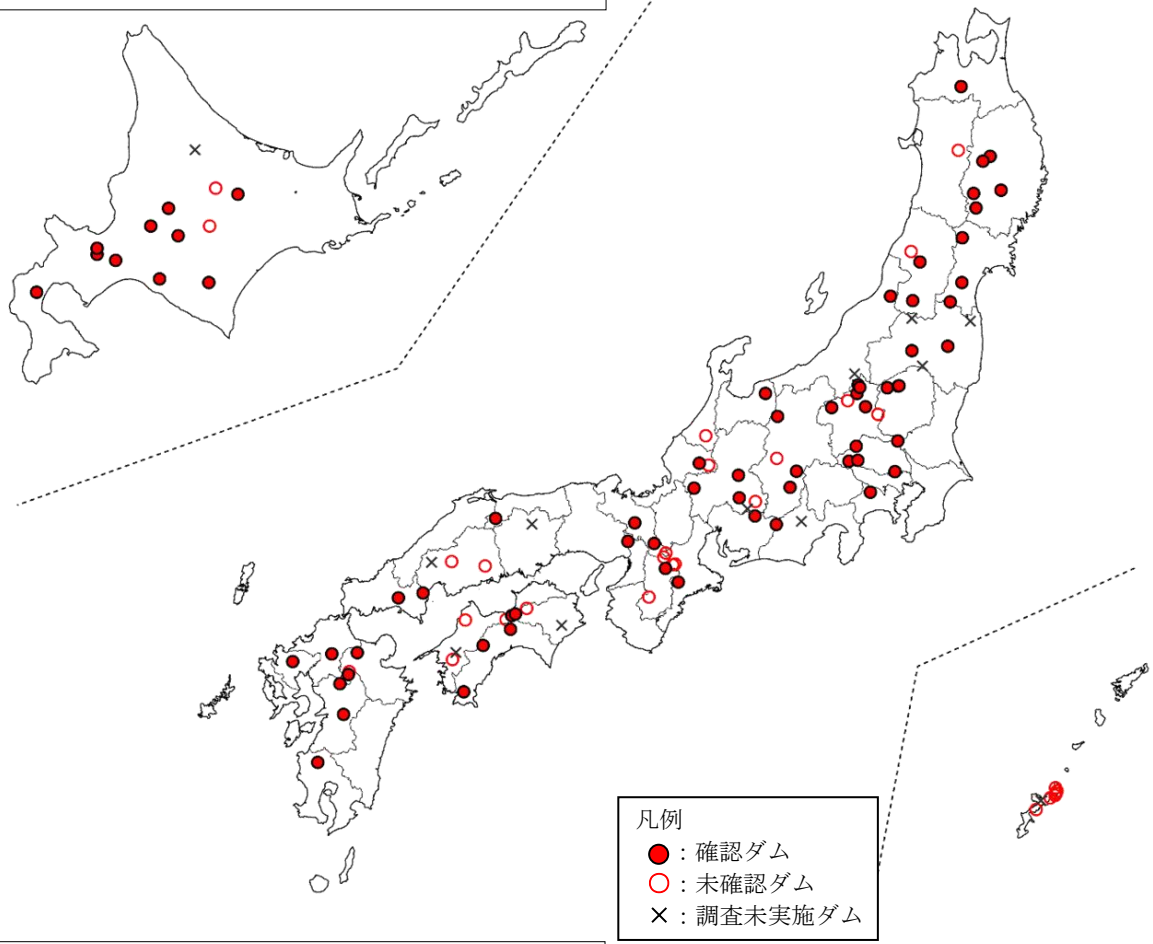


図 5-2 オオタカの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3巡目調査(平成13～17年度(2001～2005年度))



4巡目調査(平成18～27年度(2006～2015年度))

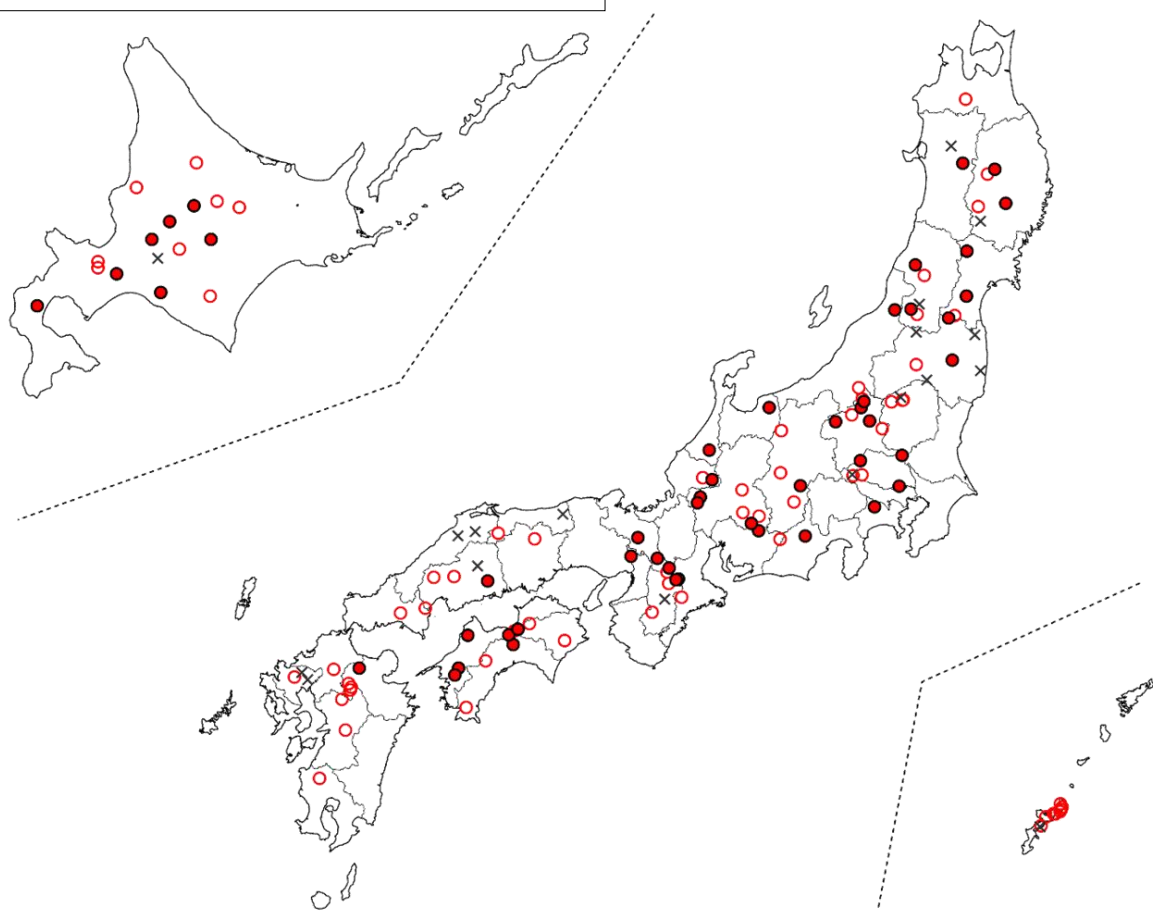


図 5-3 オオタカの確認状況 (3巡目調査、4巡目調査)

5巡目調査(平成28～令和6年度(2016～2024年度))

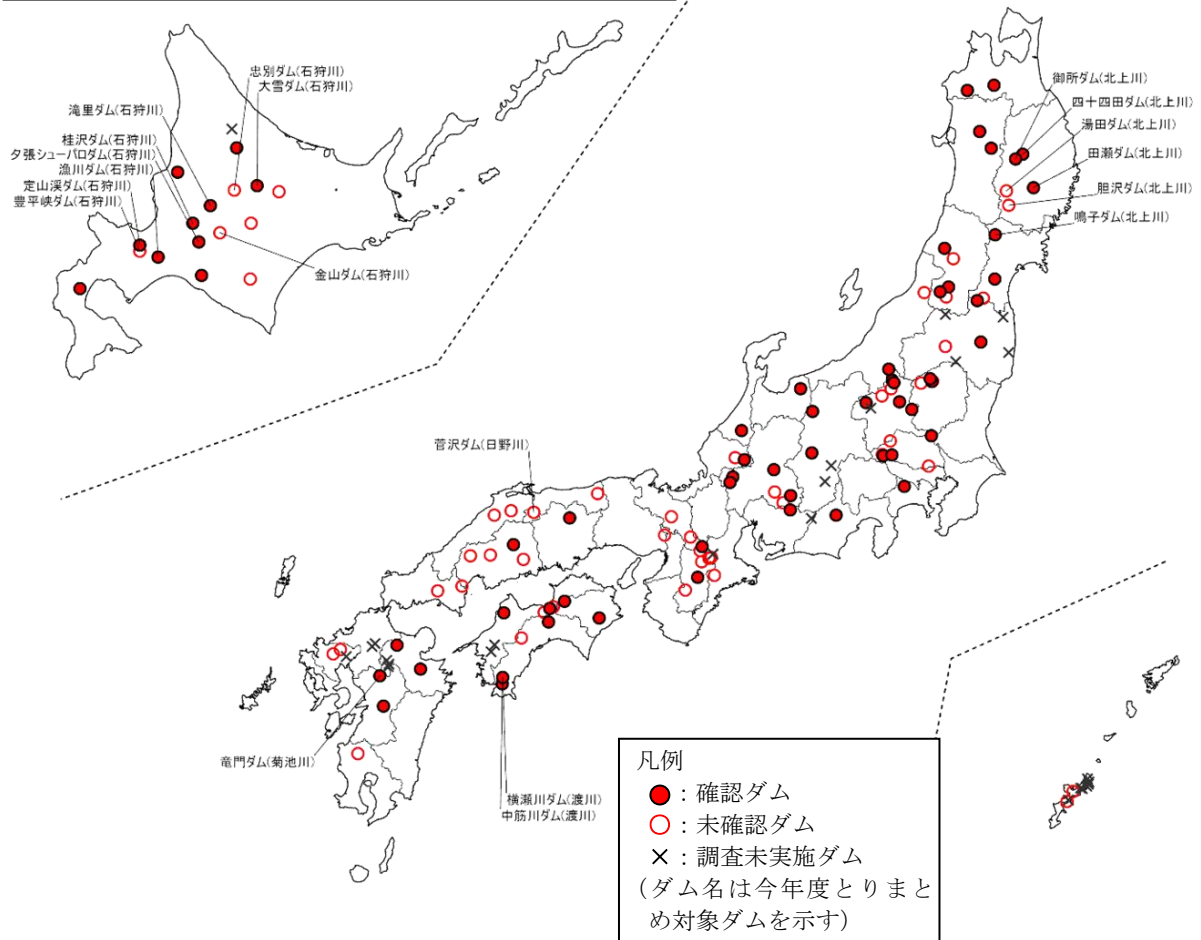
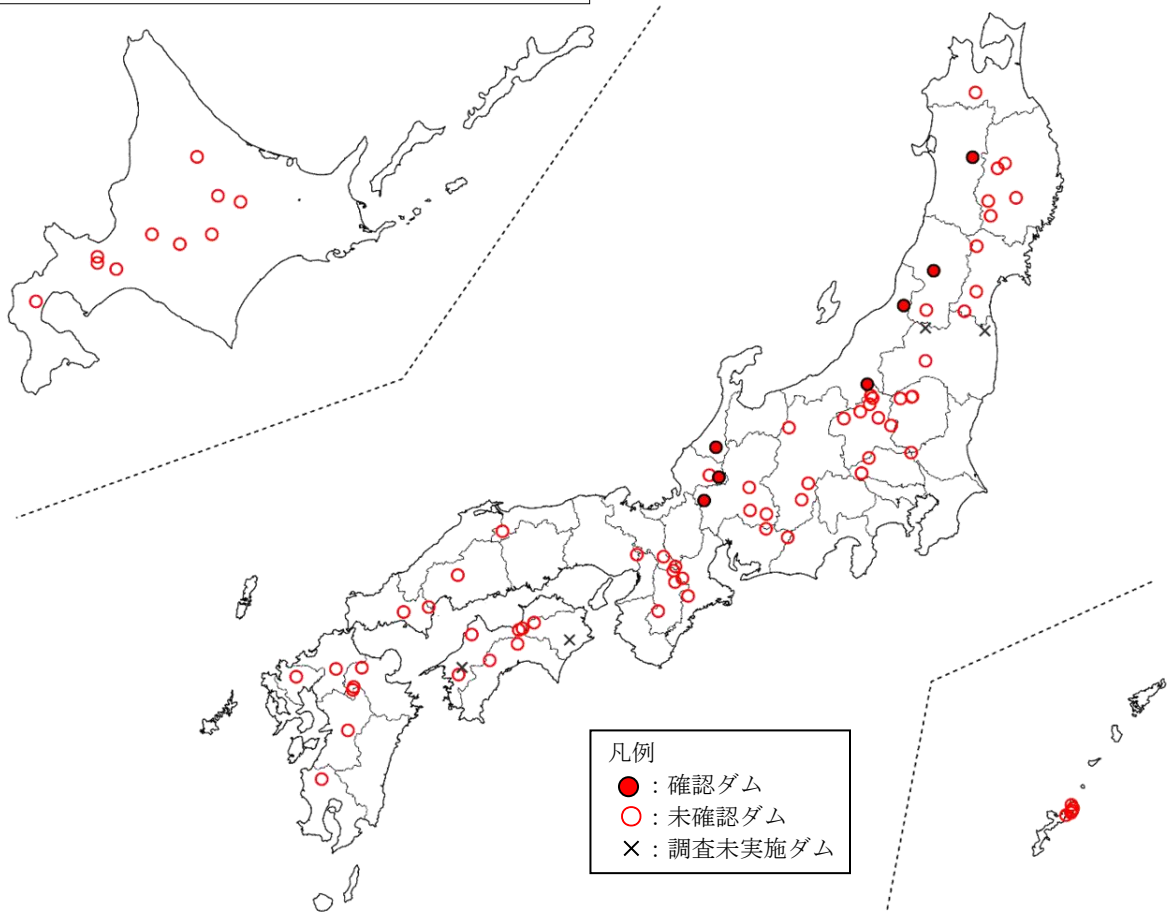


図 5-4 オオタカの確認状況 (5 巡目調査)

1 巡目調査(平成 2～7 年度(1990～1995 年度))



2 巡目調査(平成 8～12 年度(1996～2000 年度))

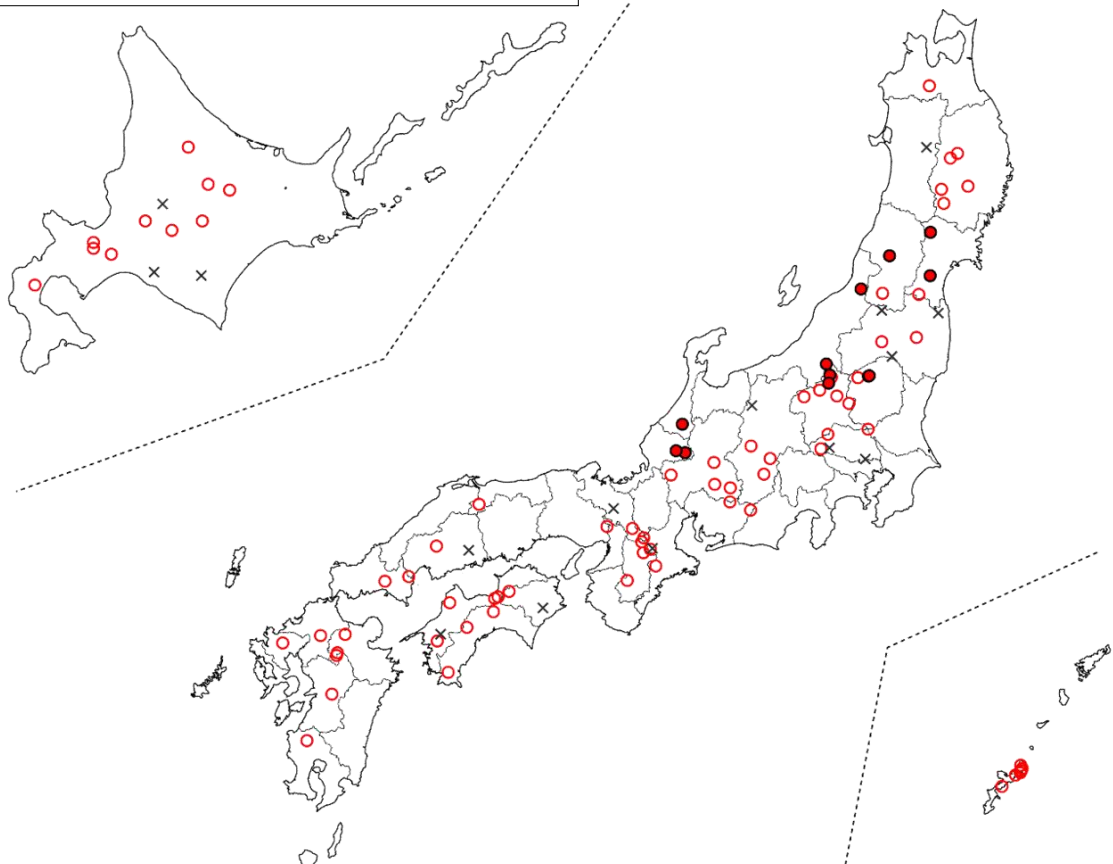
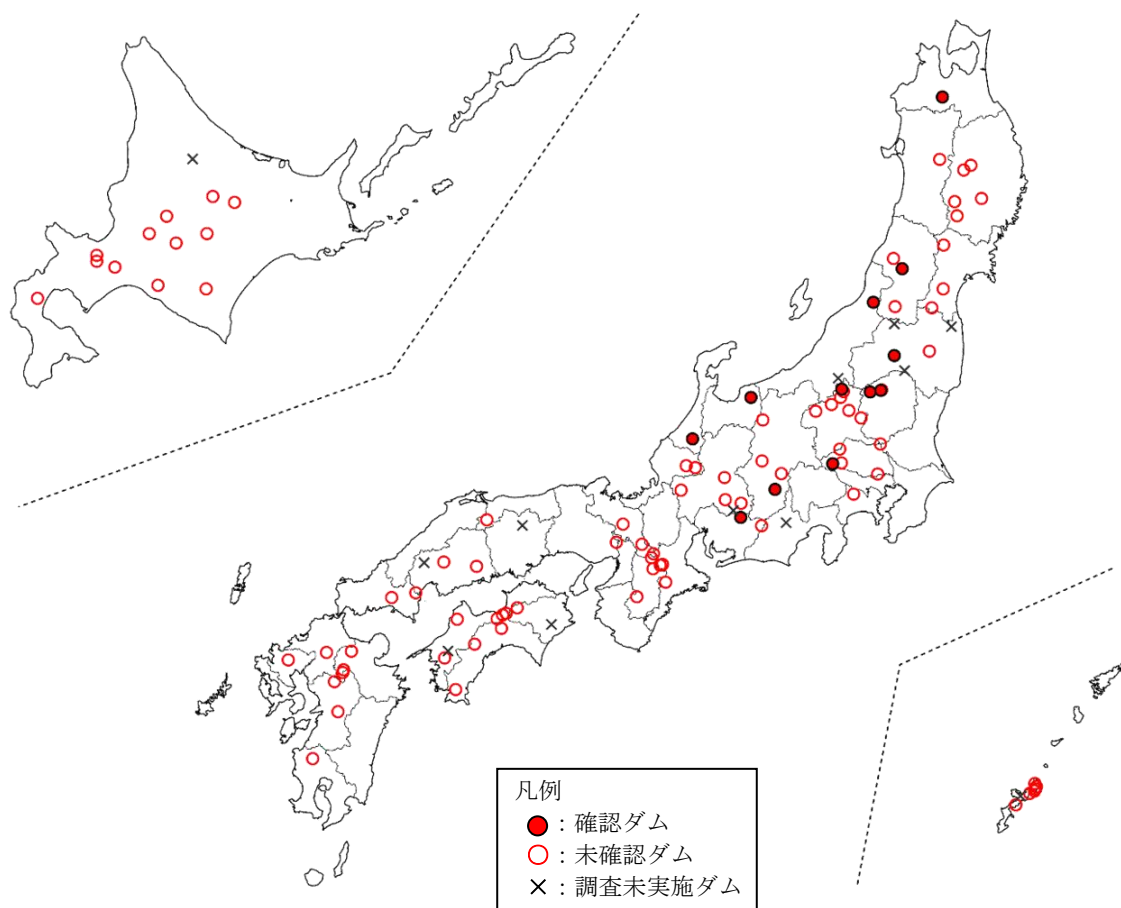


図 5-5 イヌワシの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3巡目調査(平成13～17年度(2001～2005年度))



4巡目調査(平成18～27年度(2006～2015年度))

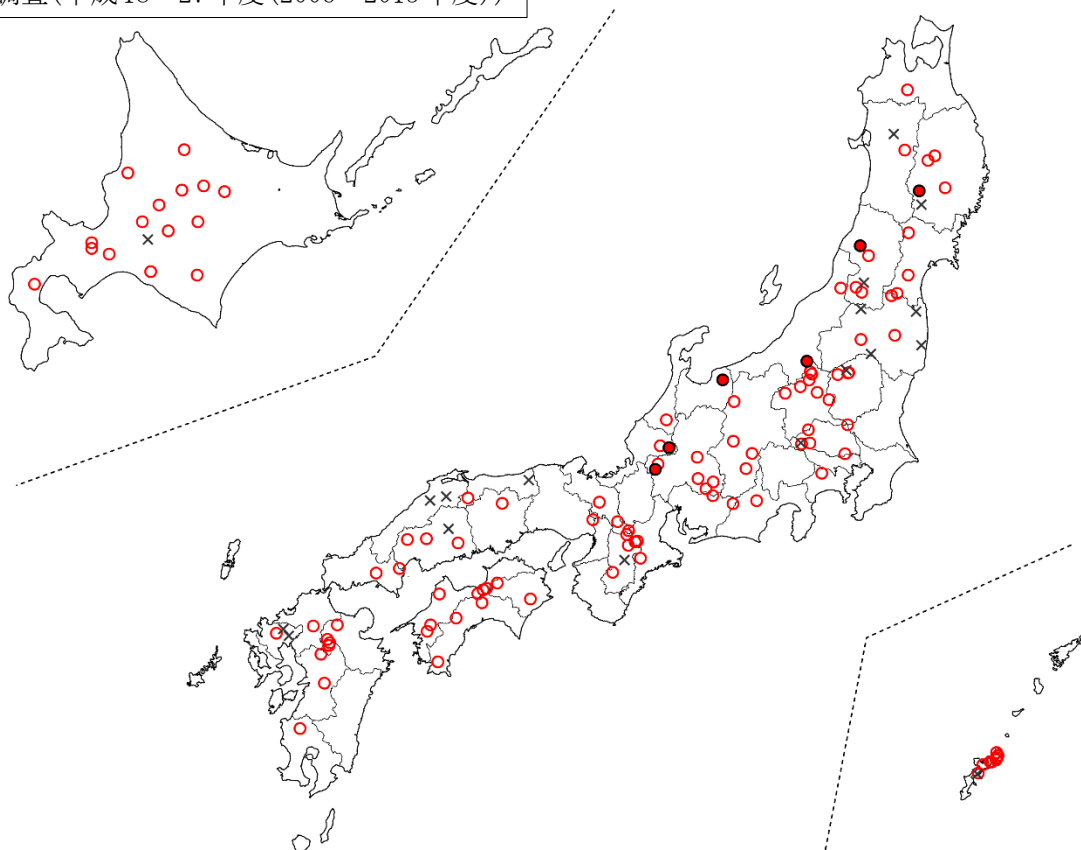


図 5-6 イヌワシの確認状況 (3巡目調査、4巡目調査)

5巡目調査(平成28～令和6年度(2016～2024年度))

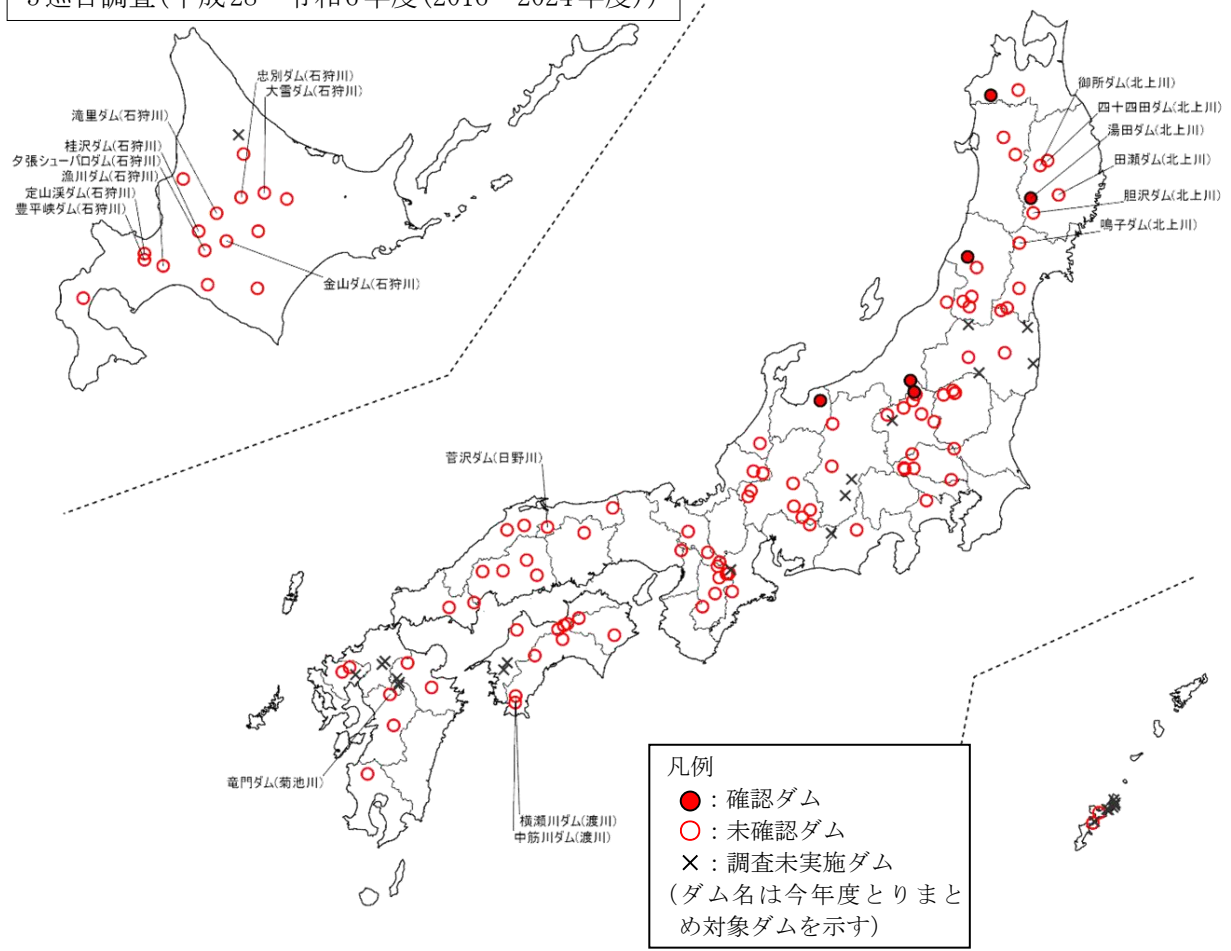
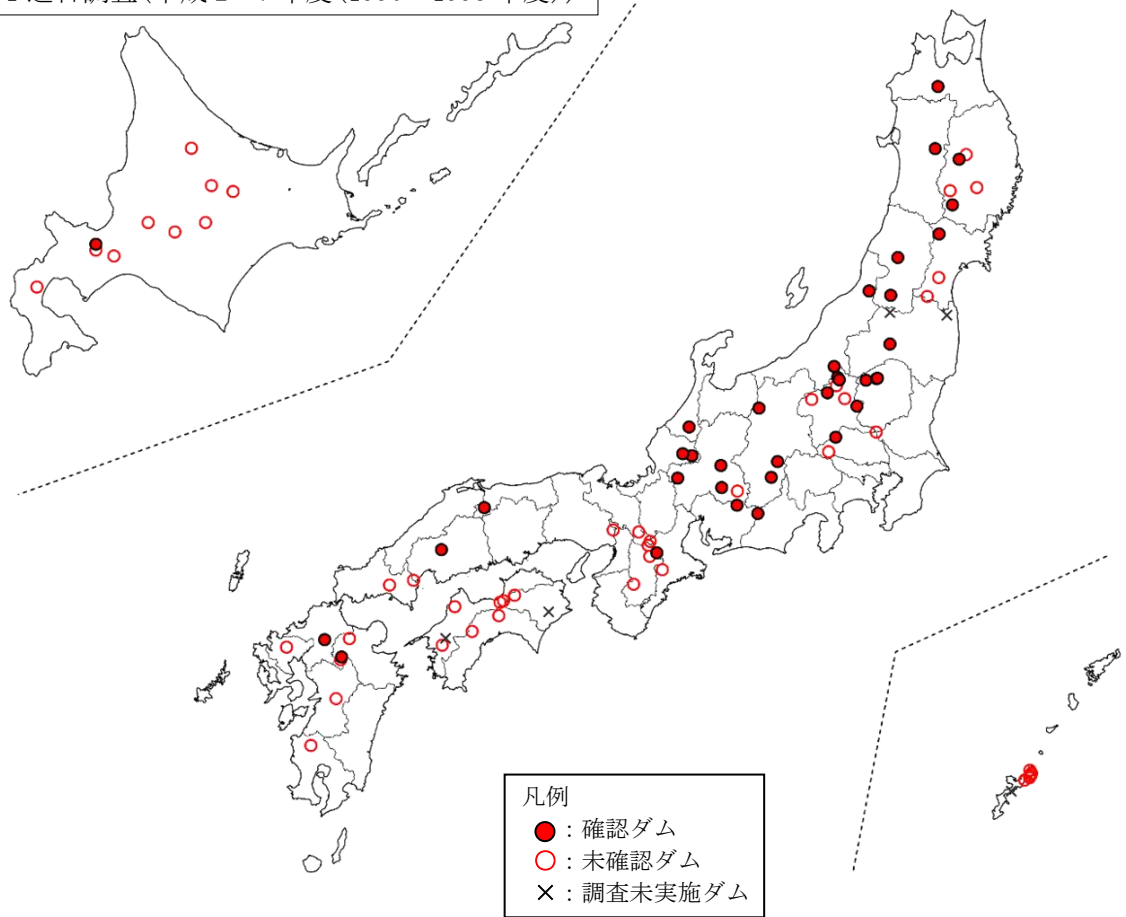


図 5-7 イヌワシの確認状況 (5巡目調査)

1 巡目調査(平成 2～7 年度(1990～1995 年度))



2 巡目調査(平成 8～12 年度(1996～2000 年度))

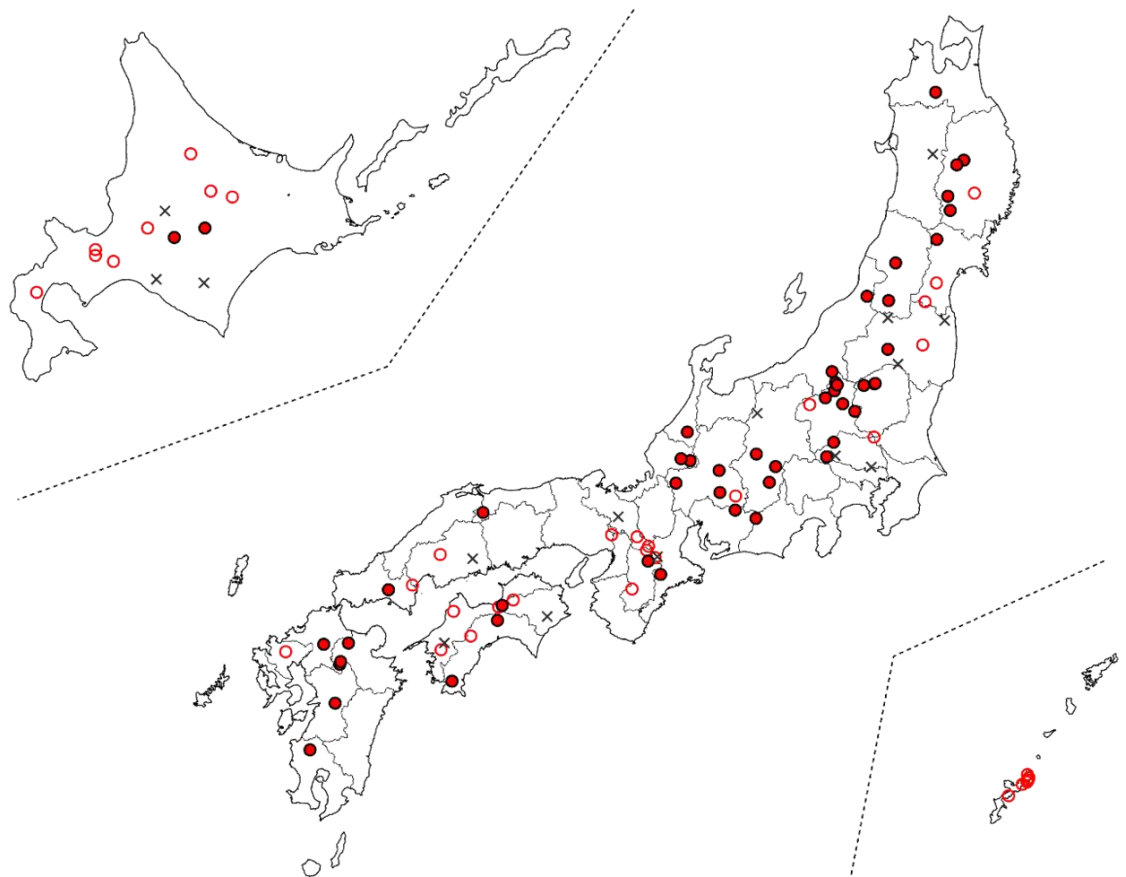
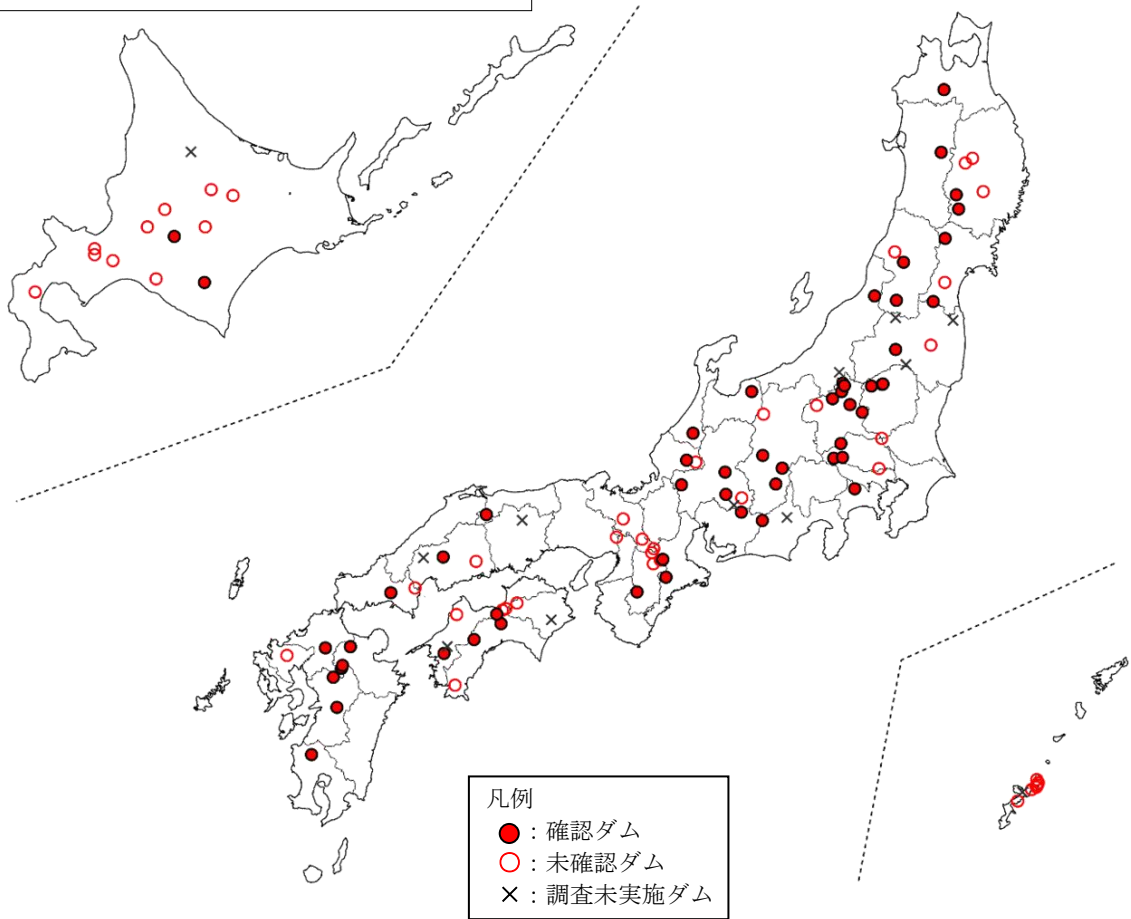


図 5-8 クマタカの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3巡目調査(平成13～17年度(2001～2005年度))



4巡目調査(平成18～27年度(2006～2015年度))

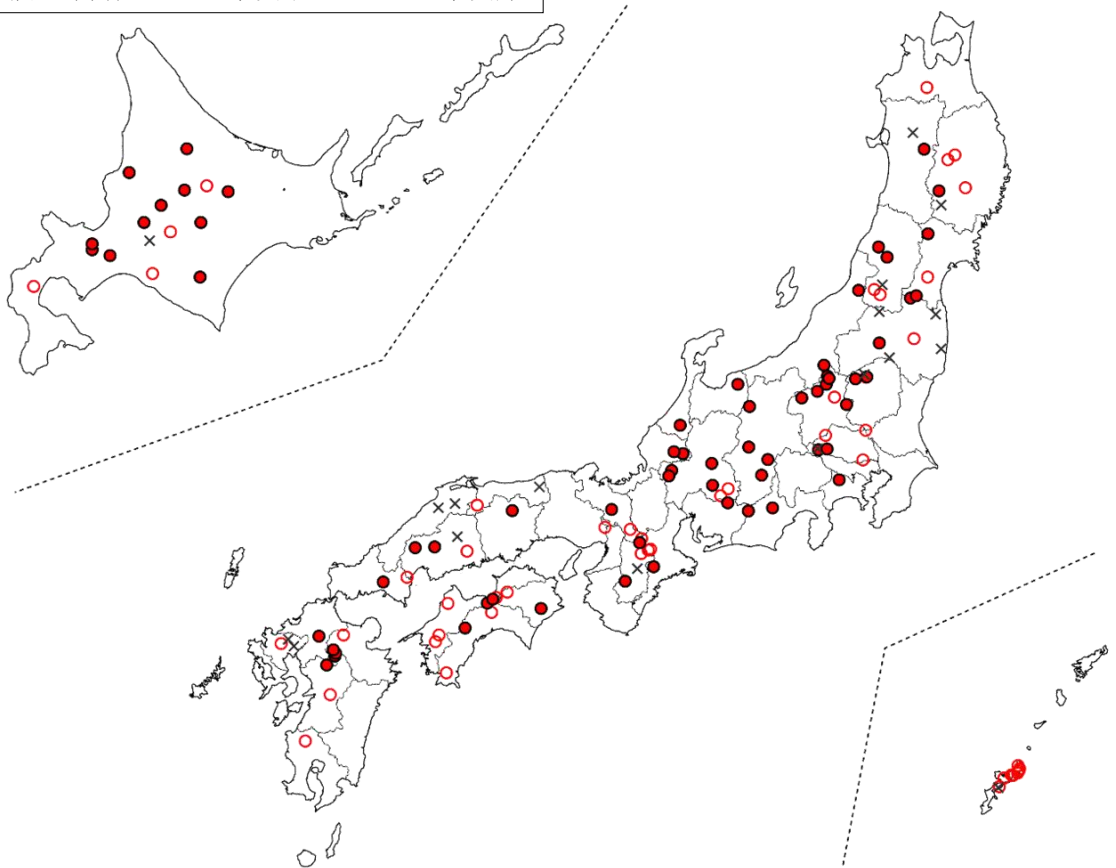


図 5-9 クマタカの確認状況 (3巡目調査、4巡目調査)

5巡目調査(平成28～令和6年度(2016～2024年度))

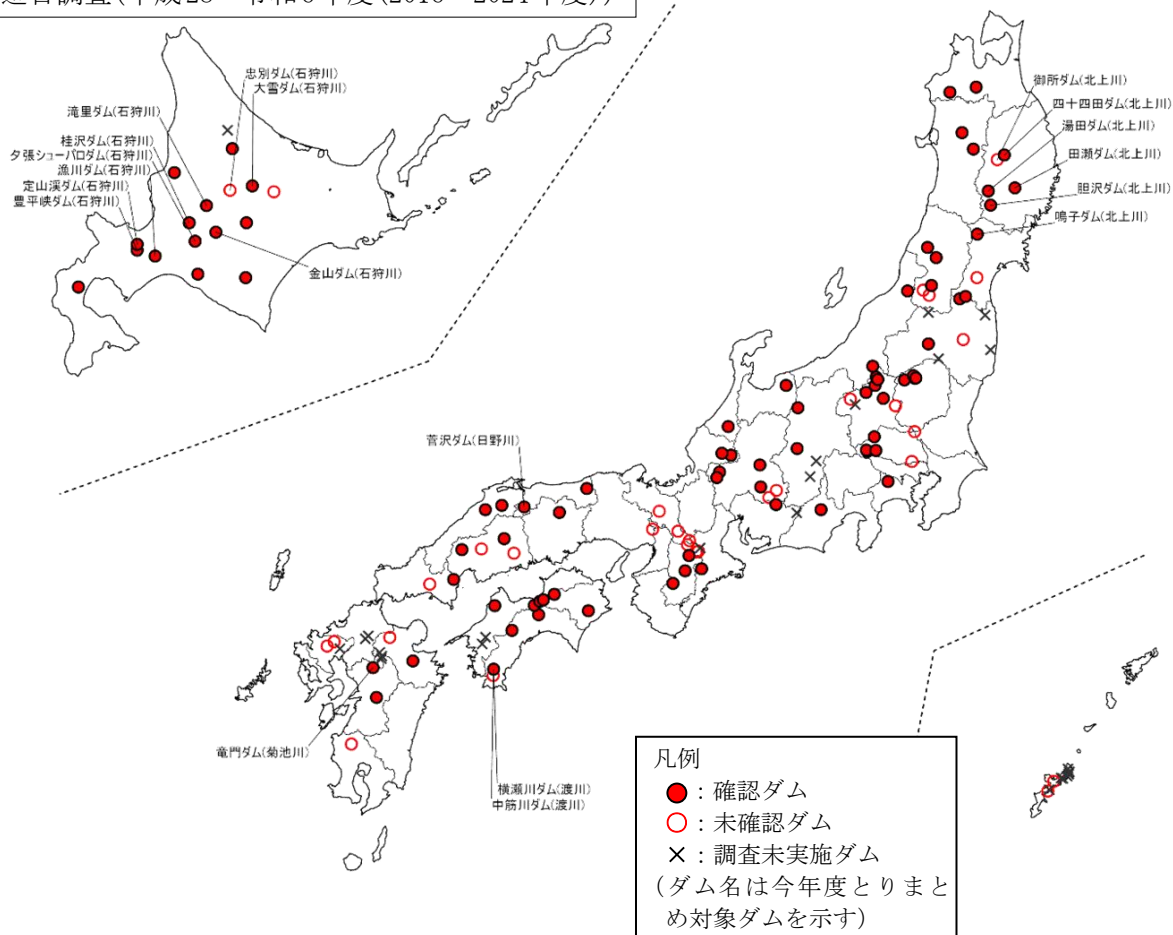
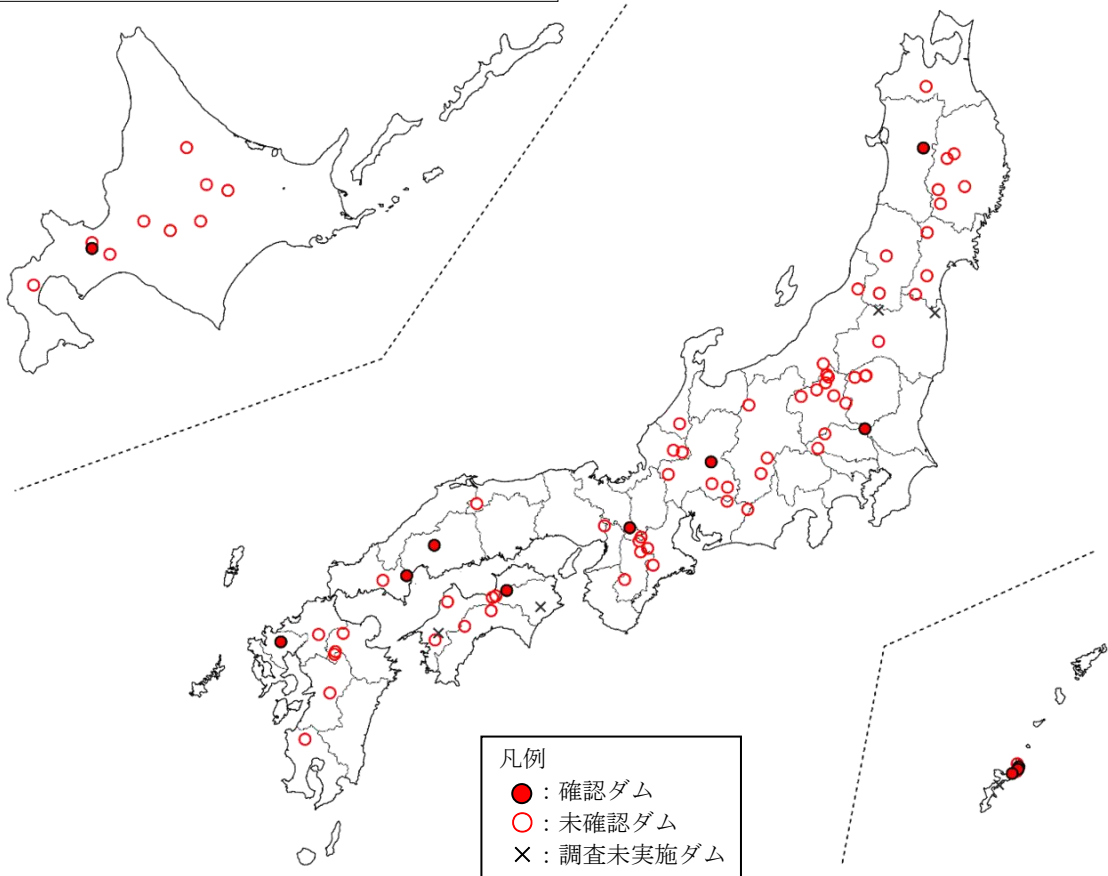


図 5-10 クマタカの確認状況 (5巡目調査)

1 巡目調査(平成 2～7 年度(1990～1995 年度))



2 巡目調査(平成 8～12 年度(1996～2000 年度))

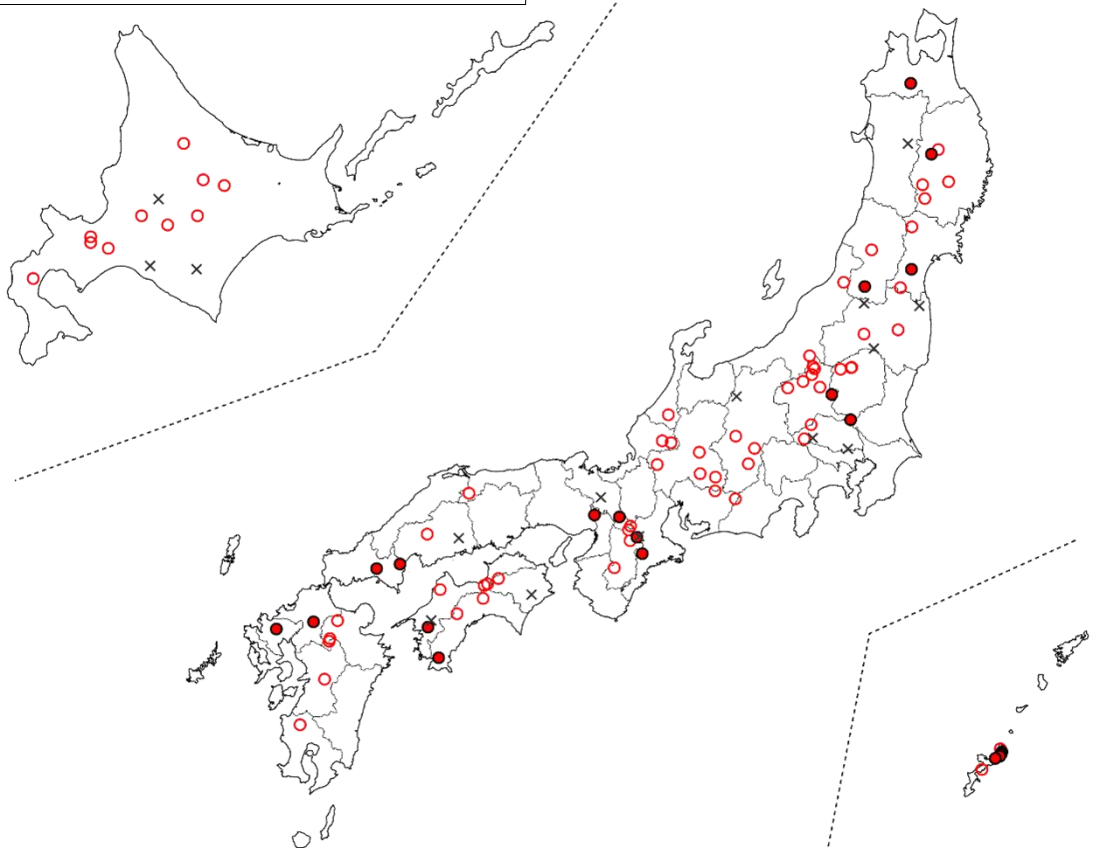
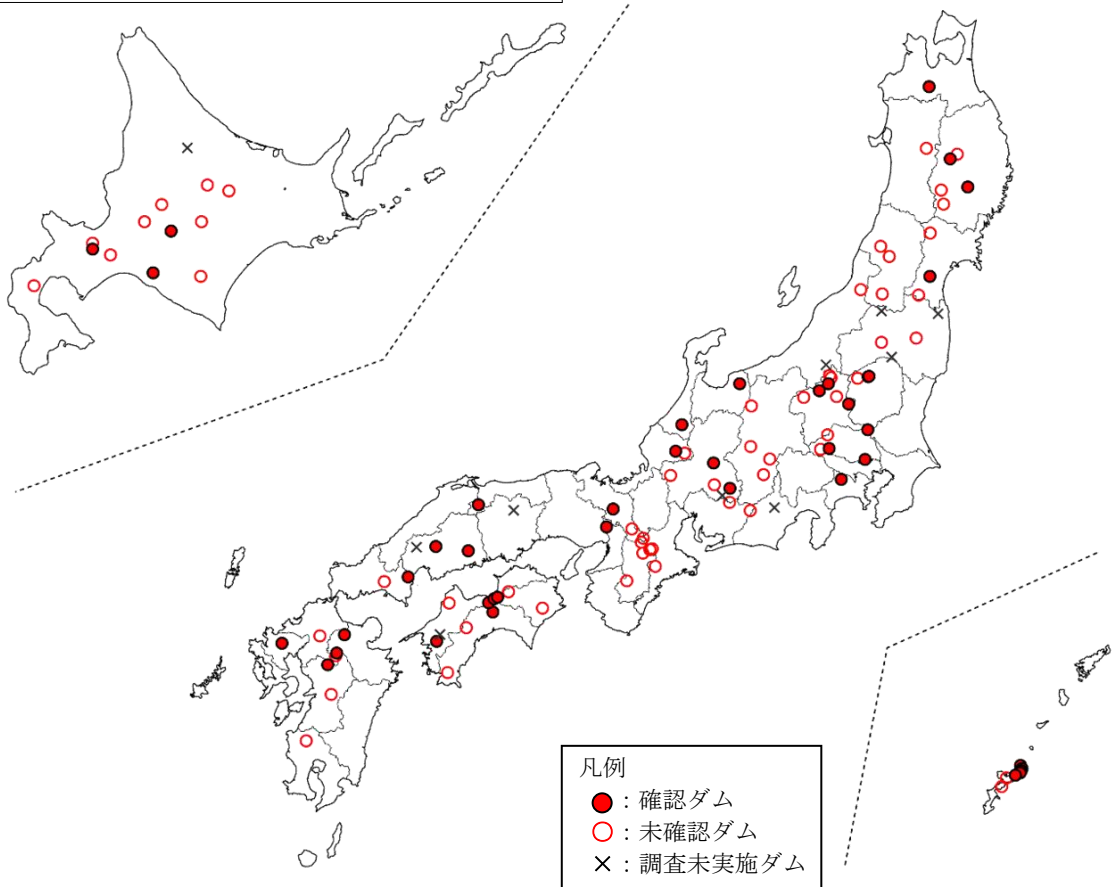


図 5-11 ハヤブサの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3巡目調査(平成13～17年度(2001～2005年度))



4巡目調査(平成18～27年度(2006～2015年度))

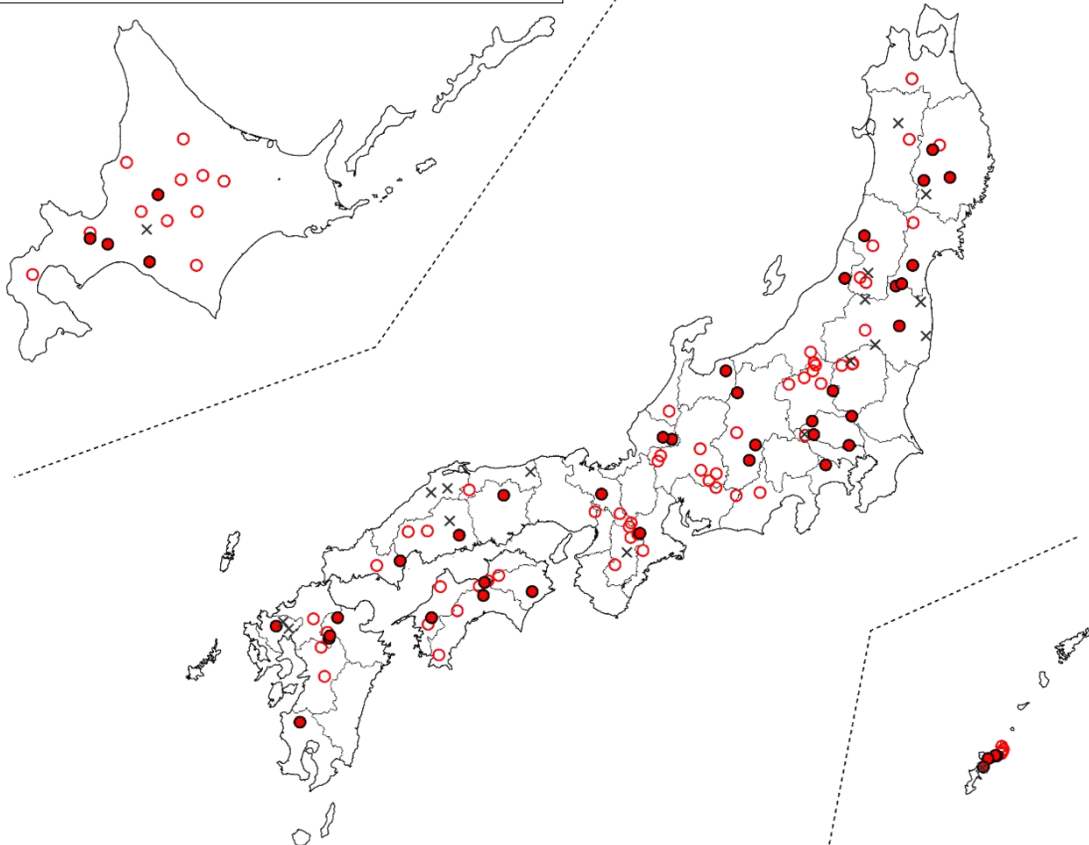


図 5-12 ハヤブサの確認状況 (3巡目調査、4巡目調査)

5巡目調査(平成28～令和6年度(2016～2024年度))

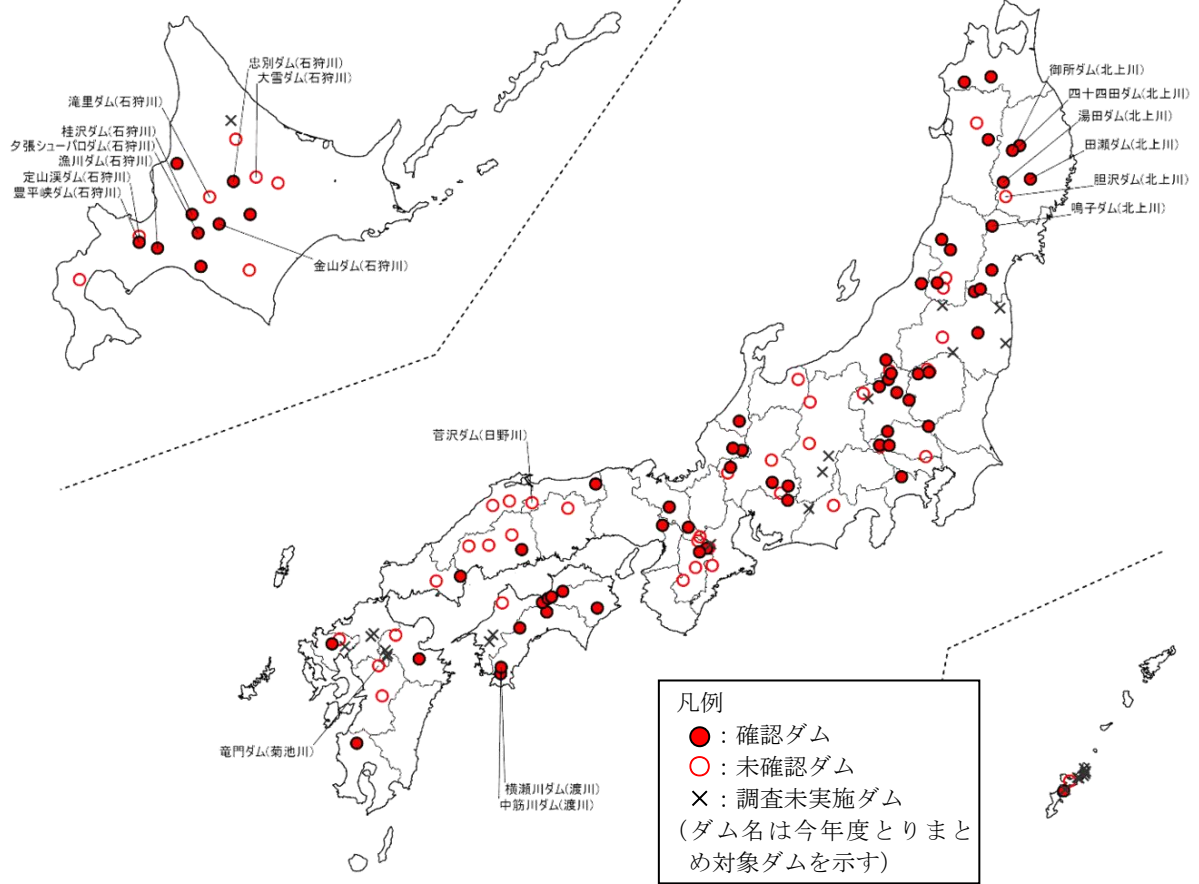
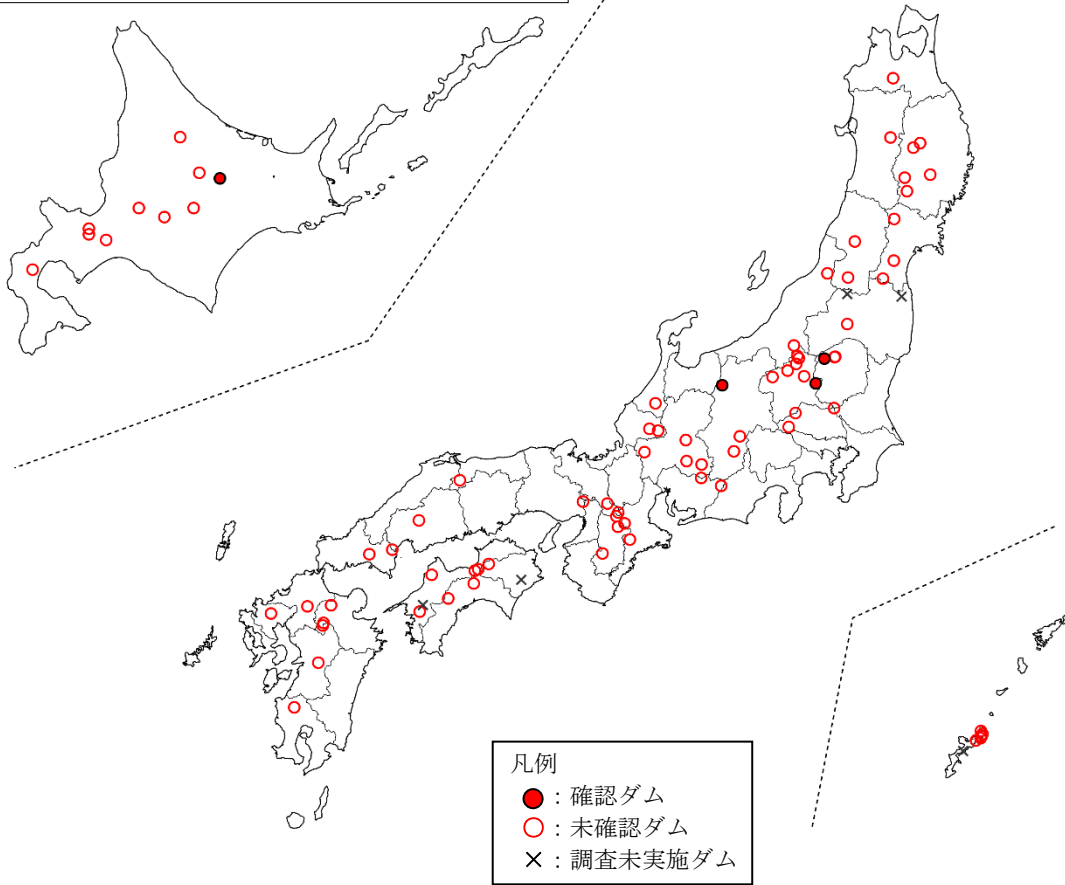


図 5-13 ハヤブサの確認状況 (5巡目調査)

1 巡目調査(平成 2～7 年度(1990～1995 年度))



2 巡目調査(平成 8～12 年度(1996～2000 年度))

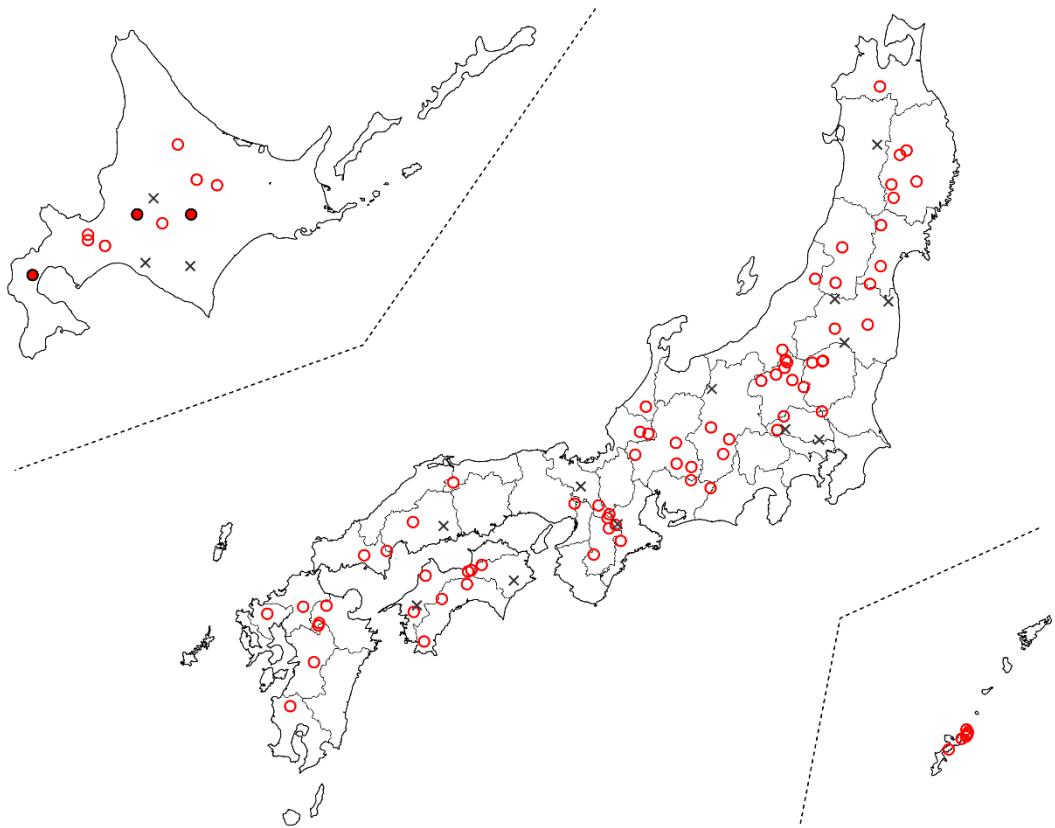
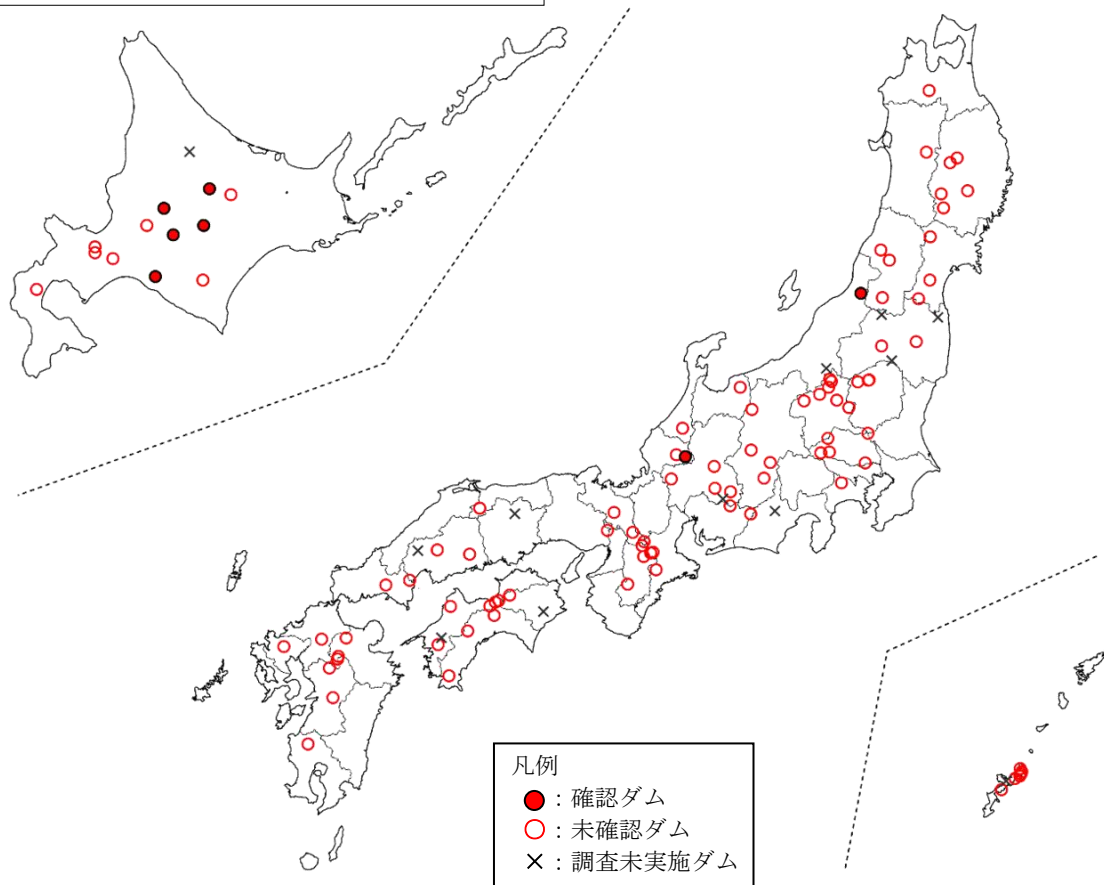


図 5-14 オオワシの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3巡目調査(平成13～17年度(2001～2005年度))



4巡目調査(平成18～27年度(2006～2015年度))

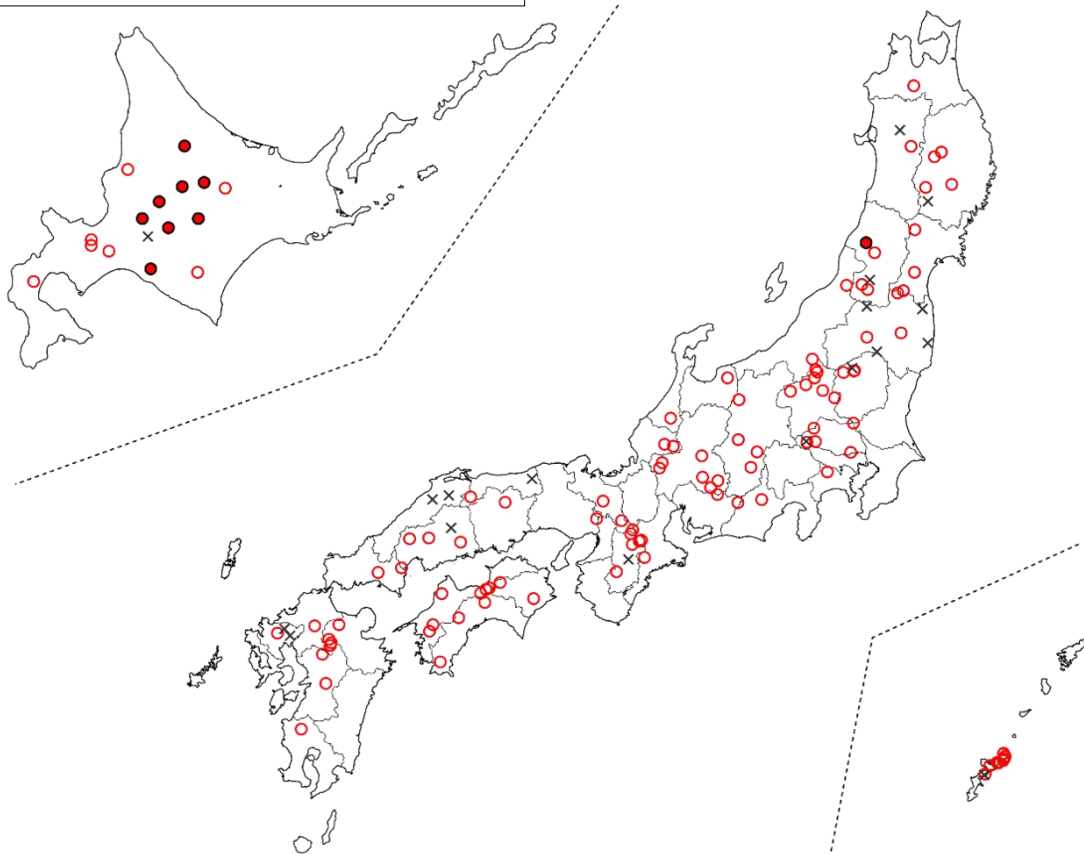


図 5-15 オオワシの確認状況 (3巡目調査、4巡目調査)

5巡目調査(平成28～令和6年度(2016～2024年度))

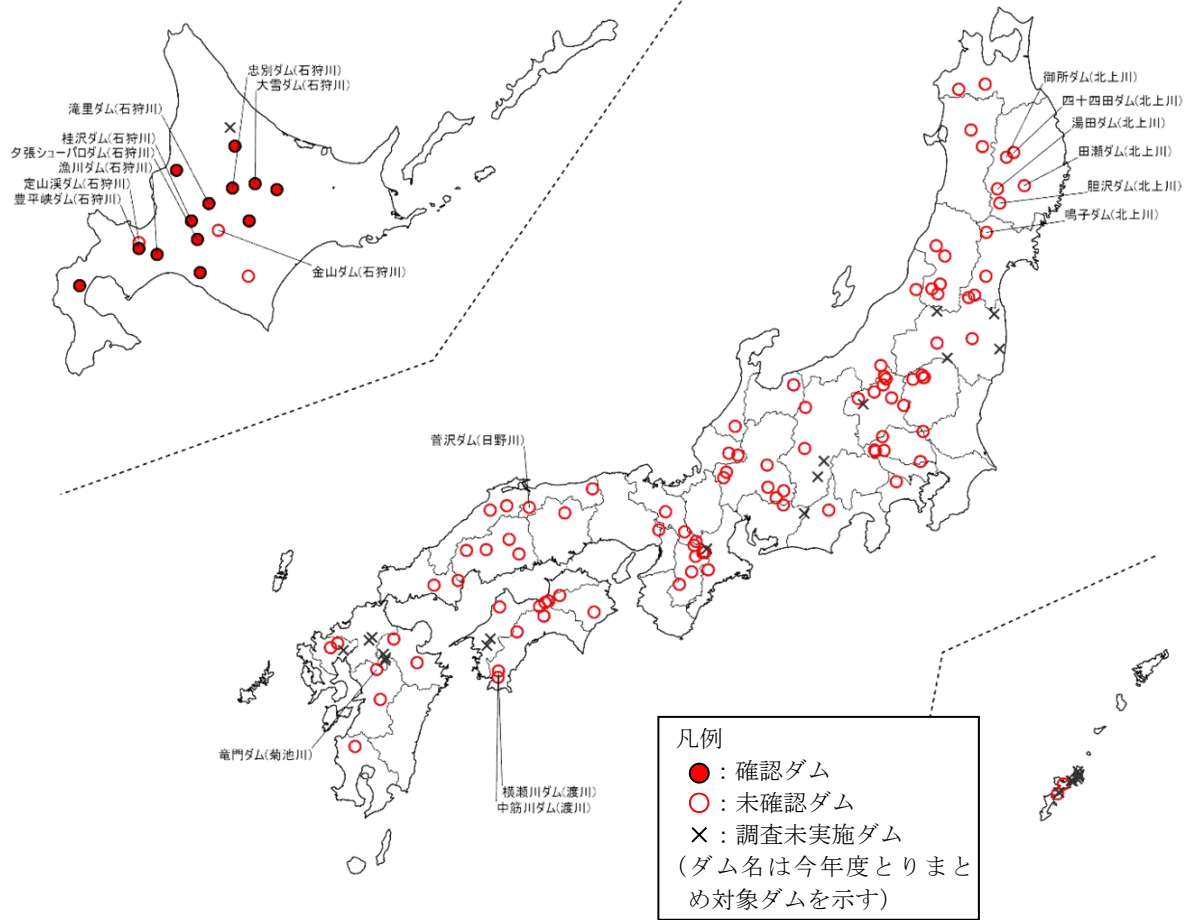
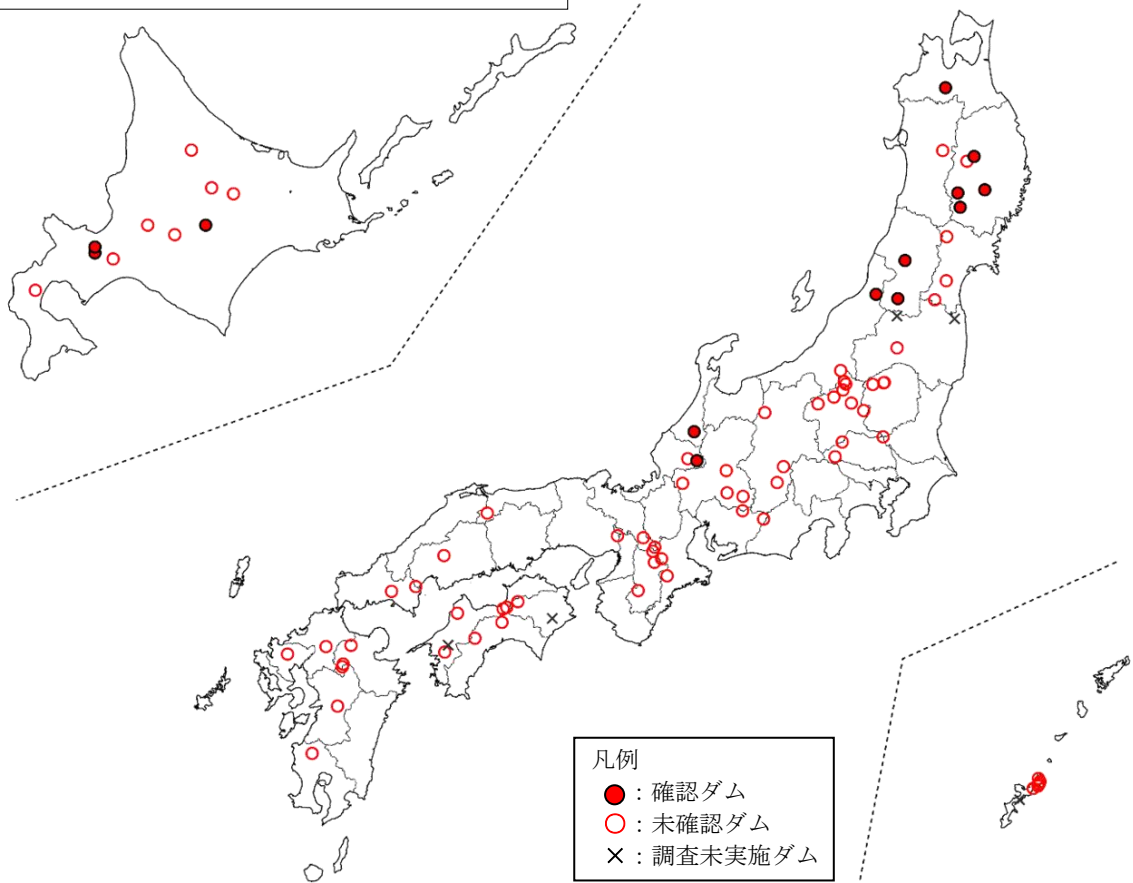


図 5-16 オオワシの確認状況 (5巡目調査)

1 巡目調査(平成 2～7 年度(1990～1995 年度))



2 巡目調査(平成 8～12 年度(1996～2000 年度))

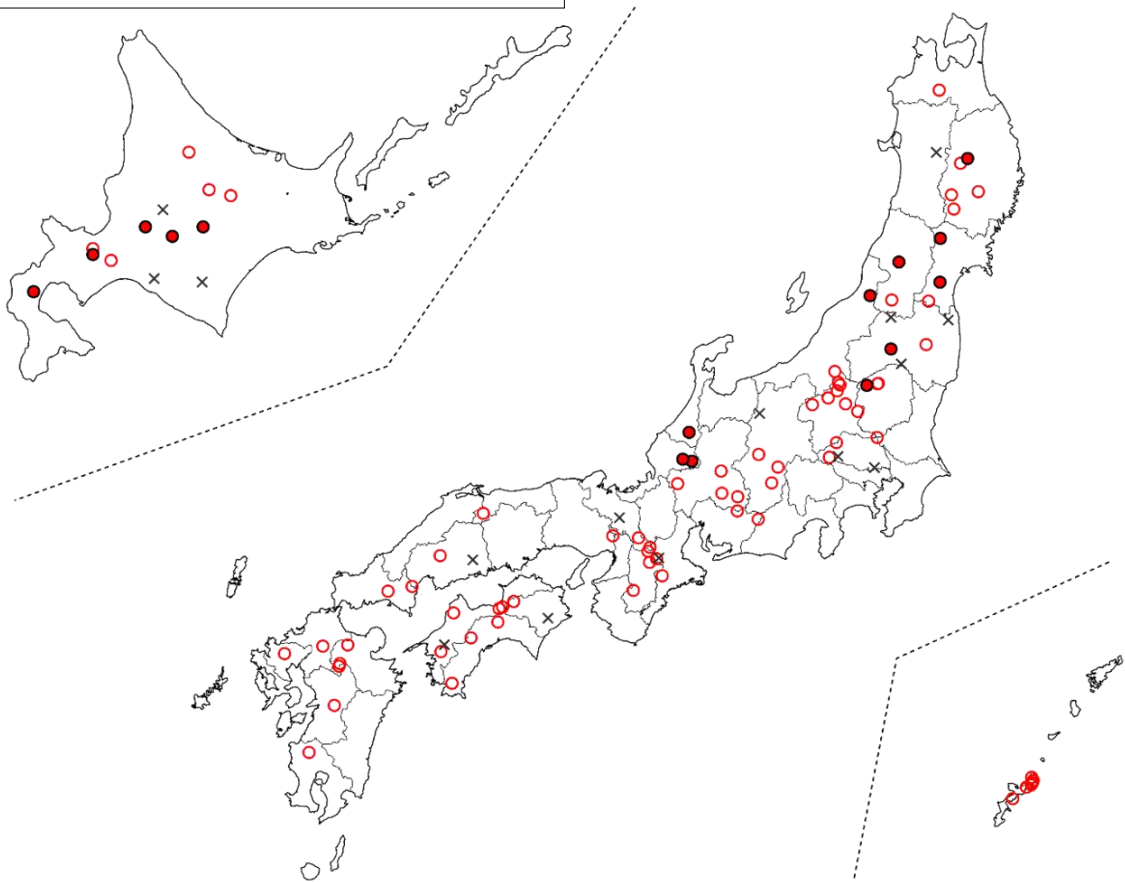
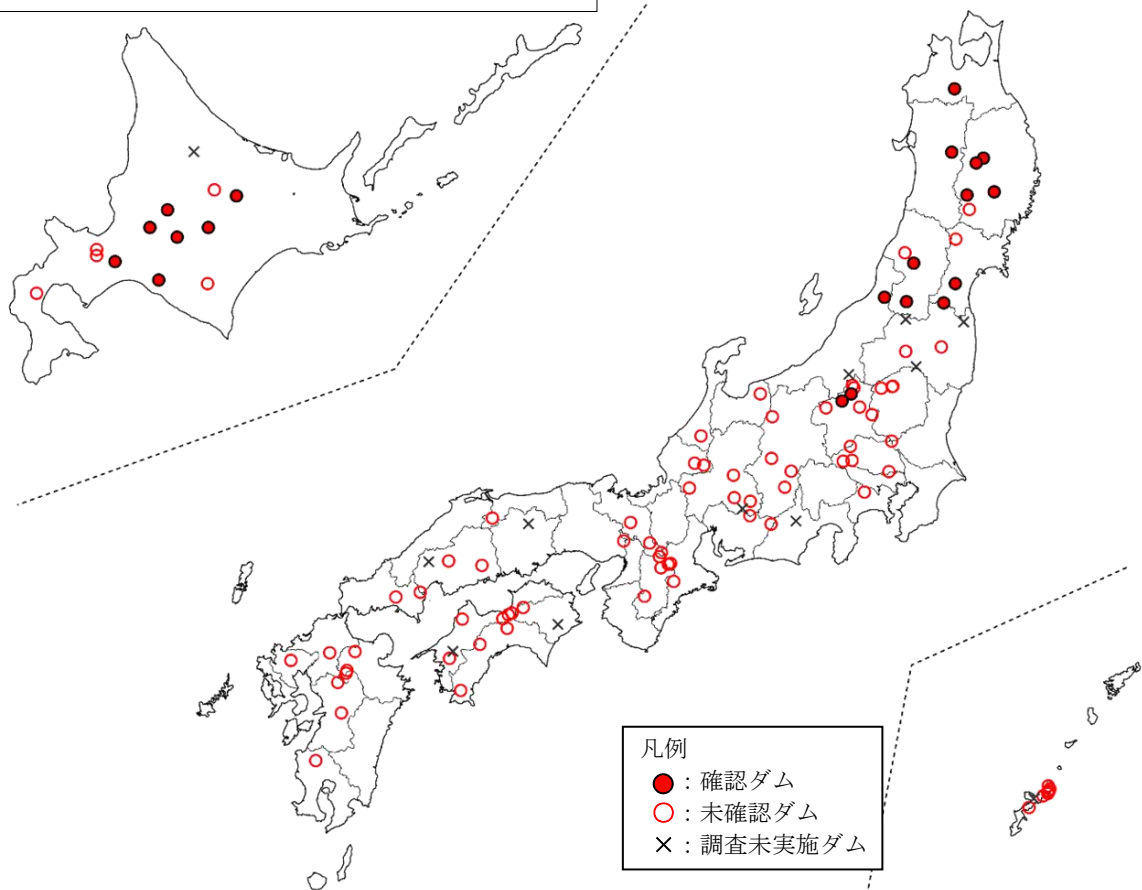


図 5-17 オジロワシの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3巡目調査(平成13～17年度(2001～2005年度))



4巡目調査(平成18～27年度(2006～2015年度))

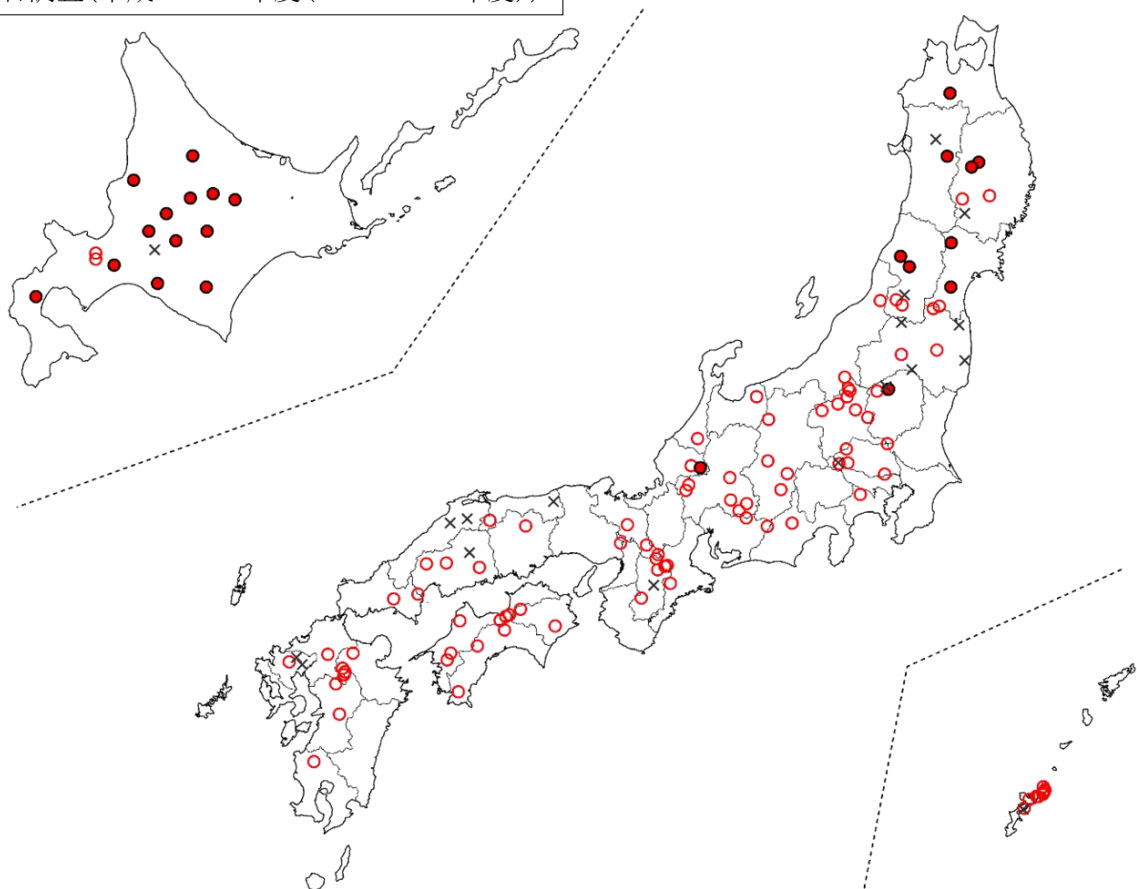


図 5-18 オジロワシの確認状況 (3巡目調査、4巡目調査)

5巡目調査(平成28～令和6年度(2016～2024年度))

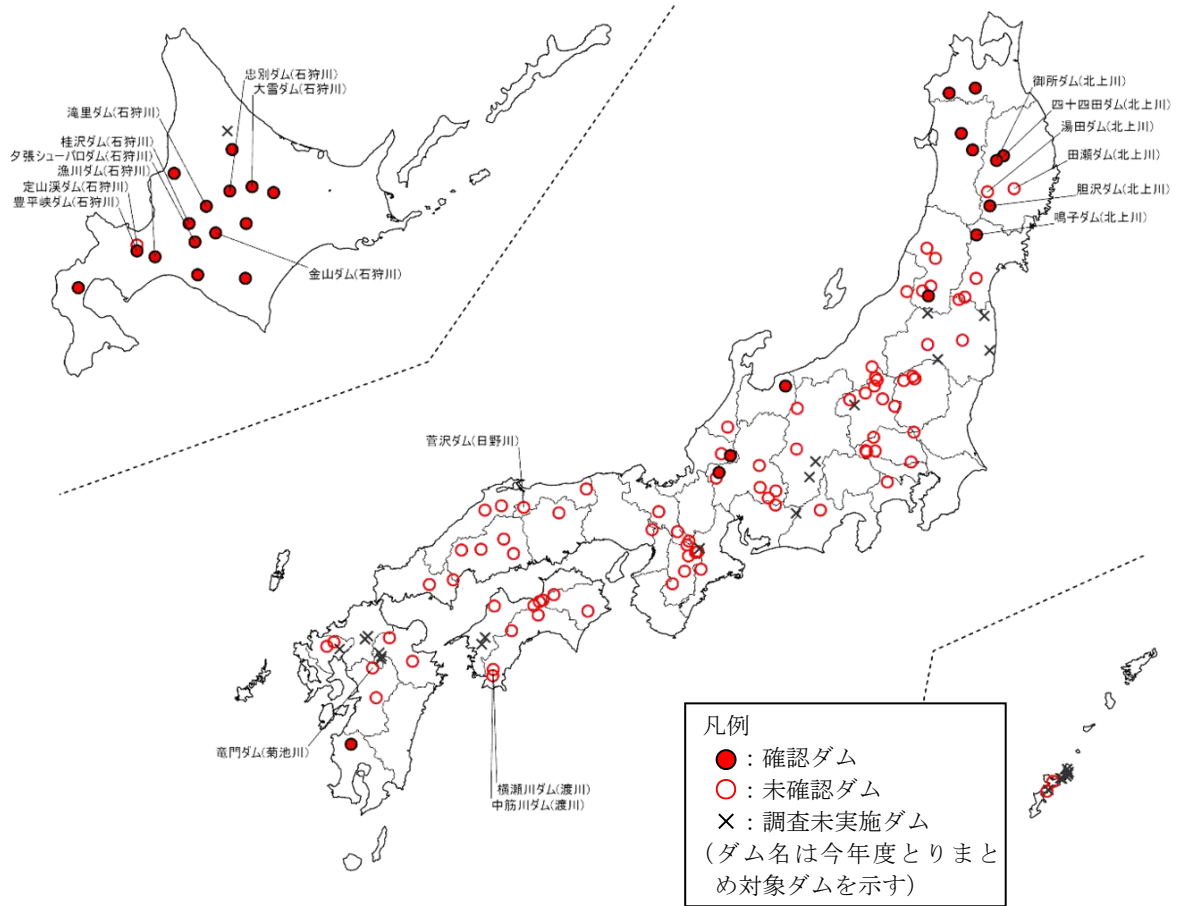


図 5-19 オジロワシの確認状況 (5巡目調査)

(2) 国外外来種の分布状況（生物多様性への攪乱）

日本の生物多様性の危機の原因の一つとして、「外来種等人為的に持ち込まれたものによる生態系の攪乱」があげられています。鳥類では、アヒル等のように家禽として飼われていたものや、ガビチョウ等のようにペットとして飼われていたものが逃げ出し、野生化して自然界へ広がっている例がみられます。

このような国外外来種が生態的に優勢な場合、在来の生物種を圧迫したり、自然界では起こらない交雑によって、地域で保有されていた固有な遺伝子の喪失をもたらしたりすることで、生態系へ様々な影響を与えることが懸念されています。ここでは、人為的な生態系の攪乱を明らかにするために、国外外来種で、特定外来生物<sup>\*</sup>に指定されているガビチョウ、ヒゲガビチョウ、カオグログビチョウ、カオジログビチョウ、ソウシチョウの確認状況について整理しました。

・ 特定外来生物のガビチョウを 2 ダムで確認  
 ・ 特定外来生物のソウシチョウを 4 ダムで確認。  
 今回とりまとめを行った 19 ダムでは、ガビチョウは 2 ダムで、ソウシチョウは 4 ダムで確認されました。

表 5-5 国外外来種の確認ダム数の巡目比較

種名	1 巡目調査 (81 ダム)	2 巡目調査 (83 ダム)	3 巡目調査 (96 ダム)	4 巡目調査 (112 ダム)	5 巡目調査 (111 ダム)	今回 確認
ガビチョウ	1 ダム [1.2%]	5 ダム [6.0%]	11 ダム [11.5%]	15 ダム [13.4%]	27 ダム [24.3%]	○
ヒゲガビチョウ	0 ダム [0.0%]	0 ダム [0.0%]	1 ダム [1.0%]	2 ダム [1.8%]	4 ダム [3.6%]	
カオグログビチョウ	0 ダム [0.0%]	0 ダム [0.0%]	1 ダム [1.0%]	0 ダム [0.0%]	1 ダム [0.9%]	
カオジログビチョウ	0 ダム [0.0%]	0 ダム [0.0%]	0 ダム [0.0%]	0 ダム [0.0%]	2 ダム [1.8%]	
ソウシチョウ	1 ダム [1.2%]	8 ダム [9.6%]	10 ダム [10.4%]	17 ダム [15.1%]	39 ダム [35.1%]	○

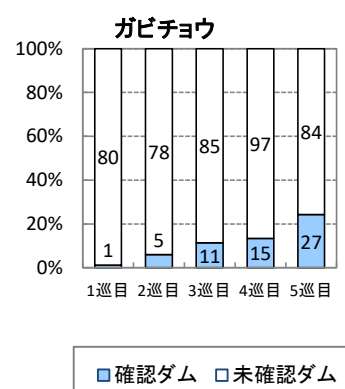
※ ( )内は各巡目において調査を実施しているダムの数を示す。巡目の途中から調査を行っていたり、途中の年度を調査していないダムがあるため、巡目毎の調査ダム数は同じではない。

※ [ ]内は確認ダム数の対象ダム数に対する%を示す。

今回とりまとめ対象とした 19 ダムでは、特定外来生物に指定されているガビチョウとソウシチョウが確認されました。

ガビチョウは、今回とりまとめ対象とした 19 ダムのうち東北の鳴子ダム、九州の竜門ダムの 2 ダムで確認されました。東北の鳴子ダムでは、河川水辺の国勢調査で初めて確認されました。九州の竜門ダムでは、3 巡目以降連続して確認されています。これまでの調査結果では、関東地方、九州地方を中心に確認されており、特に関東以北の東北地方にかけて、過去と比較して大幅に分布が拡大しており、5 巡目からは中部地方や近畿地方でも確認され始めています。

ガビチョウは東アジア・東南アジア原産で、国内では江戸時代頃から輸入の記録があります。飼い鳥が逃げ出したものが、1980 年代から福島県、長野県、関東地方、九州地方等で野生化し、主に丘陵地、平野部の樹林等を生息場所としています。



※グラフ中の数字はダム数

ガビチョウ

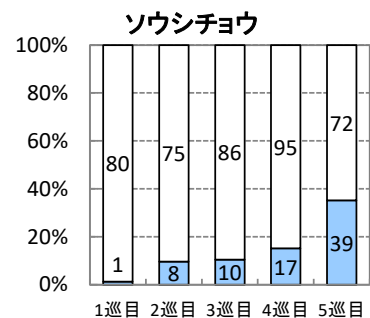


竜門ダム (R6. 6. 1)

ソウシチョウは、今回とりまとめ対象とした 19 ダムのうち、中国の菅沢ダム、四国の中筋川ダム、横瀬川ダム、九州の竜門ダムの 4 ダムで確認されました。四国の中筋川ダムでは、河川水辺の国勢調査で初めて確認されました。これまでの調査結果では、関東以西のダムで主に確認されており、特に四国地方、中国地方、近畿地方、九州地方では、近年、急激に分布を広げているようです。

ソウシチョウは本来、中国南部からヒマラヤにかけて分布する鳥であり、主に山地の樹林等で生息しています。日本ではガビチョウと同じく江戸時代から飼育されていましたが、飼い鳥が逃げ出したものが、1980 年頃から茨城県、兵庫県、九州地方等を中心に急速に分布を広げています。

なお、ガビチョウ、ソウシチョウの確認・未確認ダムについて Fisher の正確確率検定を行ったところ、両種とも統計的にも増加傾向にあることが判りました（ガビチョウ  $p < 0.0001$ 、ソウシチョウ  $p < 0.0001$ ）。



■ 確認ダム □ 未確認ダム

※グラフ中の数字はダム数

ソウシチョウ

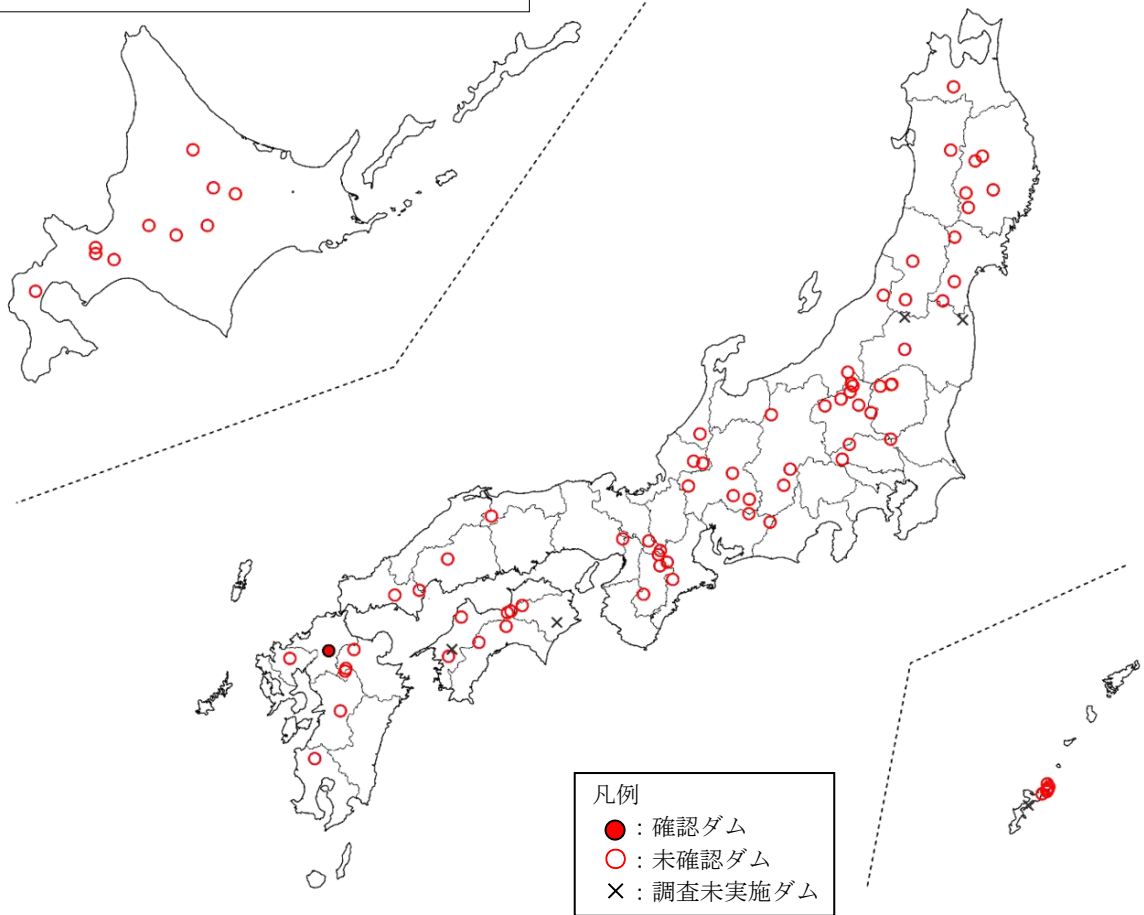


菅沢ダム (R6. 6. 19)

※特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（最終改正および施行 2017 年 3 月）』により、輸入や飼養等が規制される生物（生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官等も含まれる）です。おおむね明治以降に国外から導入された国外外来種のうち、生態系、人の生命・身体および農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある生物が指定（指定された外来生物と在来種が交雑した生物も含む）されています。

参考文献：1) 日本生態学会編（2002）外来種ハンドブック，地人書館  
2) (独) 国立環境研究所，侵入生物データベース 等

1 巡目調査(平成 2～7 年度(1990～1995 年度))



2 巡目調査(平成 8～12 年度(1996～2000 年度))

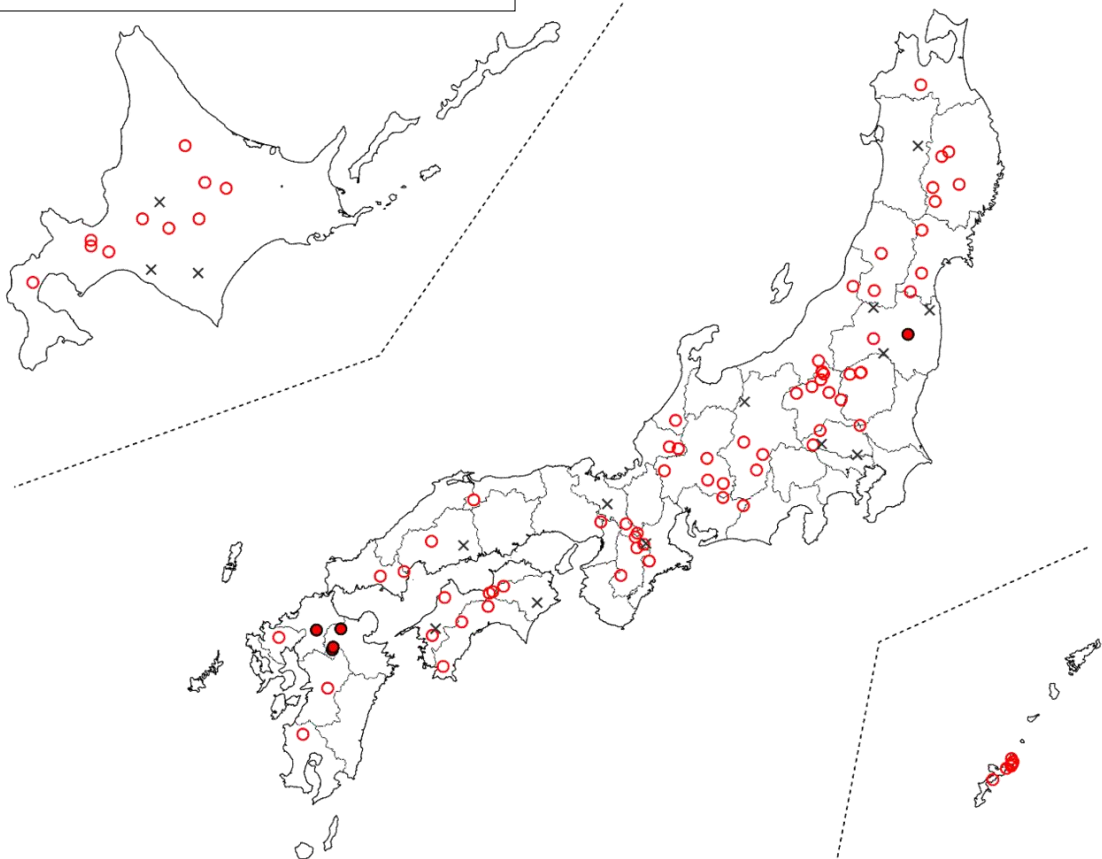
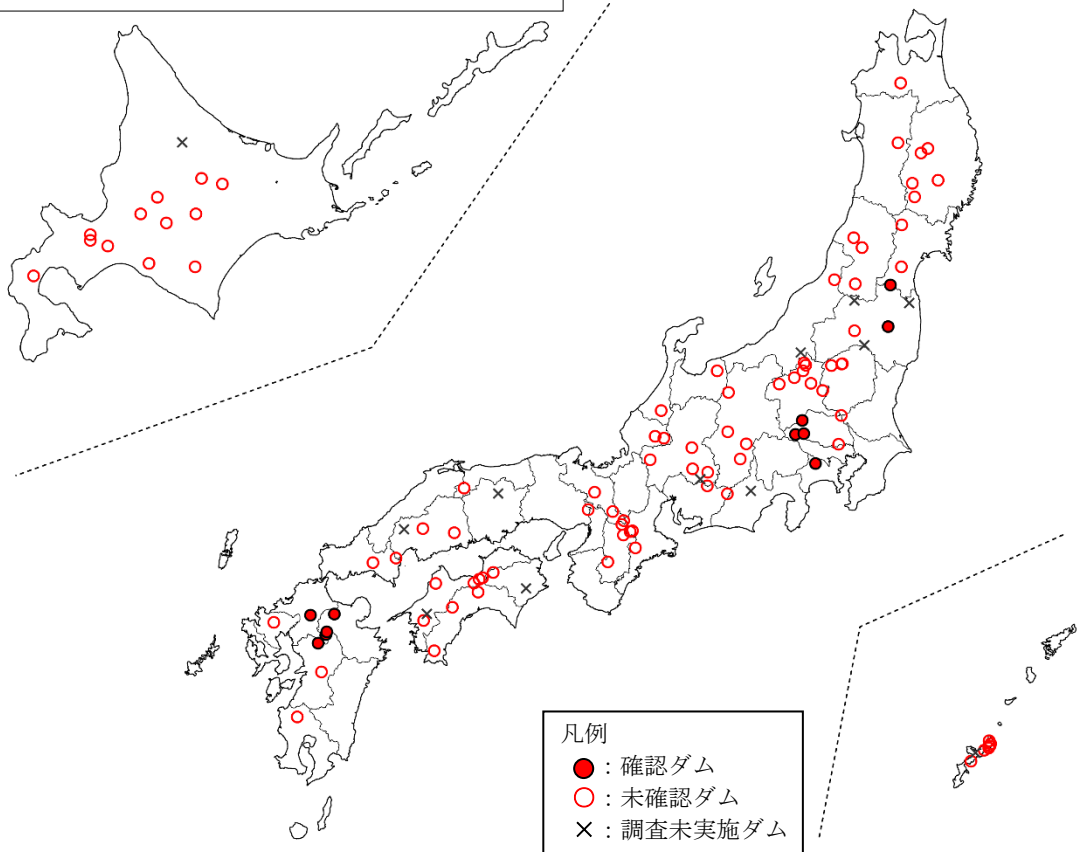


図 5-20 ガビチョウの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3巡目調査(平成13～17年度(2001～2005年度))



4巡目調査(平成18～27年度(2006～2015年度))

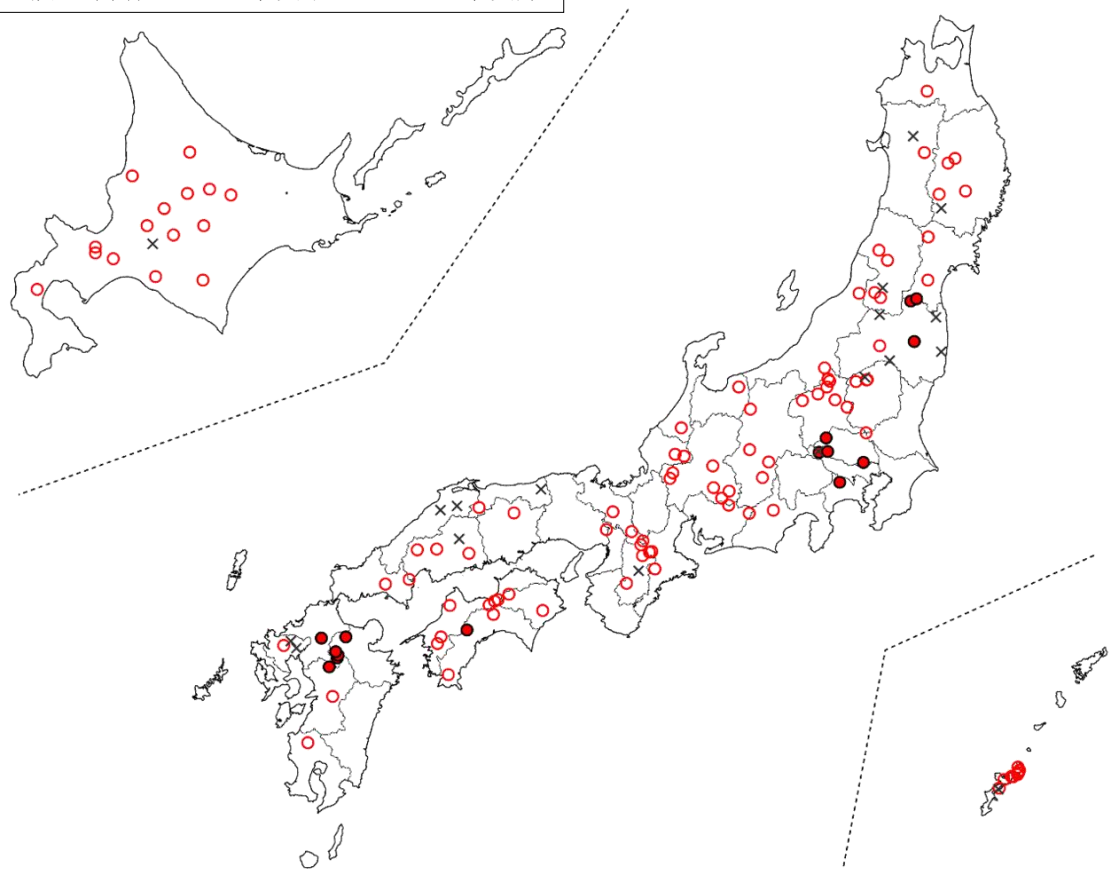


図 5-21 ガビチョウの確認状況 (3巡目調査、4巡目調査)

5巡目調査(平成28～令和6年度(2016～2024年度))

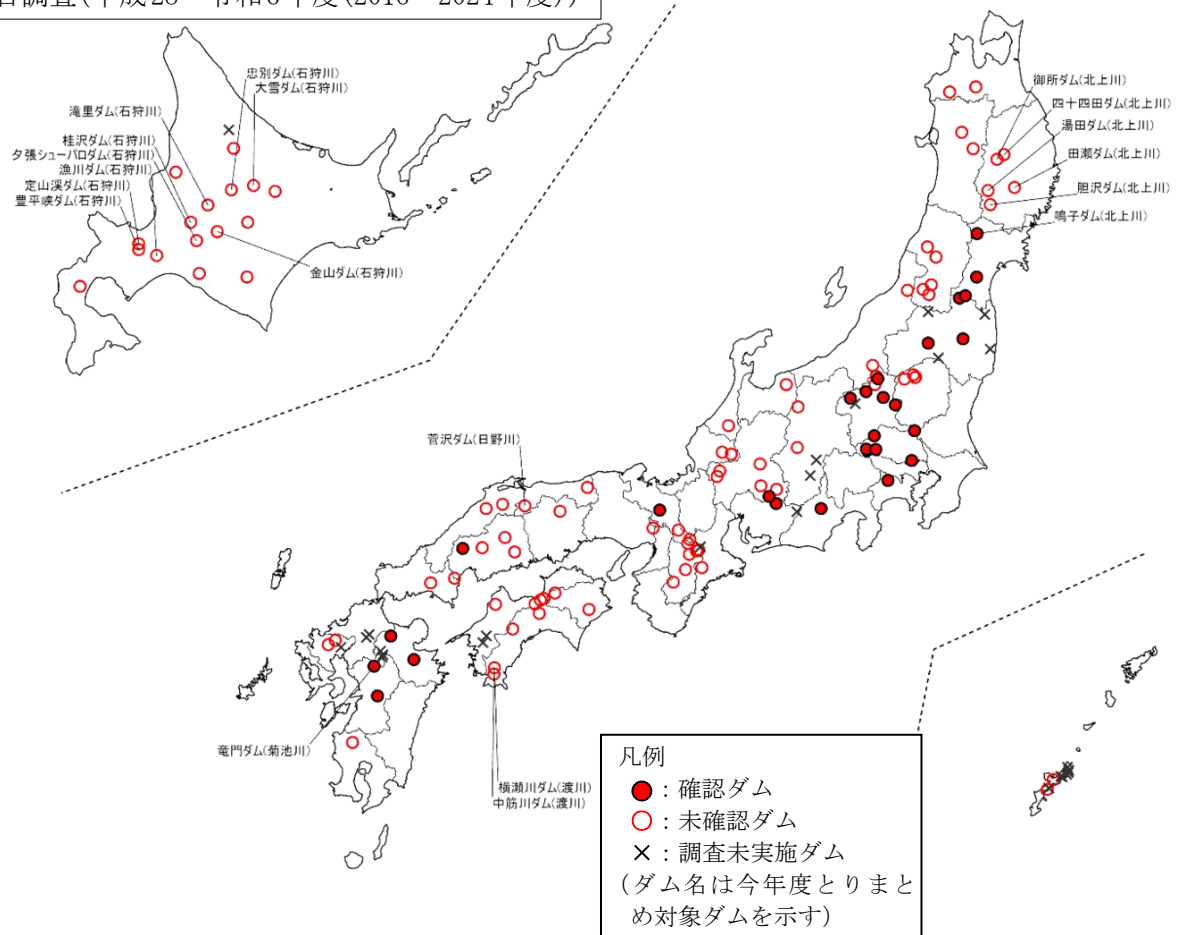


図 5-22 ガビチョウの確認状況 (5巡目調査)

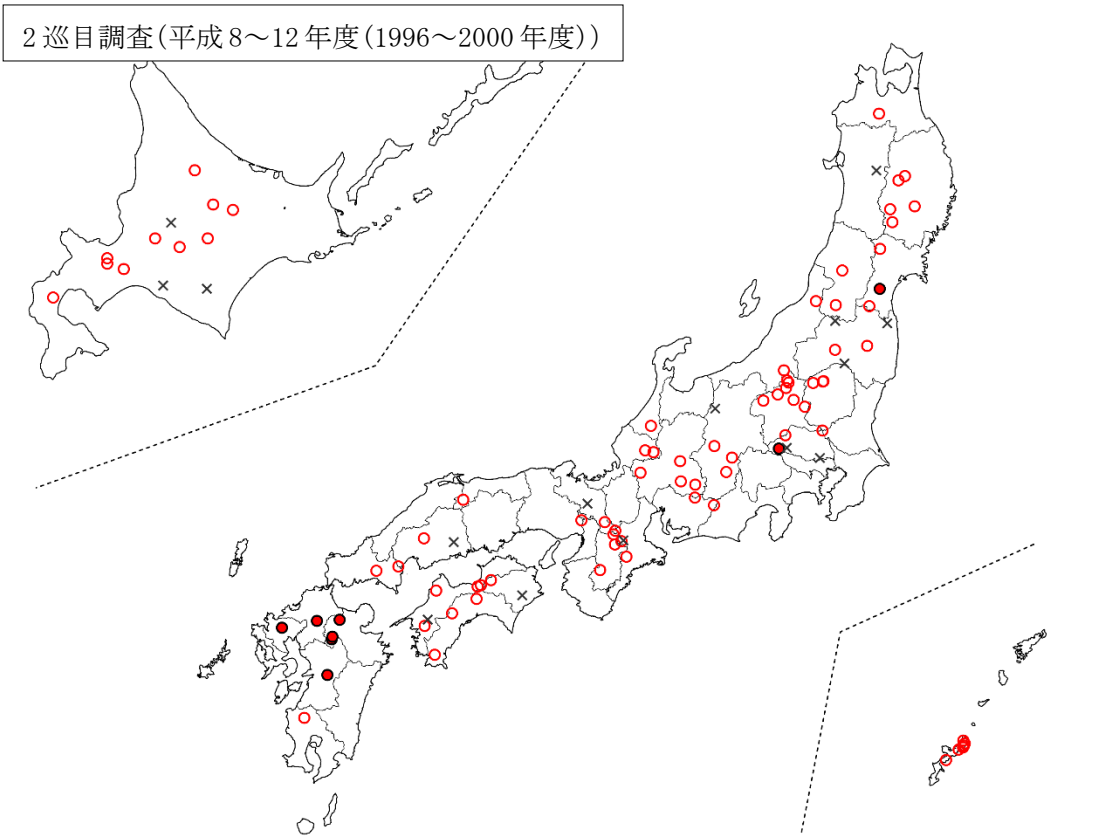
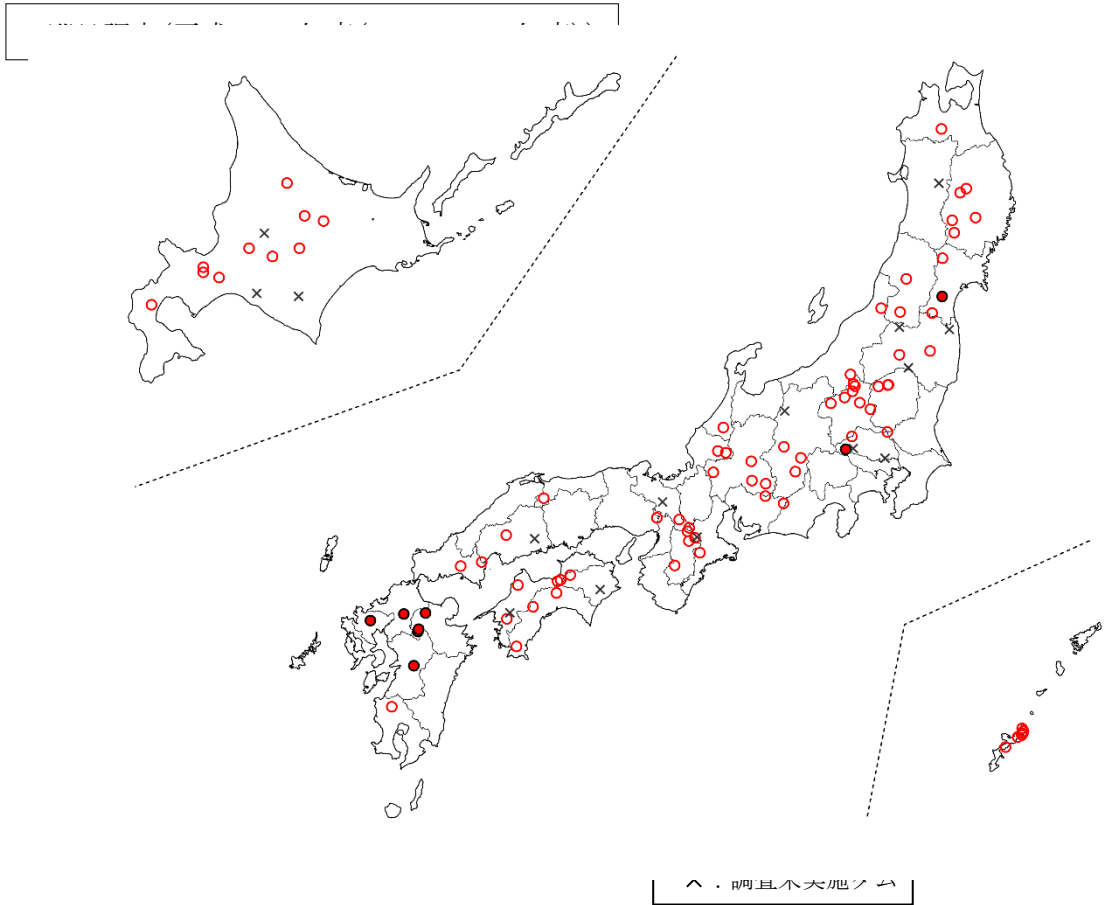
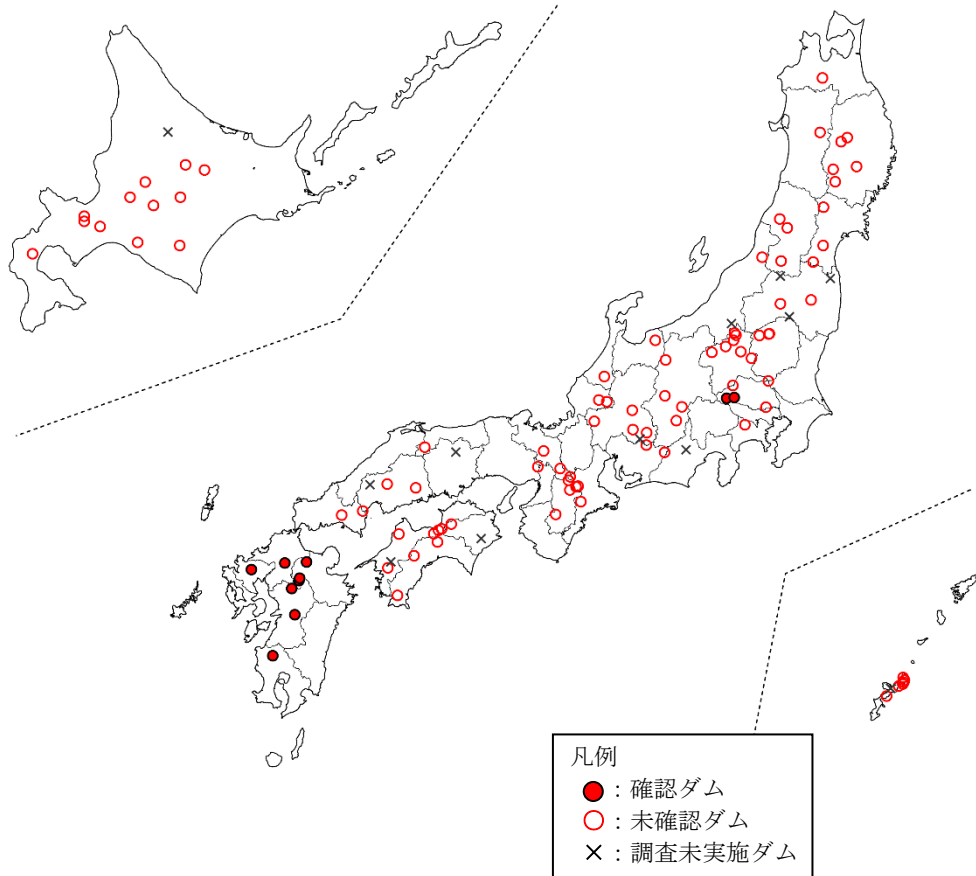


図 5-23 ソウシチョウの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3巡目調査(平成13～17年度(2001～2005年度))



4巡目調査(平成18～27年度(2006～2015年度))

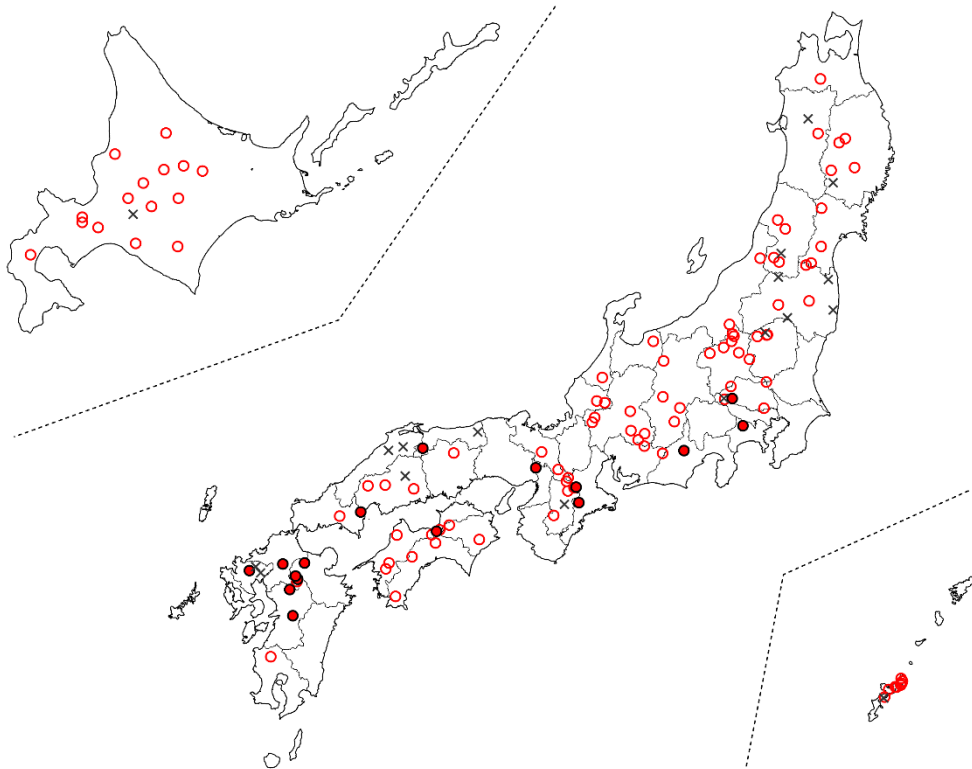


図 5-24 ソウシチョウの確認状況 (3巡目調査、4巡目調査)

5 巡目調査(平成28～令和6年度(2016～2024年度))

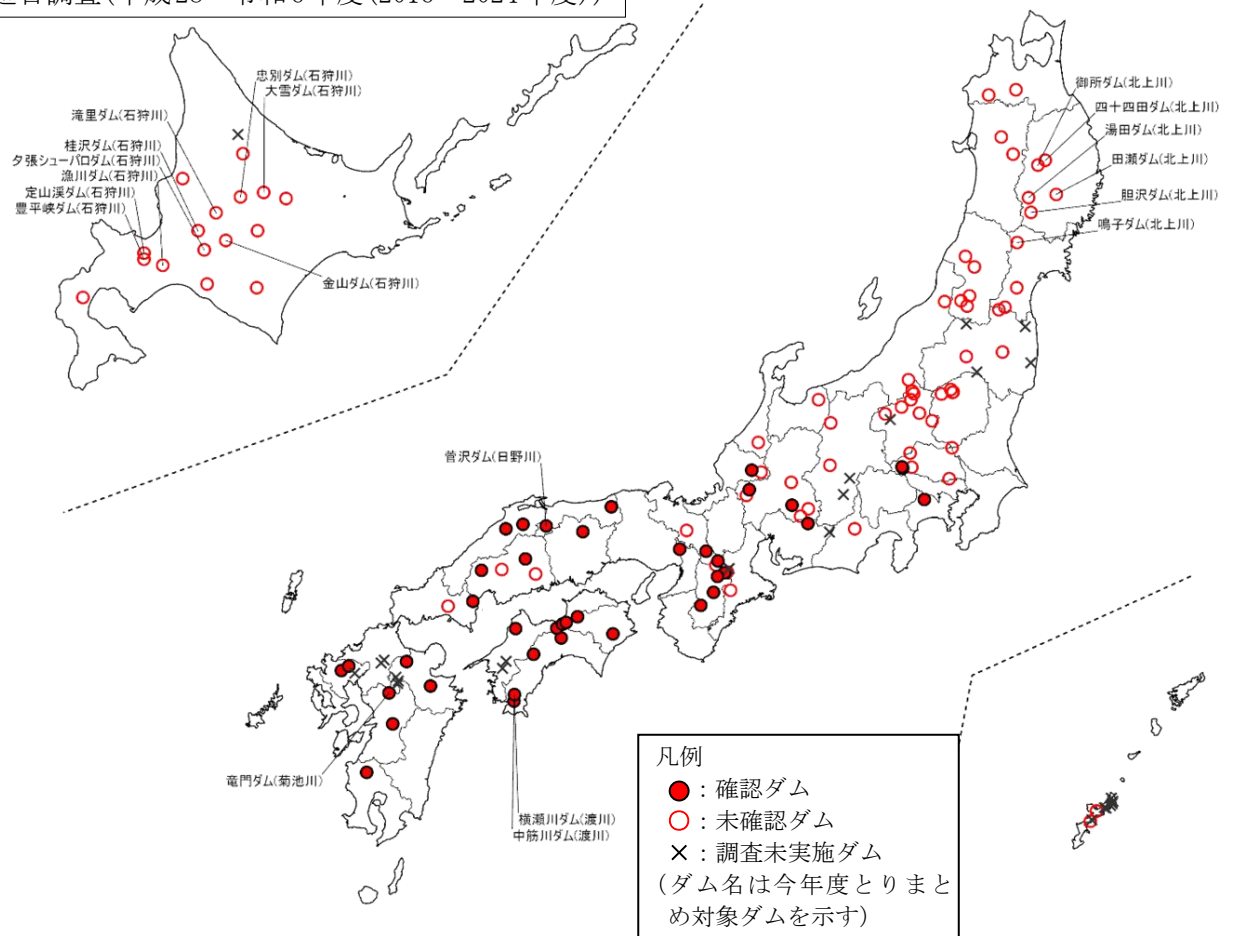


図 5-25 ソウシチョウの確認状況 (5 巡目調査)

### 5.3 注目すべき種の分布状況

#### (1) ダム湖を休息場・採餌場として利用する鳥類の把握

・越冬期にダム湖の調査を行った 19 ダムのうち 16 ダムにおいて、湖面で水面採餌型のカモ類および潜水採餌型のカイツブリ類等を確認、ダム湖が休息場として利用されていることを確認

越冬期にダム湖の調査を行ったダムのうち 16 ダムでカモ類およびカイツブリ類を確認し、ダム湖が休息場および採餌場として利用されていることを確認しました。採食型別にみると、水面採食を行う種が大部分を占めていました。これらの種はダム湖面を越冬場所、あるいは渡りの休憩場所として利用していると考えられます。

水辺に生息する鳥類のうち、カモ類の多くは越冬期に日本各地に渡来し、湖や海を休息場・採餌場等として利用します。そのため、山間部に出現したダム湖はこれらカモ類にとって新たな越冬場所となっていることが考えられます。また、魚食性の鳥類であるカイツブリ類等は、ダム湖を採餌場所として利用していると考えられます。そこで、越冬期にダム湖面および水位変動域周辺で確認されたカモ類およびカイツブリ類の個体数を採餌型別に整理しました。（下流河川等ダム貯水池以外で確認された鳥類および集団分布地調査で確認された鳥類は対象外としました。）

越冬期のダム湖の調査を実施した 19 ダムのうち 16 ダムで、ダム湖で休息するカモ類およびカイツブリ類が確認されました。

採食型別にみると、いずれのダムも水面採食型の種が大部分を占めており、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモが多く確認されました。3～5 巡目を通じて確認個体数が少ないダムもありますが、多くのダムでは、越冬期のダム湖面が越冬場所や渡りの休憩場所として利用されていると考えられます。また、潜水採餌を行う種のうち、ホシハジロが東北の御所ダム、四十四田ダムで多く確認されました。また主に魚食性のカワアイサについては、北海道の忠別ダム、金山ダム、滝里ダム、漁川ダム、東北の湯田ダムなど、多くのダムで確認されています。また、魚食性のカイツブリ類については、10 ダムで確認されています。

なお、3 巡目、4 巡目調査と比較すると、各ダムの確認個体数は大きく増減しており、特に個体数が比較的多く確認されている東北の四十四田ダム、御所ダム、田瀬ダム、湯田ダム、鳴子ダム、四国の中筋川ダムで個体数の増減が顕著でした。また、東北の鳴子ダム、四国の中筋川ダムでは、5 巡目にかけて増加傾向が見られ、特に中筋川ダムでは 5 巡目で 8,000 羽以上と大幅に増加しました。対して、北海道の忠別ダム、金山ダム、滝里ダムを除くと、北海道のその他のダムでは越冬期に確認がない、もしくは非常にカモ類の個体数が少ないダムがありました。これらは、湖面が凍結する前に調査を行ったために越冬個体が確認されなかった場合や、実際に凍結したために利用されていない場合もあり、周辺の環境の変化や、調査時期、調査時刻による違いなども影響していると考えられます。



(2) ダム湖を利用する猛禽類の確認状況

・ダム湖を利用する猛禽類であるミサゴを 19 ダム中 15 ダムで確認  
 ミサゴは魚食性の猛禽類で、海岸や川、湖等で魚類を捕らえ、ダム湖も狩り場として利用します。今回とりまとめを行った 19 ダム中 15 ダムで確認されました。

表 5-7 指標となる猛禽類のミサゴの確認河川・ダム数の巡目比較（1～5 巡目調査）

種類	1 巡目調査 (81 河川) (81 ダム)	2 巡目調査 (118 河川) (83 ダム)	3 巡目調査 (122 河川) (96 ダム)	4 巡目調査 (123 河川) (112 ダム)	5 巡目調査 (115 河川) (111 ダム)
ミサゴ	54 河川 〔66.7%〕	94 河川 〔79.7%〕	113 河川 〔92.6%〕	115 河川 〔93.5%〕	104 河川 〔90.4%〕
	31 ダム 〔38.3%〕	52 ダム 〔62.7%〕	66 ダム 〔68.8%〕	84 ダム 〔75.0%〕	83 ダム 〔74.8%〕

※ ( ) 内は調査実施河川数、ダム湖数を示す。

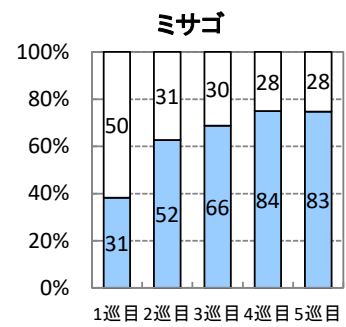
※ [ ] 内は確認河川数、ダム湖数の調査実施河川数、ダム湖数に対する%を示す。

ミサゴは、環境省レッドリストで準絶滅危惧に指定されています。行動圏は広く、海や河川、湖等で中・小型魚を捕食し、人の近づけない海近くの岩棚や崖、水辺に近い大きな木で営巣します。狩場と休息場、営巣地等が近接するダム湖は、ミサゴにとって適した生息場所となる場合があります。近年、ミサゴは内陸での営巣の事例が報告されています。これは、内陸部にダム等による開水面の餌場ができたこと等が影響している可能性が考えられます。

ここでは、ダム湖を利用する猛禽類としてミサゴの確認数がどのように変化したのかを、河川・ダムを含め水系として1～5 巡目で整理しました。ダムでは、令和 6 年度調査を実施した 19 ダムのうち 15 ダムで確認されました。このうち北海道の忠別ダム、桂沢ダム、漁川ダムでは、河川水辺の国勢調査で初めての確認になります。

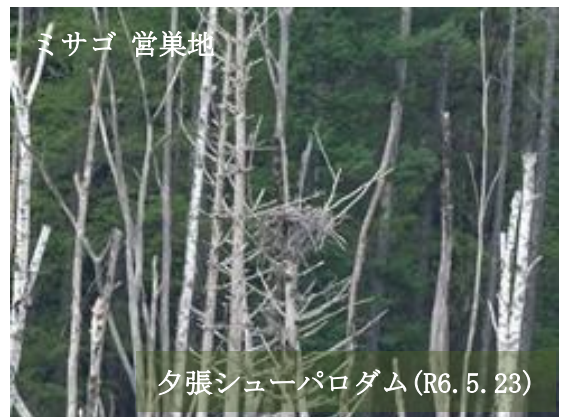
1～4 巡目のミサゴが確認されたダム数の割合で比較すると、ミサゴが確認されるダム数の割合が増加する傾向がみられました。さらに、確認された地点をみると、1 巡目では河口部付近の調査地区でのみ確認されている河川が多いですが、2 巡目以降から特に内陸の河川調査地区でも多く確認されるようになり、河口から内陸方向へ分布が拡大している傾向がみられました。これは、ミサゴのダム湖周辺を含む内陸部での営巣が増えたこと、またその営巣場所から採餌場所へ飛ぶルートとして河川を利用していること等が理由と考えられます。

今回とりまとめを行った 19 ダムのうち、北海道の豊平峡ダム、夕張シューパロダム、九州の竜門ダムで餌運びや営巣地、東北の御所ダム、田瀬ダム、胆沢ダムで餌運びが確認されました。ダム湖がミサゴの生息場として適切であり続けるかどうか、今後も継続して確認していく必要があります。

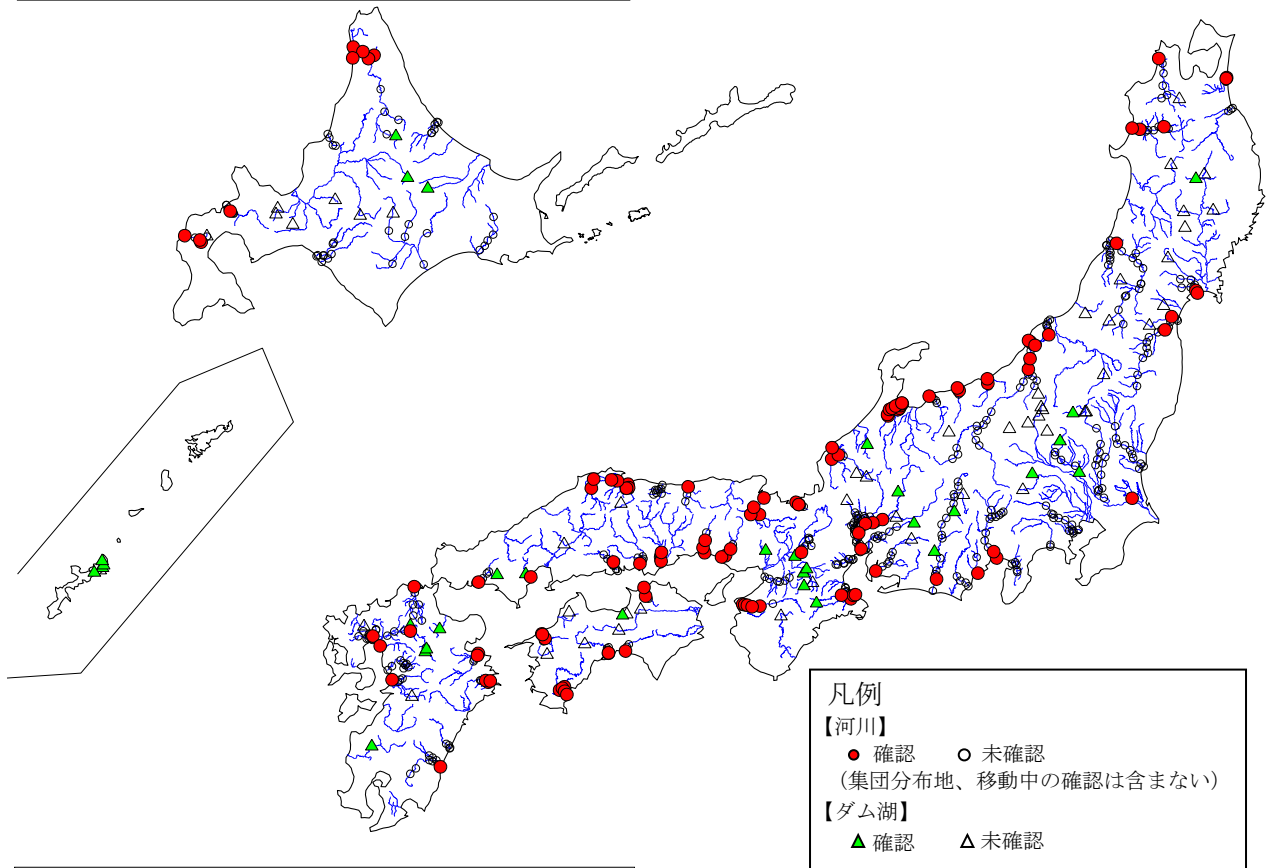


■ 確認ダム □ 未確認ダム

※グラフ中の数字はダム数



1 巡目調査(平成 2～7 年度(1990～1995 年度))



2 巡目調査(平成 8～12 年度(1996～2000 年度))

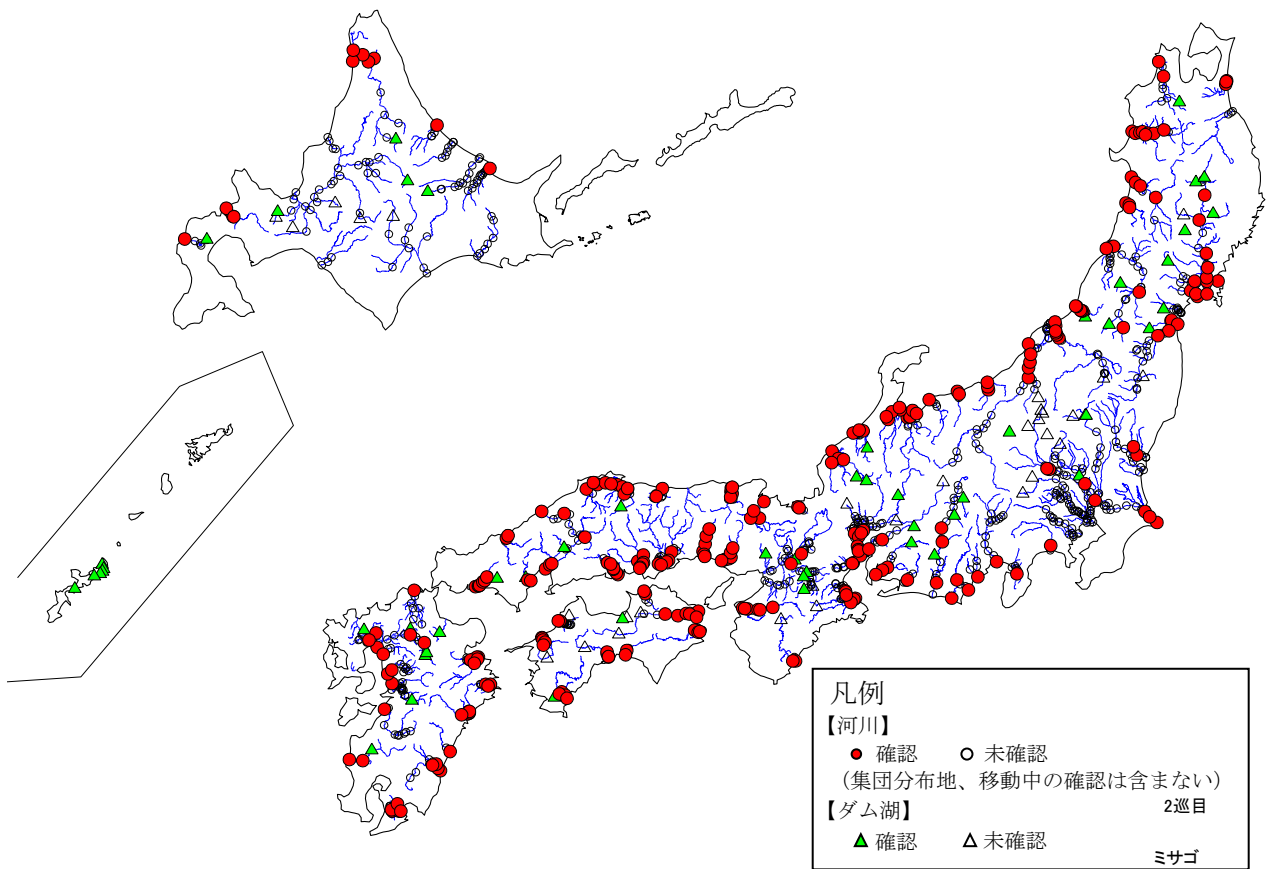
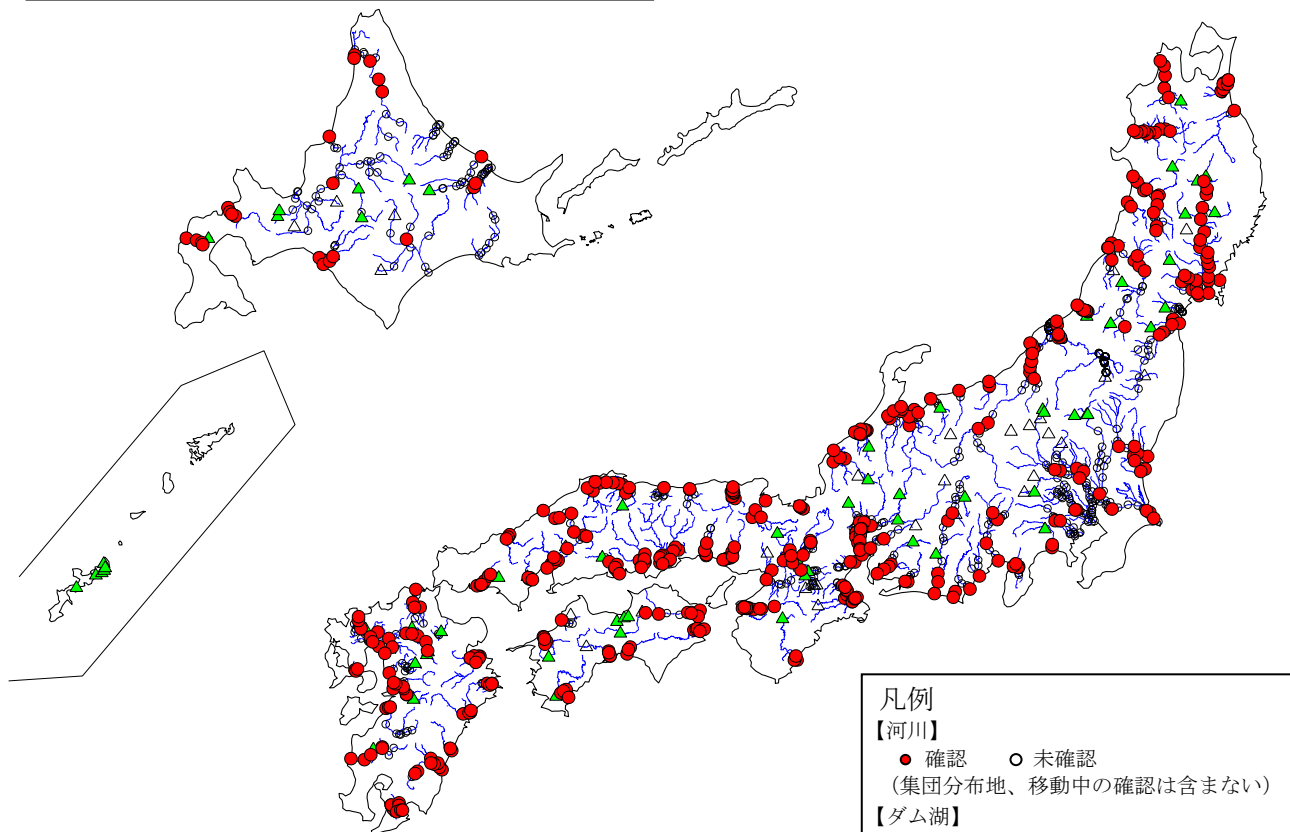


図 5-27 河川・ダムを含めたミサゴの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3 巡目調査(平成13~17年度(2001~2005年度))



4 巡目調査(平成18~27年度(2006~2015年度))

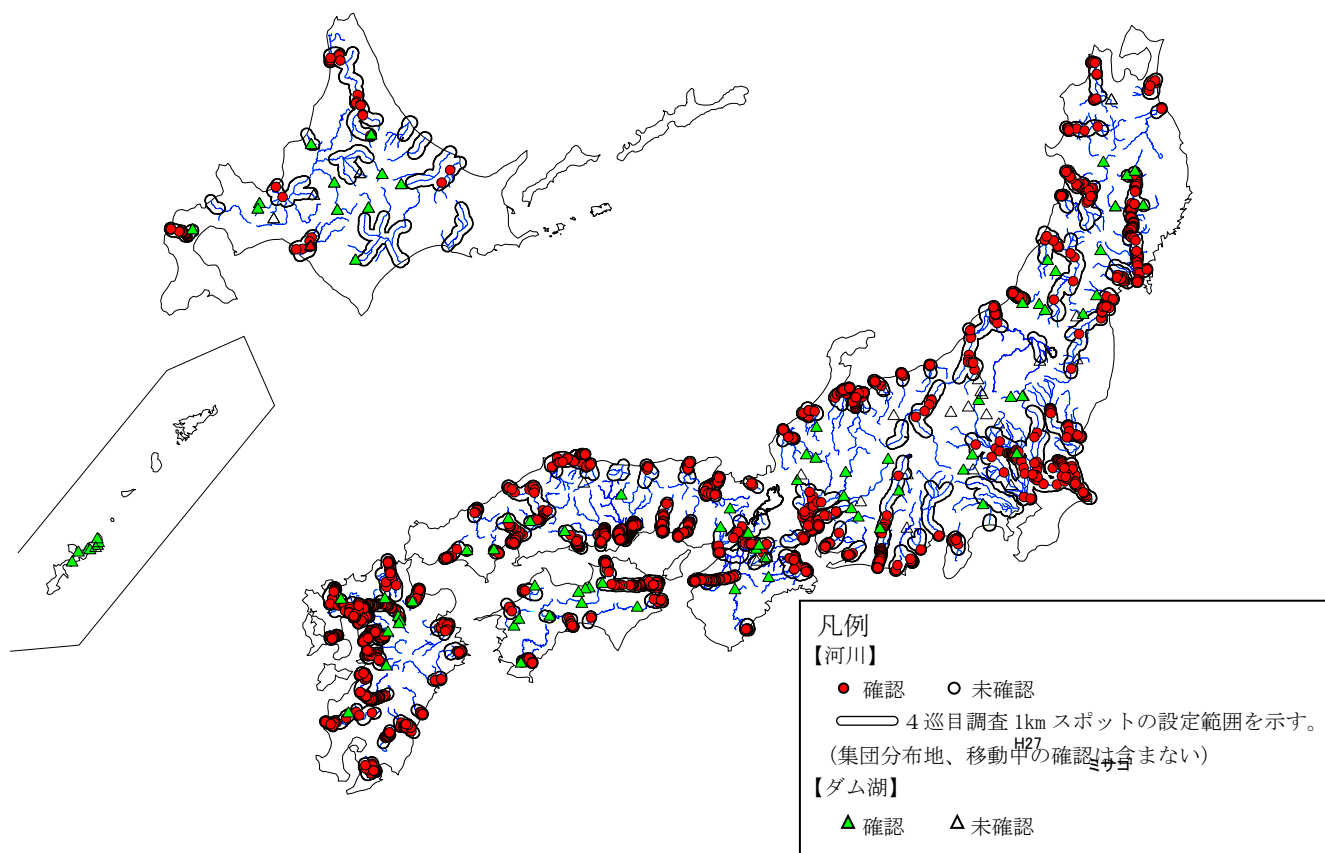


図 5-28 河川・ダムを含めたミサゴの確認状況 (3 巡目調査、4 巡目調査)

5巡目調査(平成28～令和6年度(2016～2024年度))

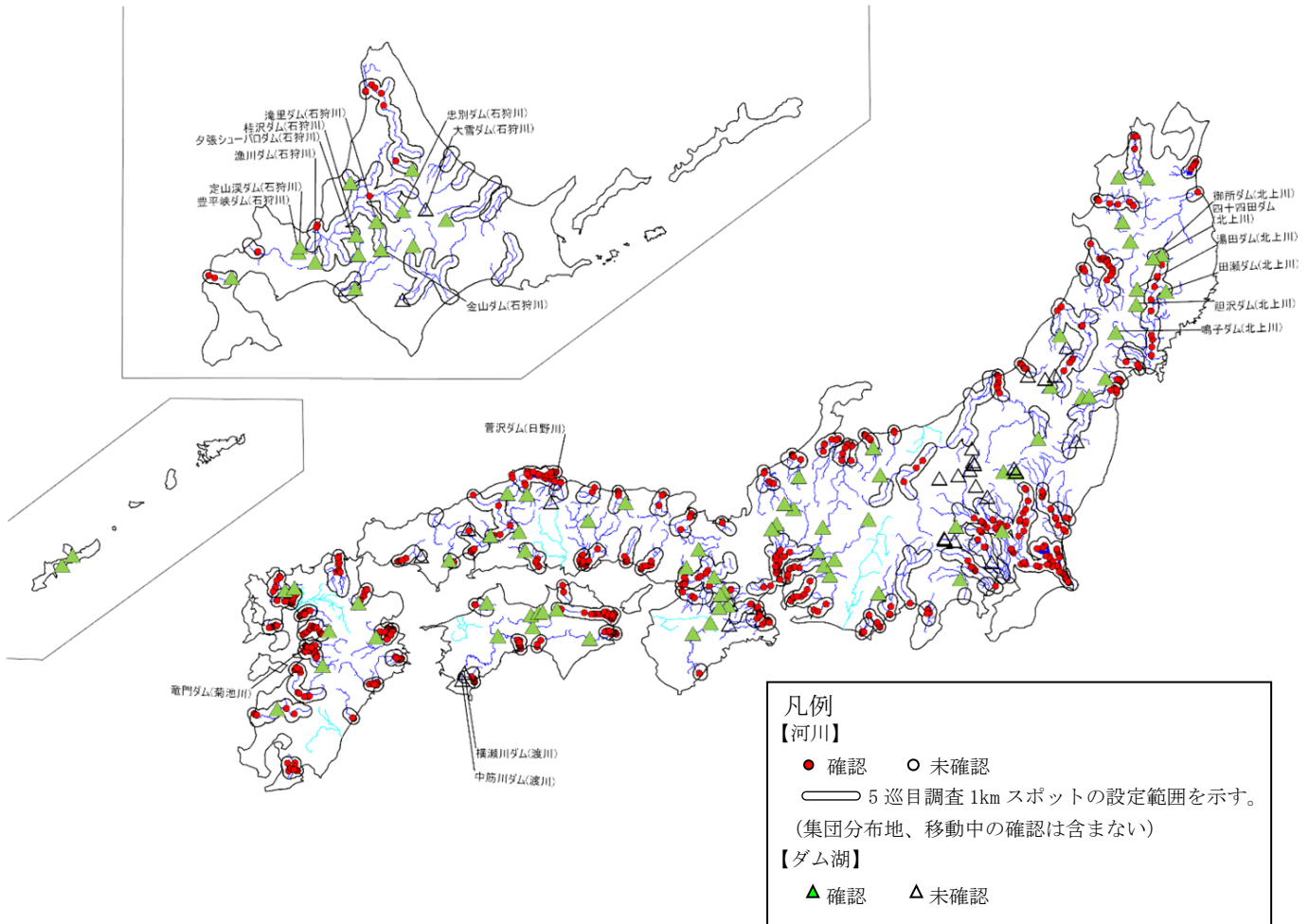


図 5-29 河川・ダムを含めたミサゴの確認状況 (5巡目調査)

また、ダム湖周辺での確認回数が増加していることから、ミサゴの確認時期を整理しました。ミサゴの繁殖時期は、文献により2～8月とされています。しかし、河川水辺の国勢調査では秋渡り調査が8月～9月に実施されており、8月～9月の調査時期を切り分けることが難しいことから、本分析では2～7月の確認を繁殖時期の確認としました。なお、繁殖期であっても、繁殖に参加していない若い個体（1～2才）がいるため、繁殖期に個体が観察されていても、必ずしもその場所で繁殖しているとは限らない点には留意する必要があります。

表 5-8 ミサゴの生活サイクル

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
繁殖サイクル	非繁殖期	求愛期	造巣期	抱卵期	巣内育雛期	巣外育雛期	巣外育雛期	非繁殖期	非繁殖期	非繁殖期	非繁殖期	非繁殖期

参考文献：

- \*1：森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 図鑑日本のワシタカ類. 文一総合出版. 東京
- \*2：白井伸和・高橋久・河原奈苗・永坂正夫・深沢愛・三浦淳男. 2006. 河北潟の周辺地域におけるミサゴの繁殖生態 第一報 営巣地の分布と最近6年間の繁殖状況について. Kahokugata Lake Science 9. 金沢
- \*3：財団法人日本鳥類保護連盟石川県支部. 2001. 私たちの郷土 タカ・ハヤブサ類の営巣等調査報告書. 財団法人日本鳥類保護連盟石川県支部. 羽咋

地方別に整理した結果は下図のとおりです。1巡目は確認ダム数も少なく、非繁殖期のみでの確認が多くなっていましたが、北海道、東北については1～4巡目にかけて、九州は2巡目以降、中国は3巡目以降、近畿、中部は4巡目以降に繁殖期の確認ダム数が増加していました。なお、5巡目調査が全て終了している関東では、4巡目までは繁殖期の確認ダム数が増加していましたが、5巡目では唯一、確認ダム数が減少しました。

5巡目の調査は111ダムのみであるため全体的な傾向は不明ですが、ミサゴが確認された83ダムのうち、繁殖期に確認されたダム数は75ダムとなっていました。その中の複数のダムにおいて、餌運びや巣材運び、抱卵又は抱雛等の繁殖行動が確認されています。利用されるようになった時期は地方毎に異なりますが、ダム湖周辺はミサゴに繁殖場として利用されている可能性が高いといえます。

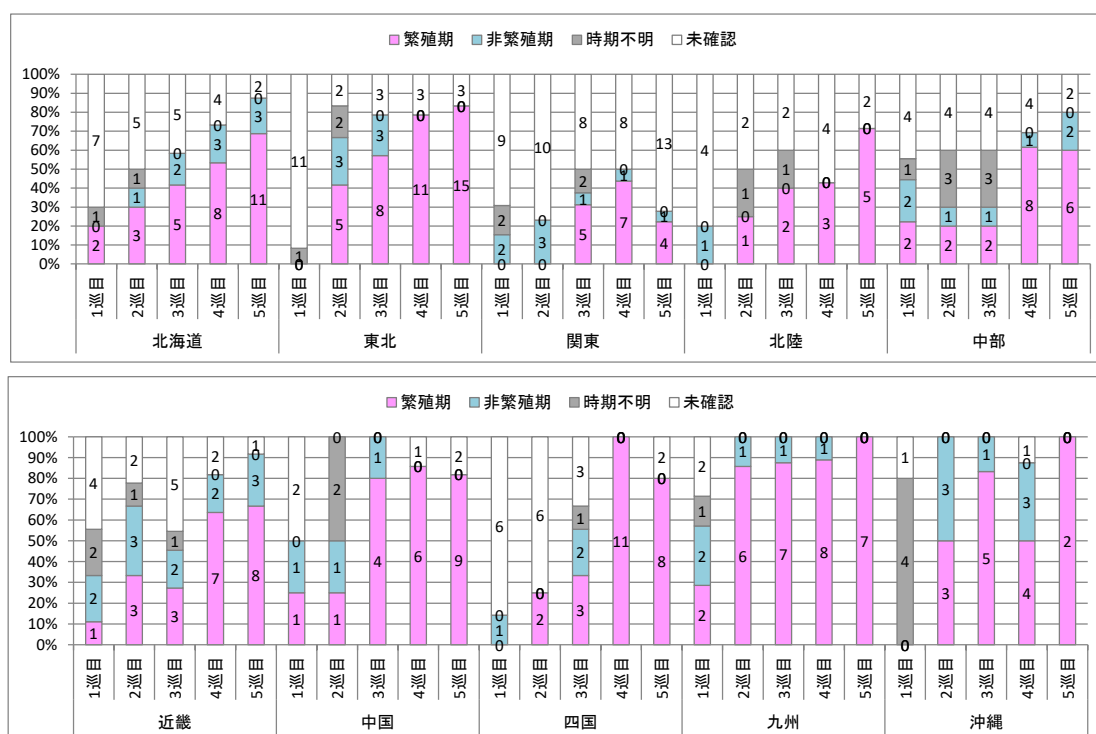


図 5-30 ミサゴの地方別確認時期の割合 (ダムのみ)

(3) 内水面漁業と関わりのある鳥（カワウ）の確認状況

・カワウを 19 ダムのうち 17 ダムで確認  
 今回分とりまとめ対象とした 19 ダムのうち 17 ダムでカワウが確認されました。

表 5-9 カワウの確認ダム数の巡目比較

種類	1 巡目調査 (81 河川) (81 ダム)	2 巡目調査 (118 河川) (83 ダム)	3 巡目調査 (122 河川) (96 ダム)	4 巡目調査 (123 河川) (112 ダム)	5 巡目調査 (115 河川) (111 ダム)
カワウ	53 河川 〔72.8%〕	98 河川 〔83.1%〕	109 河川 〔89.3%〕	119 河川 〔96.7%〕	115 河川 〔100.0%〕
	19 ダム 〔23.5%〕	36 ダム 〔43.4%〕	66 ダム 〔68.8%〕	90 ダム 〔80.4%〕	106 ダム 〔95.5%〕

※ ( ) 内は調査実施河川数、ダム湖数を示す。

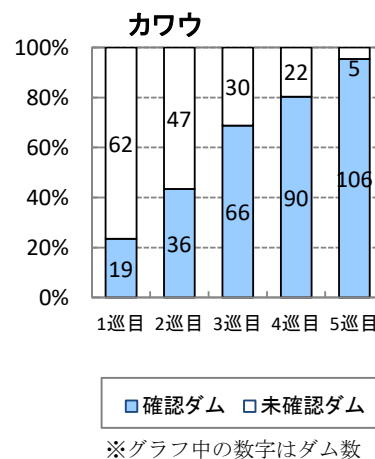
※ [ ] 内は確認河川数、ダム湖数の調査実施河川数、ダム湖数に対する%を示す。

カワウは、内湾部や内陸の河川、湖沼等に生息し、その近くの林等で集団繁殖します。主に魚類や甲殻類を潜水して捕らえます。1960年代から1970年代後半にかけて、河川環境の悪化により数千個体にまで減少し、絶滅が危惧されました。しかし、水質改善等による河川環境の改善により、近年では個体数が増加し、一部の地域では放流されたアユ、アマゴ、ニジマス等を食害し、内水面漁業に被害を与えている例も知られています。

カワウは今回分析対象とした19ダムのうち、17ダムで確認されました。このうち、北海道の忠別ダム、漁川ダム、定山溪ダム、東北の湯田ダムでは、河川水辺の国勢調査で初めて確認されました。過年度の1~4巡目の調査結果では、確認ダム数が増加しています。特に、1巡目以前にはほとんど確認されていなかった東北地方や北陸地方、北海道等の地域における分布拡大傾向について、留意していく必要があると考えられます。

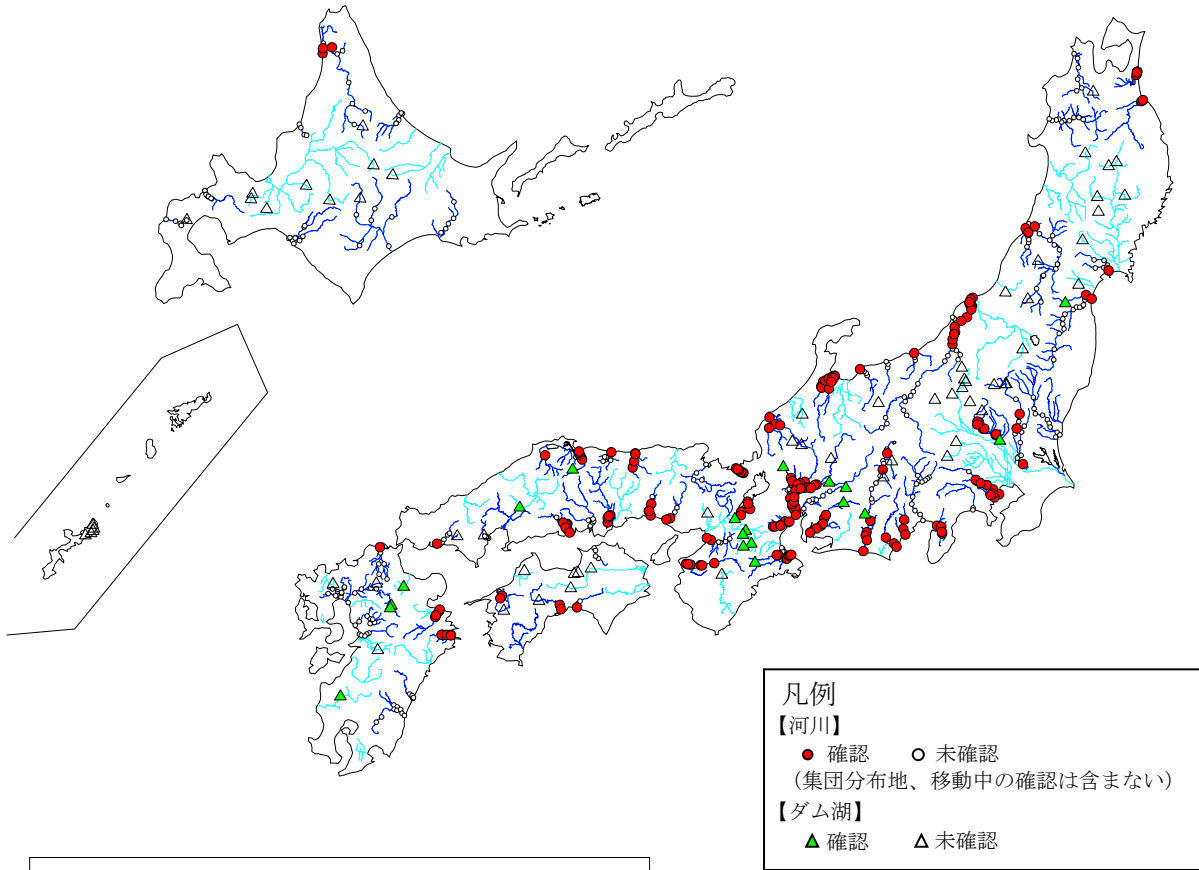
カワウは各河川（水系）の下流から上流に向かって分布を広げ、最終的に最も上流に位置するダム湖周辺にまで到達するものと考えられます。河川におけるカワウの確認状況とダム湖の確認状況を重ね合わせたところ、河川の海沿いから内陸にかけて、分布を広げている傾向が見られました。特に5巡目に調査が実施されている利根川水系や荒川水系では、河口部から上流のダム湖にかけて、ほぼ連続的にカワウが分布していることが確認されました。

ダム湖周辺でもカワウのねぐらや繁殖コロニーが確認されていますが、今回カワウが確認された17ダムのうち、東北の四十四田ダム、田瀬ダム、胆沢ダムで集団繁殖地が確認されました。





1 巡目調査(平成 2～7 年度(1990～1995 年度))



2 巡目調査(平成 8～12 年度(1996～2000 年度))

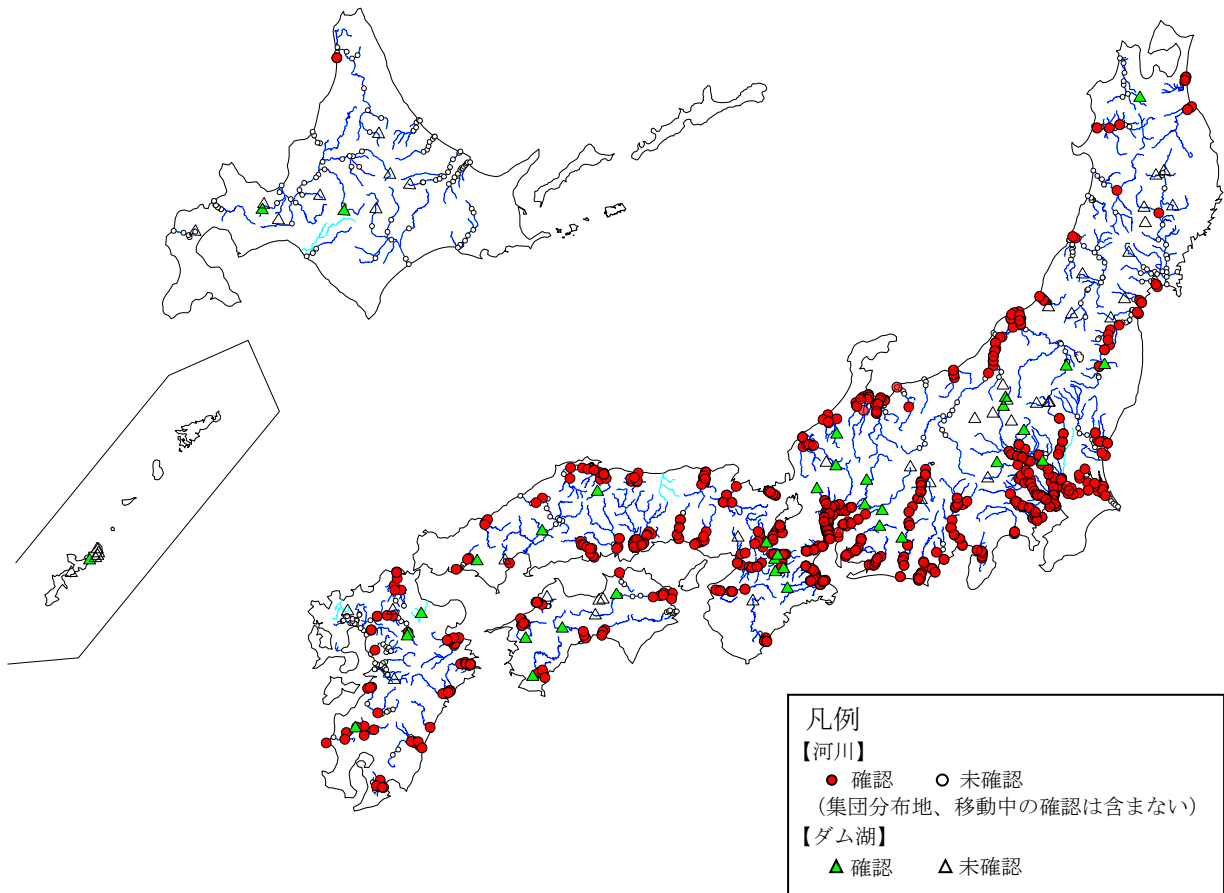
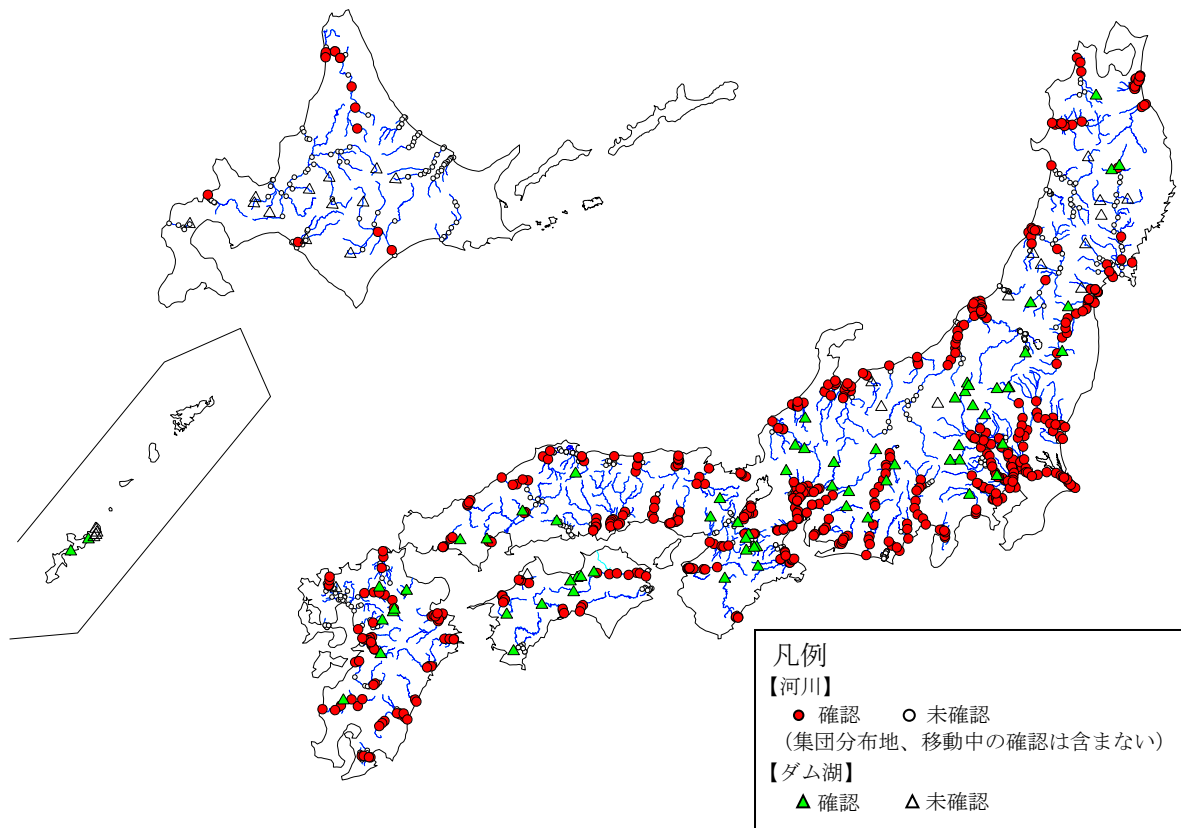


図 5-31 カワウの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3巡目調査(平成13~17年度(2001~2005年度))



4巡目調査(平成18~27年度(2006~2015年度))

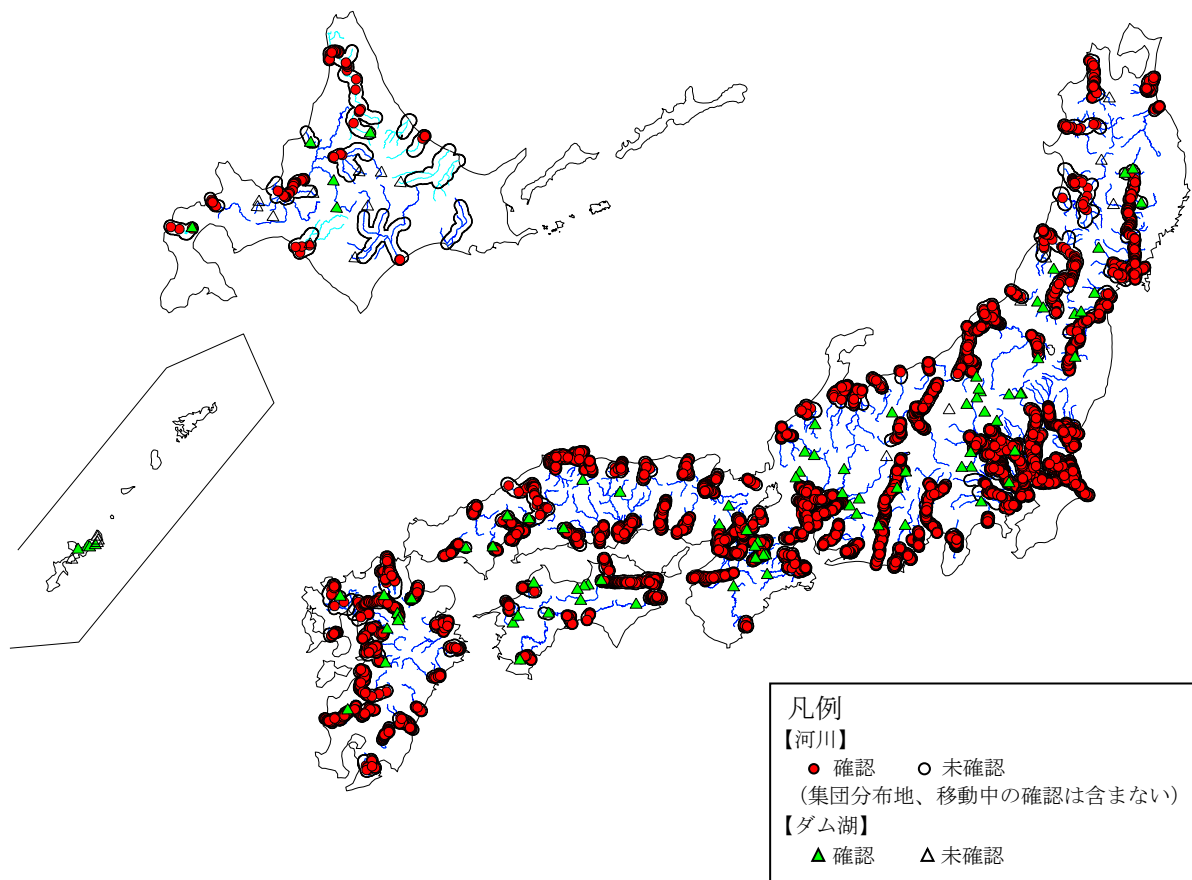


図 5-32 カワウの確認状況 (3巡目調査、4巡目調査)

5 巡目調査 (平成28～令和6年度 (2016～2024年度))

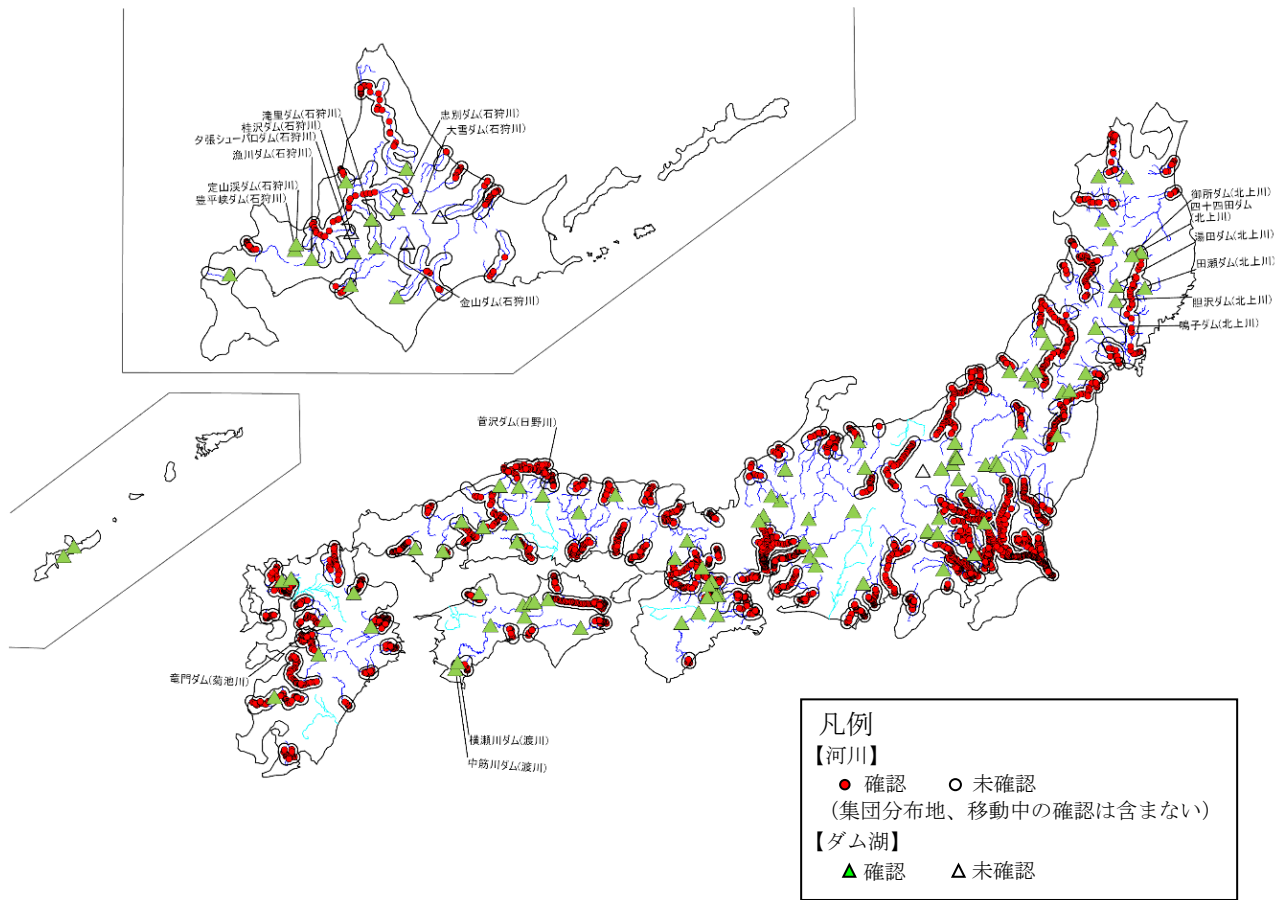


図 5-33 カワウの確認状況 (5 巡目調査)

## 5.4 ダム管理との関わり（ダム湖周辺の生物相）

### (1) ダム湖周辺を利用して繁殖する鳥類

#### ・猛禽類などの重要な種の繁殖を3ダムで確認

今回とりまとめを行ったダムでは、北海道の大雪山ダム、豊平峡ダム、夕張シューパロダム、東北の四十四田ダム、御所ダム、田瀬ダムで、ミサゴやオジロワシ、ハイタカ、サシバ、ハヤブサなどの重要な種の繁殖または繁殖の可能性が確認されました。水辺に巣を作る鳥としては、東北の四十四田ダム、田瀬ダム、胆沢ダムではカワウの集団繁殖地が、北海道の滝里ダム、桂沢ダムでは、アオサギの集団繁殖地が確認されました。

鳥類が繁殖の際にダム湖周辺の環境をどの程度利用しているのか把握するために、ダム湖周辺における鳥類の繁殖状況を整理しました。繁殖が確認された、もしくは繁殖の可能性ありとされた種は、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ミサゴ、イワツバメ等の52種でした。

繁殖が確認された種数が多かったダムは、北海道の桂沢ダム、東北の四十四田ダム、御所ダムが最も多くそれぞれ5種、次いで北海道の豊平峡ダムで4種でした。

多くのダムで繁殖が確認された種は、イワツバメで19ダム中5ダム、アオサギ、カワウが3ダム、そのほかにミサゴ、アカゲラ、ハヤブサ、ニューナイスズメが19ダム中2ダムでした。

水辺を採食場所として利用する鳥類としては、北海道の桂沢ダム、東北の四十四田ダムでキセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイなどが確認されました。

重要な種では、環境省レッドリストで準絶滅危惧(NC)に指定されているミサゴが北海道の豊平峡ダム、夕張シューパロダムで、ハヤブサが北海道の豊平峡ダム、東北の御所ダムで確認されました。

集団繁殖地としては、ダム湖周辺でダム堤体付近や橋梁、建物等を営巣場所として利用するイワツバメが5ダムで、カワウが3ダムで、アオサギが2ダムで確認されました。

表 5-10 集団繁殖地一覧（令和6年度）

地方	ダム名	種名	集団分布地の状況
北海道	金山ダム	イワツバメ	イワツバメ:繁殖期に大平橋で40巣
	滝里ダム	アオサギ	アオサギ:繁殖期にダム湖堤体付近でアオサギの集団繁殖地(5巣、幼鳥7)
		イワツバメ	イワツバメ:繁殖期に滝里大橋で15巣、富良野大橋で2巣・雛1
	桂沢ダム	アオサギ	アオサギ:繁殖期にダム堤体左岸の樹林に成鳥11個体、6巣
		イワツバメ	イワツバメ:繁殖期に桂沢大橋に成鳥152個体、72巣
	漁川ダム	イワツバメ	イワツバメ:繁殖期にダム湖取水塔で50巣程度(推定)、水精橋欄干部に50巣程度(推定)。それぞれ成鳥50個体の飛翔を確認。
夕張シューパロダム	イワツバメ	イワツバメ:繁殖期に北栄橋で成鳥50個体・28巣、緑橋で成鳥25個体・12巣、白銀橋で成鳥40個体・18巣	
東北	四十四田ダム	カワウ	カワウ:繁殖期にダム湖左岸で234巣、巣上の雛45個体、巣立ち幼鳥51個体
	田瀬ダム	カワウ	カワウ:繁殖期に猿ヶ石川流入部付近で32巣、成鳥44個体、幼鳥35個体
	胆沢ダム	カワウ	カワウ:繁殖期に平根原地区で7巣



表 5-11 鳥類繁殖状況一覧（令和6年度）

No	目名	科名	種名	北海道										東北							中国	四国	九州	繁殖の状況						
				大雪ダム	忠別ダム	金山ダム	滝里ダム	桂沢ダム	漁川ダム	豊平峡ダム	定山溪ダム	夕張シューパロダム	四十四田ダム	御所ダム	田瀬ダム	湯田ダム	胆沢ダム	鳴子ダム	菅沢ダム	中筋川ダム	横瀬川ダム	竜門ダム	●確認された	▲可能性あり						
1	キジ目	キジ科	エゾライチョウ							●				▲														1	1	
2			キジ											▲	▲													0	2	
3	カモ目	カモ科	オシドリ							▲																		0	1	
4			マガモ											▲														0	2	
5	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ		▲																							0	1	
6			カムリカイツブリ											▲	●													1	1	
7	カツオドリ目	ウ科	カワウ											●		●		●										3	0	
8	ペリカン目	サギ科	アオサギ			▲	●	●									●											3	1	
9	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ							●				●	▲		▲											2	3	
10		タカ科	トビ																						●			1	0	
11			オジロワシ		▲																							0	1	
12			ツミ		▲																							0	1	
13			ハイタカ														▲											0	1	
14			サシバ														▲											0	1	
15	キツク目	キツク科	コゲラ		▲																							0	1	
16			オオアカゲラ				▲		▲																			0	2	
17			アカゲラ		●				▲							▲												2	5	
18			クマガラ				▲	▲																				0	2	
19			ヤマゲラ						▲																			0	1	
20	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ							●					●													2	0	
21	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ											▲														0	1	
22		カササギヒタキ科	サンコウチョウ											●														1	0	
23		モズ科	モズ						▲																			0	1	
24		カラス科	ハシボソガラス					▲	▲								●											1	2	
25			ハシブトガラス						▲																			0	1	
26		シジュウカラ科	ハシブトガラ																									1	0	
27			ヤマガラ													▲													0	2
28			ヒガラ						▲	●																		1	1	
29			シジュウカラ							●																▲	▲	1	2	
30		ツバメ科	ツバメ																						▲	▲	0	2		
31			イワツバメ							●	▲	●	●	●	▲		●											5	2	
32		ヒヨドリ科	ヒヨドリ														▲											0	1	
33		ウグイス科	ウグイス													▲												0	1	
34			ヤブサメ													▲												0	1	
35		ムシクイ科	センダイムシクイ													▲												0	1	
36		メジロ科	メジロ																								▲	0	1	
37		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ			●				▲																		1	1	
38		ミンサザイ科	ミンサザイ						▲																			0	1	
39		ムクドリ科	ムクドリ												●													1	0	
40			コムクドリ																									1	0	
41		カワガラス科	カワガラス																									0	1	
42		ヒタキ科	クロツグミ																									0	1	
43			コサメビタキ													▲												1	2	
44			キビタキ														▲											0	1	
45			オオルリ							●																		1	0	
46		スズメ科	ニューナイスズメ					●									●											2	0	
47		セキレイ科	キセキレイ						●																			1	1	
48			ハクセキレイ						▲								●											1	2	
49			セグロセキレイ														●											1	0	
50		アトリ科	カワラヒワ																								▲	0	1	
51		ホオジロ科	ホオジロ														▲											0	3	
52			アオジ						●																			1	0	
合計	9目	28科	52種			6	2	4	9	13	4	4	3	4	16	8	7	1	5	1	1	1	2	2	4					
			●：繁殖が確認された			1	1	0	3	5	2	4	3	1	5	5	3	1	1	0	0	0	1	0						
			▲：繁殖の可能性がある。			5	1	4	6	8	2	0	0	3	11	3	4	0	4	1	1	2	1	4						

繁殖の確認基準

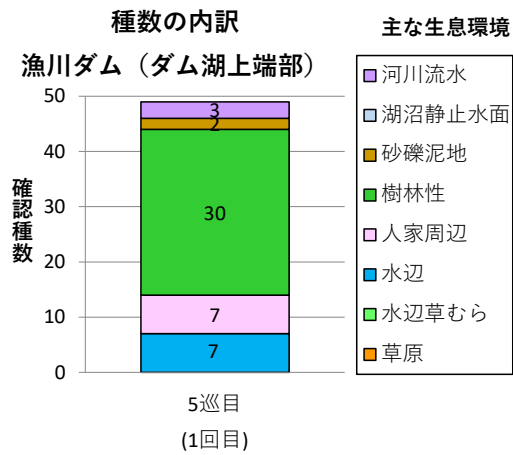
●：繁殖を確認した

成鳥 … 巣への出入り、抱卵・抱雛、雛の糞の運搬、偽傷行動等  
 巣 … 巣立ち後の巣、卵のある巣等の確認  
 雛 … 姿・声の確認  
 巣立ち雛 … 巣からほとんど移動していないと思われる巣立ち雛の確認

▲：繁殖の可能性がある

成鳥 … 求愛・交尾行動、威嚇・警戒行動、造巣行動、巣材の運搬、餌の運搬等  
 巣立ち雛 … 移動可能な巣立ち雛、家族群確認  
 巣 … 巣のみの確認、卵かくのみの確認





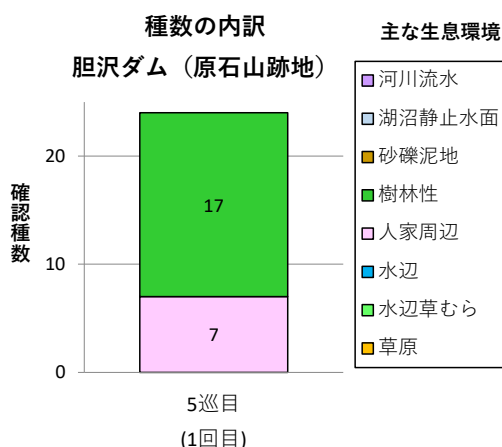
写真出典：堰堤維持の内 漁川ダム水辺現地調査(鳥類・ダム湖利用実態)業務報告書（令和7年3月）

② 胆沢ダムの地形改変箇所(原石山跡地) [ダム管理開始:平成 25 年度(2013 年度)]

胆沢ダムの地形改変箇所は、原石山跡地で、ダム左岸の大森山改変跡地になります。平成 24 年(2012 年)に、胆沢ダム周辺で採取された在来のブナやナラなどの苗木の植樹が行われています。

5 巡目の調査では、13 科 24 種の鳥類が確認されました。キジバト、アオバト、アカゲラなどの樹林性の種数が多く、モズやトビ、カワラヒワ、ホオジロなどの人家周辺の鳥類も多く確認されています。原石山の環境は、当初は裸地であった改変箇所が徐々に草地、灌木地に遷移している途中で、周辺に残った樹林地に樹林性の鳥類が、灌木のある開けた環境にウグイスなどが見られる環境となっています。

植栽が行われてから 12 年程度経過し、改変箇所の遷移も徐々に進んでいます。植樹された樹木もまだ小さいことから、植生とともに鳥類相も変化していくと考えられます。



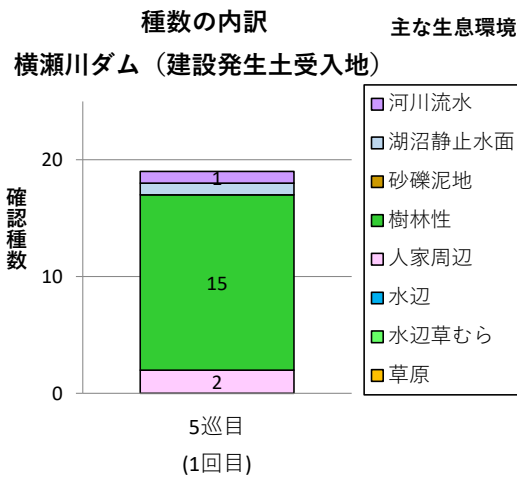
写真出典：田瀬ダム・湯田ダム・胆沢ダム水辺現地調査(鳥類外)業務報告書 (令和 7 年 3 月)

③ 横瀬川ダムの地形改変箇所（建設発生土受入地） [ダム管理開始：令和2年度]

横瀬川ダムの地形改変箇所は、建設発生土受入地で、ダム湖の右岸奥の谷内にあります。建設発生土の搬入後、植栽等を行われておらず、現在は跡地に草地が広がる環境となっています。

5巡目の調査では、13科19種の鳥類が確認されました。ウグイスやサンコウチョウ、オオルリなどの樹林性の鳥類が殆どを占め、ハシブトガラス、ホオジロなどの人家周辺の鳥類も少数、確認されました。

ダムの管理開始から4年経過していますが、植栽等が行っていないことから、改変区域はまだ植生は十分に発達していない状況です。今後、植生の遷移に伴って鳥類相が変化していくものと考えられます。



写真出典：令和5～6年度 中筋川ダム外水辺現地調査（鳥類外）業務報告書（令和7年3月）

④ 竜門ダムの地形改変箇所(掘削法面等)

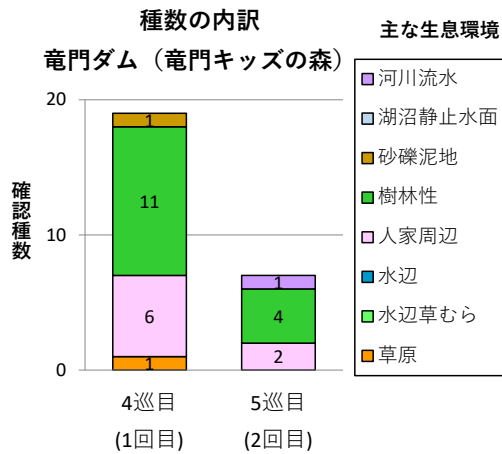
[ダム管理開始:平成 14 年度(2002 年度)]

竜門ダムの地形改変箇所は、ダムサイト右岸の掘削法面です。ダム関連施設の脇で、周辺は芝地として整備されています。

4 巡目の調査では、15 科 18 種の鳥類が確認されました。4 巡目では、湖面にいたと考えられるオシドリやマガモなどのカモ類や、カワウ、カイツブリなどの水鳥が確認されていました。

5 巡目の調査では、13 科 15 種の鳥類が確認されました。5 巡目では水鳥の確認はカワウのみで、コゲラやリュウキュウサンショウクイ、メジロ、ジョウビタキ、イカル等の樹林性鳥類が新たに確認されています。

掘削法面等でカモ類等の水鳥が確認されなかったのは偶然かもしれませんが、芝地周辺の樹林地が徐々に生育し、樹林性鳥類は増加傾向にあると考えられます。芝地自体は維持・管理されて大きな変化はないと考えられますが、周辺の樹林の生育により、鳥類相がこれからも徐々に変化していく可能性があると考えられます。





写真出典：河川水辺の国勢調査（鳥類調査他）業務報告書（平成 27 年 3 月）

令和 6 年度竜門ダム河川水辺の国勢調査（鳥類・利用実態）業務報告書（令和 7 年 3 月）

## 2) 環境創出箇所における確認状況

### ・環境創出した樹林・草地環境、湿地環境を利用する鳥類を確認

ダム建設に伴い整備された、ビオトープ等の環境創出箇所における鳥類の確認状況を整理しました。今回とりまとめを行ったダムのうち、環境創出箇所における調査が行われたのは4ダムでした。

忠別ダムでは、池などのビオトープ造成地等が整備され、水辺の鳥類の利用が確認されました。胆沢ダムでは、多様性に富んだ湿地環境が造成・整備され、多様な鳥類が生息できる環境が維持されています。中筋川ダムでは、トンボやホタルを保全するために池を中心としたビオトープが整備されています。竜門ダムでは、植栽された樹木が繁茂する公園が整備されています。

#### ① 忠別ダムの環境創出箇所（フクロウ池・バックウォーター部）

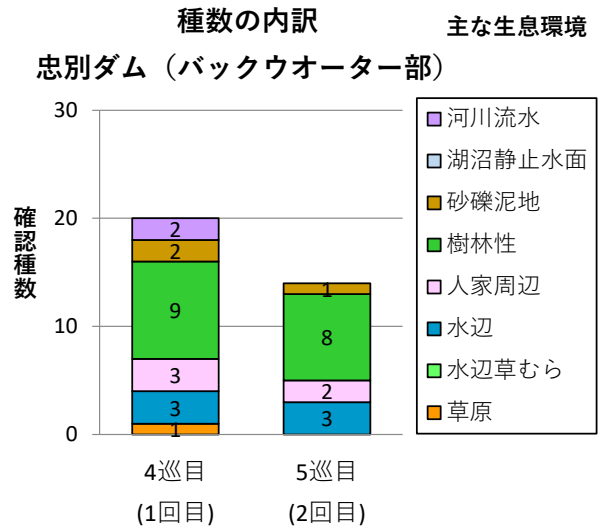
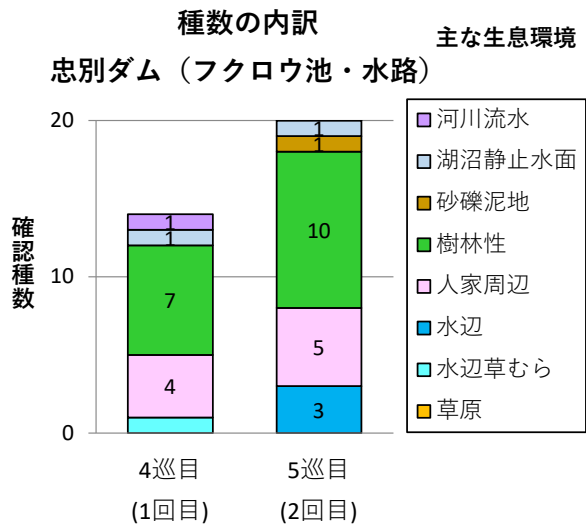
[ダム管理開始:平成18年度(2006年度)]

忠別ダムの環境創出箇所は、フクロウ池とバックウォーター部です。フクロウ池は、忠別川右岸側に造成され、カモ類などの利用が確認されていて、モツゴやドジョウなどの魚類が確認されています。バックウォーター部は忠別川のダム湖流入部左岸側の水際部にあり、出水や土砂の浚渫等により、定期的に攪乱が生じる環境となっています。

4巡目の調査では、フクロウ池で13科14種、バックウォーター部で16科21種の鳥類が確認されました。フクロウ池において水辺に生息するマガモやカイツブリが確認されましたが、各地点とも樹林性鳥類の種類が多く確認されました。バックウォーター部では、コガモやホオジロ、カワアイサなどのカモ類や、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイなどのセキレイ類が確認されました。

5巡目では、フクロウ池で16科21種、バックウォーター部で11科14種の鳥類が確認されました。種数はフクロウ池で増加し、カワセミやハクセキレイなどの水辺の鳥が増加したほか、ヤマゲラやシジュウカラ、キビタキなど樹林性鳥類も増加していました。池ではカイツブリの繁殖も確認されました。バックウォーター部では種数は減少し、4巡目で確認されていたカモ類、砂泥地を利用するコチドリなどが確認されなくなりましたが、オジロワシやオオワシなどの猛禽類が新たに確認されました。周辺では、アオサギやミサゴの採食行動などが確認されています。

ダムの管理開始から14年程度経過し、各湿地等の管理開始からも15～17年経過しています。一時的に水鳥の種数・個体数は減少したものの、カイツブリ等の水鳥の繁殖にも利用され、その他の水辺の鳥類には採食場所を提供しており、周辺の樹林地では樹林性鳥類が増加するなど、多様性に富んだ良好な環境が維持されていると考えられます。





バックウォーター部（平成26年）



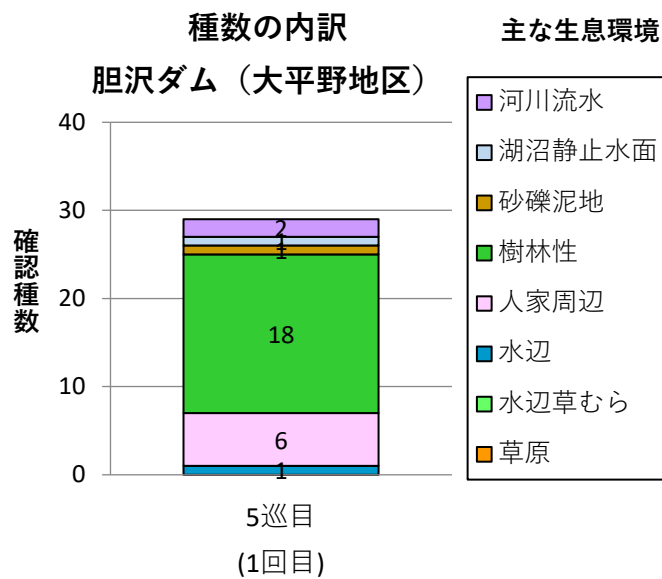
バックウォーター部（令和6年）

写真出典：平成26年度堰堤維持の内忠別ダム自然環境調査業務報告書（平成27年3月）  
 堰堤維持の内 大雪ダム・忠別ダム自然環境調査業務報告書（令和7年3月）

② 胆沢ダムの環境創出箇所(大平野地区) [ダム管理開始:平成25年度(2013年度)]  
 胆沢ダムの環境創出箇所は、大平野地区で、ダム建設により消失する環境の代替措置として草地の整備、湿地の整備を行っています。複数の池や湿地、樹林、草地などの多様な環境が創出されています。

5巡目の調査では、20科29種の鳥類が確認されました。繁殖期には、オシドリ、カイツブリ、カワウ、イカルチドリ等の水辺を利用する鳥類、ツツドリ、カッコウ、クマタカ、コゲラ、ウグイス、ホオジロ等の樹林性・草地性鳥類が確認されました。越冬期には、コゲラ、カケス、エナガ、アオジ等の樹林性草地性鳥類が確認されました。

ダムの管理開始から6年程度経過していますが、人工的に整備された湿地・樹林・草地には多様な植物が繁茂し、周辺にも樹林環境やダム湖等の水辺環境があることから、多様な鳥類が生息できる環境が維持されていると考えられます。





写真出典：田瀬ダム・湯田ダム・胆沢ダム水辺現地調査(鳥類外)業務報告書(令和7年3月)

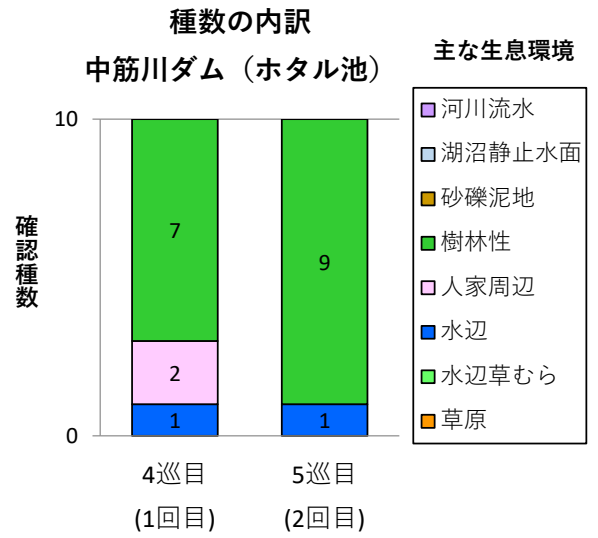
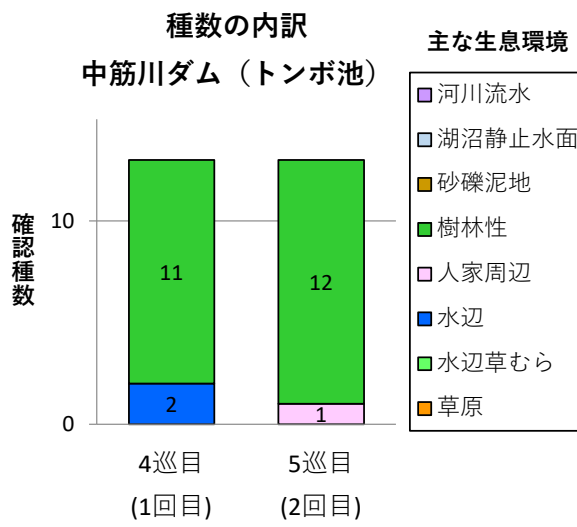
③ 中筋川ダムの環境創出箇所(トンボ池・ホタル池)[ダム管理開始:平成10年度(1998年度)]

中筋川ダムの環境創出箇所は、トンボ池およびホタル池で、トンボおよびホタルそれぞれの生育環境創出を目的として造成されました。水は清水川から引き込まれています。

4巡目の調査では、トンボ池では11科13種、ホタル池では9科10種の鳥類が確認されました。トンボ池ではカワセミやキセキレイなど水辺の鳥類のほか、主に樹林性鳥類が多く確認されていました。ホタル池では、水辺の鳥類のカワガラスが確認されたほかは、やはり樹林性の種が多く確認されています。

5巡目の調査では、トンボ池では12科13種、ホタル池では10科10種の鳥類が確認されました。トンボ池ではカワセミやキセキレイなどの水辺の鳥が目視で確認されなくなりましたが、録音調査ではそれぞれ確認されています。4巡目調査と比較すると、鳥類全体の確認個体数は大きく減少していますが、メジロやイカルなど、群れで移動する鳥類の偶発的な要因の可能性が考えられます。ホタル池では、池中央部の植生が草地から低木に変化していますが、特にそれによって種数や個体数等には大きな変化は見られませんでした。別途行ったセンサーカメラ調査では、アオサギやキセキレイの利用も確認されています。

ダムの管理開始から10年程度経過していますが、定期的に植生除去などの維持管理も行われています。それぞれ比較的小さな池ですが、水辺の鳥類の利用も継続的に確認され、周辺に生息する樹林性鳥類にも水場を提供していると考えられます。





写真出典：平成 26 年度中筋川ダム水辺現地調査（鳥類）外業務報告書（平成 27 年 3 月）

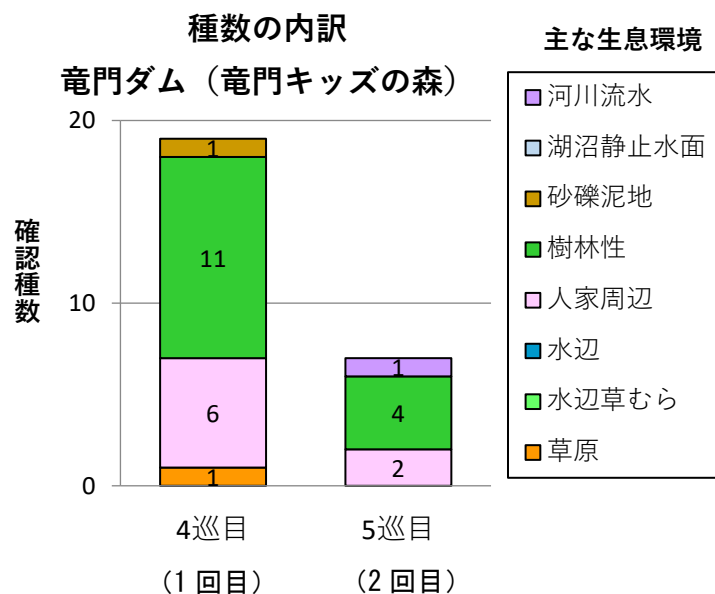
令和 5 - 6 年度 中筋川ダム外水辺現地調査（鳥類外）業務報告書（令和 7 年 3 月）

④竜門ダムの環境創出箇所（竜門キッズの森） [ダム管理開始:平成 14 年度(2002 年度)]

竜門ダムの環境創出箇所は、竜門キッズの森で、ダム湖左岸のヘリポートより水際の範囲に造成されました。市民団体による森づくり活動が行われており、平成 16 年(2004 年度)に植樹会が開催され、植栽された樹木が全体的に繁茂している状況となっています。

4 巡目の調査では、15 科 19 種の鳥類が確認されました。ホトトギスやコゲラ、ヒヨドリなどの樹林性鳥類が多く確認され、特定外来生物のガビチョウも確認されていました。5 巡目の調査では、6 科 7 種の鳥類が確認されました。しかし、種数、個体数ともに 4 巡目より大きく減少していました。カワウ、アオゲラ、イカルの 3 種が新たに確認されましたが、樹林性鳥類、人家周辺の鳥類が大きく減少していました。これは植栽された樹木が遷移して大きく育ち、草地等の環境が減少していること、見通しが悪くなったために確認が少なくなった可能性などが考えられます。

ダムの管理開始から 22 年程度経過していますが、竜門キッズの森は、公園として整備されて維持・管理されています。植生遷移により樹木が育ち、見通しがなくなっていますが、樹林性鳥類の生息場所として、継続して利用されていると考えられます。





写真出典：河川水辺の国勢調査（鳥類調査他）業務報告書（平成 27 年 3 月）

令和 6 年度竜門ダム河川水辺の国勢調査（鳥類・利用実態）業務報告書（令和 7 年 3 月）

表 5-13 地形改変箇所および環境創出箇所の確認種一覧

No	科名	種和名	生息環境※	地形改変箇所				環境創出箇所											
				漁川ダム	胆沢ダム	横瀬川ダム	竜門ダム	忠別ダム		胆沢ダム		中筋川ダム		竜門ダム					
				ダム湖上 端部	原石山跡地	建設発生 土受入地	掘削法面等	フクロウ池・水路	バックウォーター部	大平野地区	トンボ池	ホタル池	竜門キッズの森						
5巡目	5巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目				
1	キジ科	コジユクイ	樹林性				1												
2	カモ科	オンドリ	河川流水	3			10					1							
3	カモ科	ヒドリガモ	河川流水				9												
4	カモ科	マガモ	河川流水	2		2	18		1	2									
5	カモ科	コガモ	河川流水									9							
6	カモ科	ホオジロガモ	海岸									5							
7	カモ科	カワアイサ	河川流水									2							
8	カイツブリ科	カイツブリ	湖沼静止水面			1	3		1	3		1							
9	ハト科	キジハト	樹林性	5	2	1						1			1			1	
10	ハト科	アオハト	樹林性	1	1	1				1		2							
11	ウ科	カワウ	河川流水	1			36	5				1						2	
12	サギ科	アオサギ	砂礫泥地	3				1		2	1	1						1	
13	カウウ科	ジュウイチ	樹林性	1					1			1							
14	カウウ科	ホトトギス	樹林性		4			2				4	1	1	1	1	1	1	
15	カウウ科	ツツドリ	樹林性	1	1					1	2	2	1	2					
16	カウウ科	カウウ	樹林性		4							3							
17	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	樹林性									2							
18	子ドリ科	イカルチドリ	砂礫泥地										2						
19	子ドリ科	コチドリ	砂礫泥地									2							
20	シギ科	オオジシギ	水辺草むら							1									
21	シギ科	イノシギ	砂礫泥地	1															
22	ミサゴ科	ミサゴ	水辺	1			1	1					1						
23	タカ科	ハチクマ	樹林性		1														
24	タカ科	トビ	人家周辺	2	1		2	3					2						
25	タカ科	オジロワシ	水辺							1		1							
26	タカ科	オオワシ	水辺	1								1							
27	タカ科	ハイタカ	樹林性	1															
28	タカ科	オオタカ	樹林性								1								
29	タカ科	サシバ	樹林性																
30	タカ科	クマタカ	樹林性		2							1							
31	フクロウ科	コノハズク	樹林性									1							
32	フクロウ科	アオバズク	樹林性	1															
33	カワセミ科	カワセミ	水辺	1						2			1			1			
34	キツツキ科	コガラ	樹林性			2		2				2	3	1		1	1		
35	キツツキ科	アカガラ	樹林性	2	3							1							
36	キツツキ科	アオガラ	樹林性		3	1												1	
37	キツツキ科	ヤマガラ	樹林性	4						1									
38	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	草原															1	
39	サンショウクイ科	サンショウクイ	樹林性									1							
40	サンショウクイ科	リュウキュウサンショウクイ	樹林性			1		1						3				1	
41	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	樹林性			2								1					
42	モズ科	モズ	人家周辺	4	6					1				4				1	
43	カラス科	カケス	樹林性		3							2							
44	カラス科	ハシソノガラス	人家周辺	2			1	1	2	1	3	3						1	
45	カラス科	ハシブトガラス	人家周辺	12	4	3	4	1	8	1	5	8			1		3	4	
46	キクイタダキ科	キクイタダキ	樹林性	2															
47	シジュウカラ科	ハシブトガラ	樹林性	4															
48	シジュウカラ科	コガラ	樹林性																
49	シジュウカラ科	ヤマガラ	樹林性	10		4	1					3		2					
50	シジュウカラ科	ヒガラ	樹林性	8							1								
51	シジュウカラ科	シジュウカラ	樹林性	20	4					1		1	3	2	4				
52	ヒバリ科	ヒバリ	草原								2								
53	ツバメ科	ツバメ	人家周辺					1											
54	ツバメ科	イワツバメ	人家周辺	1															
55	ヒトリ科	ヒトリ	樹林性	42	5	6	3	3	1	1	2	2	10	6	2	6	3	5	1
56	ウグイス科	ウグイス	樹林性	8	4	3	1		2	2	1	1	5	4	1	3	1	2	
57	ウグイス科	ヤブサメ	樹林性	3															
58	エナガ科	エナガ	樹林性	13	2								3		2				
59	ムシクイ科	オオムシクイ	樹林性	1															
60	ムシクイ科	エゾムシクイ	樹林性	8					1										
61	ムシクイ科	センダイムシクイ	樹林性	9								1							
62	チメドリ科	ガビチョウ	樹林性															2	
63	メジロ科	メジロ	樹林性	6		5		2					1	12	6		9	4	1
64	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	樹林性	6					1										
65	ミソサザイ科	ミソサザイ	樹林性	1														1	
66	カワガラス科	カワガラス	水辺	13															
67	ヒタキ科	トラツグミ	樹林性							1		2							
68	ヒタキ科	クロツグミ	樹林性	7															
69	ヒタキ科	シロハラ	樹林性			3							2					1	
70	ヒタキ科	アカハラ	樹林性	1															
71	ヒタキ科	ツグミ	樹林性	2	1				1		6							10	
72	ヒタキ科	ルリヒタキ	樹林性																
73	ヒタキ科	ジョウビタキ	樹林性			2	1	1					2		1			1	
74	ヒタキ科	キビタキ	樹林性	2		1				1				1					
75	ヒタキ科	オオルリ	樹林性	6		3							1						
76	スズメ科	ニューナイスズメ	樹林性								2								
77	スズメ科	スズメ	人家周辺					7											
78	セキレイ科	キセキレイ	水辺								2		1	1					
79	セキレイ科	ハクセキレイ	水辺	3						2	4								
80	セキレイ科	セグロセキレイ	水辺	6							5								
81	アトリ科	アトリ	樹林性																
82	アトリ科	カワラヒワ	人家周辺	4	1			9	1	1	2	3		3				4	1
83	アトリ科	マヒワ	樹林性			2							2						
84	アトリ科	ベニマシコ	人家周辺			7					1								
85	アトリ科	イカル	樹林性	1				1						9					3
86	ホオジロ科	ホオジロ	人家周辺	7	2	2	3	3	1	1			5		1	1			6
87	ホオジロ科	カンラガカ	人家周辺			6							7						2
88	ホオジロ科	ミヤマホオジロ	人家周辺																
89	ホオジロ科	アオジ	樹林性	12	2	1				1	1	2	1	4	1	1		2	
		種数合計		49	24	19	18	15	14	21	21	14	29	13	13	10	10	19	7
		個体数合計		267	71	44	112	27	16	37	58	22	81	48	23	21	21	48	13

※生息環境については、「中村登流・中村雅彦(1995) 原色日本野鳥生態図鑑—水鳥編、—陸鳥編 保育社。」によった。





表 5-15 令和6年度(2024年度)河川水辺の国勢調査〔ダム湖版〕とりまとめ対象ダム 現地調査実施状況（鳥類）（1/2）

地方	ダム名	現地調査実施日	調査時期					調査地区数													
			春渡り期	繁殖期	秋渡り期	越冬期	その他	ダム湖			ダム湖周辺				流入河川	下流河川	その他			夜間調査	
								湖面	水位変動域	その他	エコトーン	樹林内	広域定点	その他			地形変更箇所	環境創出箇所	その他		
北海道	大雪ダム	令和6年5月7日～10日、6月3日～7日、10月7日～10日、令和7年2月3日、5～7日、10日	○	○	○	○	-	1	1	-	-	1	3	-	1	1	-	-	-	○	
	忠別ダム	令和6年5月27日、6月10日～13日、10月17日、令和7年1月28日～30日	○	○	○	○	-	4			-	-	2	-	-	3	1	-	2	-	○
	金山ダム	令和6年5月15日～16日、6月12日～13日、10月28日～29日、12月5日～6日	○	○	○	○	-	7	-	-	2	2	-	-	1	1	-	-	-	○	
	漁川ダム	令和6年5月6日～8日、6月23日～27日、10月14日～17日、11月23日～25日	○	○	○	○	-	-	-	3	-	2	-	-	2	2	1	-	-	○	
	滝里ダム	令和6年4月25日～26日、5月10日～14日、6月10日～14日、10月17日、22日～23日、11月25日～26日、28日～30日	○	○	○	○	-	1	1	-	-	2	2	-	4	1	-	-	-	○	
	桂沢ダム	令和6年5月18日、6月21日～23日、10月24日、11月15日、2024年12月11日～12日	○	○	○	○	-	6	-	-	-	4	-	-	2	2	-	-	-	○	
	豊平峡ダム	令和6年5月15日、17日、6月13日～14日、10月11日、11月19日	○	○	○	○	-	1	1	2	-	1	-	-	11	6	-	-	-	○	
	定山溪ダム	令和6年5月16日、6月14日、10月10日、11月18日	○	○	○	○	-	-	-	6	-	1	-	-	10	6	-	-	-	○	
	夕張シューパロダム	令和6年5月21日～23日、6月11日～17日、10月2日～4日、12月3日～5日	○	○	○	○	-	1		2	2	3	-	1	2	1	-	-	-	○	

表 5-15 令和6年度(2024年度)河川水辺の国勢調査 [ダム湖版] とりまとめ対象ダム 現地調査実施状況 (鳥類) (2/2)

地方	ダム名	現地調査実施日	調査時期					調査地区数										夜間調査		
			春渡り期	繁殖期	秋渡り期	越冬期	その他	ダム湖			ダム湖周辺				流入河川	下流河川	その他			
								湖面	水位変動域	その他	エコトン	樹林内	広域定点	その他			地形変更箇所		環境創出箇所	その他
東北	四十四田ダム	令和6年6月2日～3日、12月15日～16日、令和7年2月28日	○	○	-	○	-	5	-	-	4	-	-	2	1	-	-	-	○	
	御所ダム	令和6年6月4日～6日、8月30日、9月10日、12月10日～11日、令和7年2月28日	○	○	○	○	-	7	-	-	2	-	-	2	1	-	-	-	○	
	田瀬ダム	令和6年6月4日～6日5日、13日、9月4日、12月4日～6日	-	○	○	○	-	1	-	2	-	3	-	-	2	1	-	-	-	○
	湯田ダム	令和6年6月4日～7日、9月4日、10月11日、12月2日～5日、令和7年1月30日	○	○	○	○	-	1	-	7	-	2	-	-	2	1	-	-	-	-
	胆沢ダム	令和6年6月4日～6日、9月5日、11月25日～29日	-	○	○	○	-	1	2	-	-	3	3	-	1	3	1	1	-	○
	鳴子ダム	令和6年6月3日～6日、12月1日、8日～10日	-	○	-	○	-	1	1	-	-	4	-	-	1	1	-	-	1	○
中国	菅沢ダム	令和6年6月19日～21日、12月16日～18日	-	○	-	○	-	1	1	-	2	3	1	-	1	1	-	-	-	○
四国	中筋川ダム	令和6年5月27日～31日、6月25日、12月23日～25日	-	○	-	○	-	1	1	-	1	3	1	-	1	1	-	2	-	○
	横瀬川ダム	令和6年5月28日～31日、12月23日～25日	-	○	-	○	-	1	1	-	1	3	1	-	1	1	1	-	-	○
九州	竜門ダム	令和6年6月1日～2日、令和7年1月14日～16日	-	○	-	○	-	1	-	-	-	2	1	1	8	11	1	1	-	○

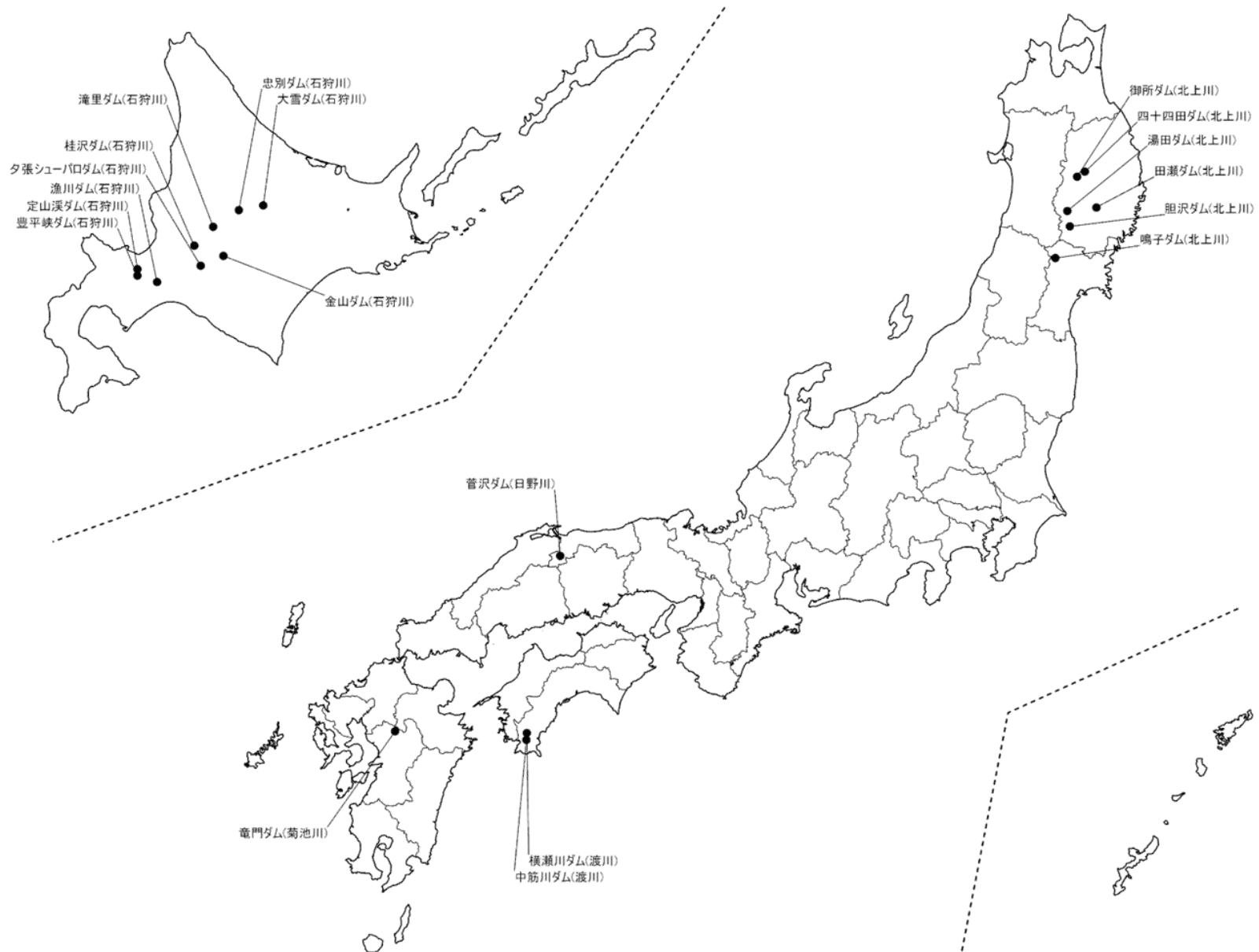


図 5-34 令和6年度(2024年度) とりまとめ対象水系(ダム)位置図(鳥類)  
 ※ダム名(水系名)